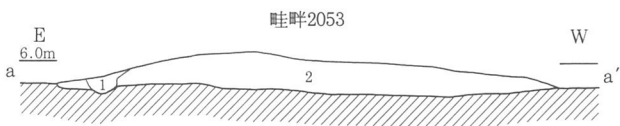
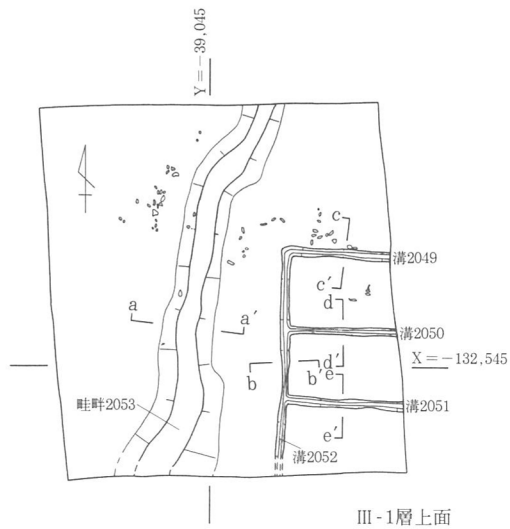
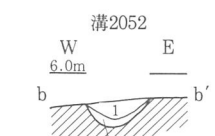


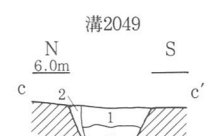
挿図104 1 B トレンチ V層上面 平面・断面図



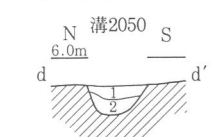
- 1. 黄褐色 2.5Y 5/6 細砂
- 2. 灰色 7.5Y 4/1 粘土



- 1. 灰色 10Y 4/1 粘質土と褐色 10YR 4/4 砂質土が混じる
- 2. 灰色 5Y 4/1 粘土



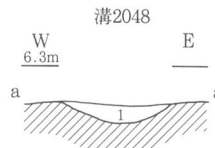
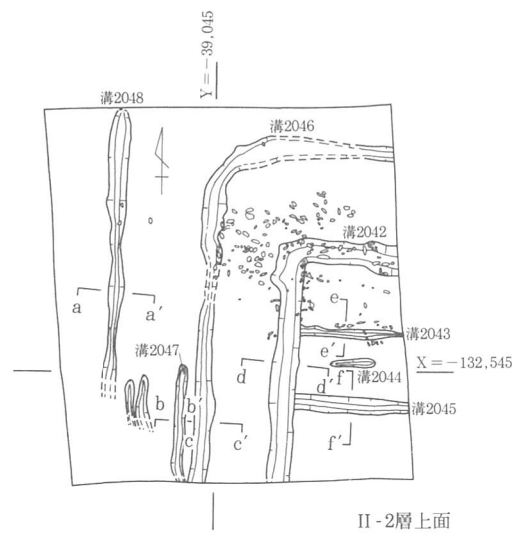
- 1. 灰色 10Y 4/1 粘質土
- 2. 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- 3. 灰色 7.5Y 4/1 粘土



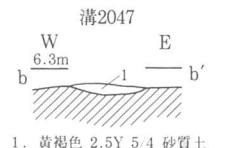
- 1. 灰色 7.5Y 4/1 粘質土
- 2. 暗オリーブ色 2.5GY 4/1 粘質土



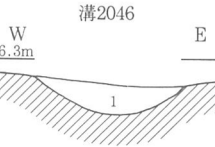
- 1. オリーブ黒色 5Y 3/1 粘質土
- 2. 灰色 5Y 4/1 粘土



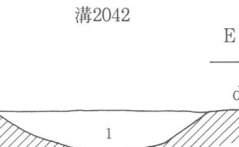
- 1. 黄褐色 2.5Y 5/6 粗砂



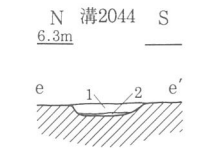
- 1. 黄褐色 2.5Y 5/4 粗砂



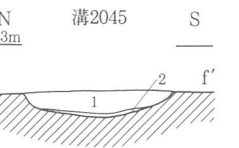
- 1. 黄褐色 10YR 5/8 粗砂



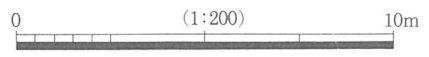
- 1. にぶい黄褐色 10YR 5/3 粗砂



- 1. 黄褐色 2.5Y 5/3 微砂
- 2. 灰色 7.5Y 4/1 砂質土



- 1. オリーブ褐色 2.5Y 4/4 細砂
- 2. 暗緑灰色 10GY 6/1 粘質土

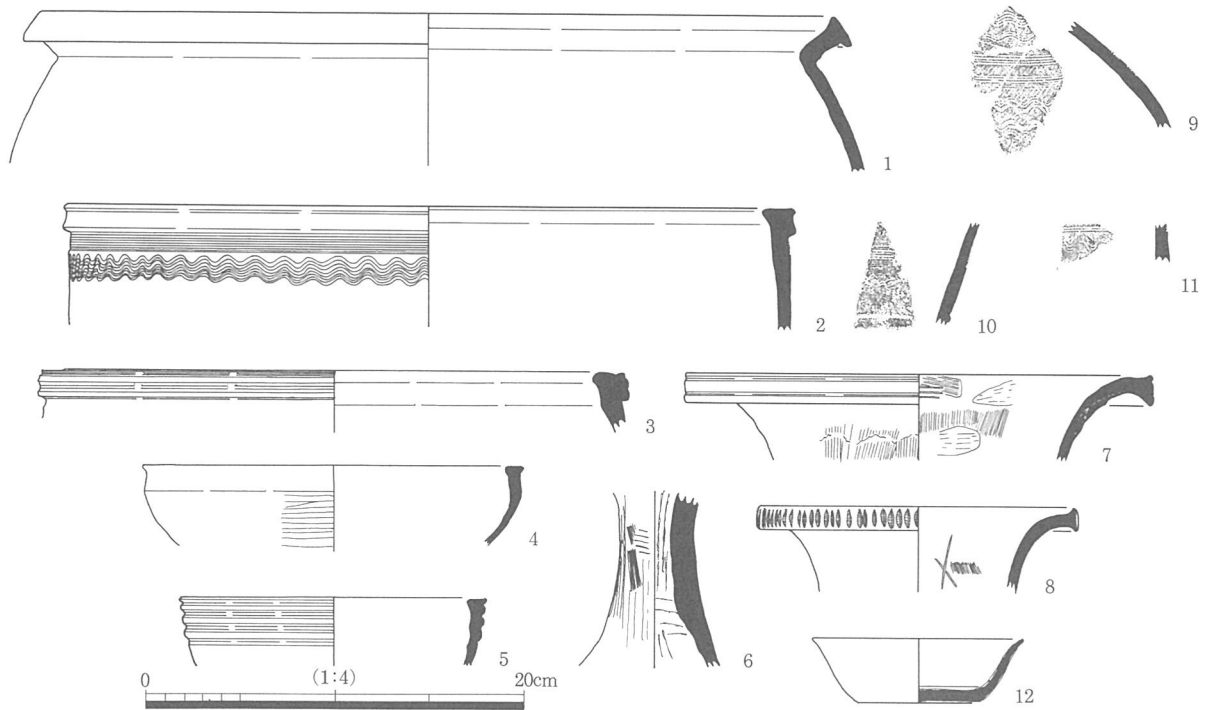


挿図105 1B トレンチ II-2層・III-1層上面 平面・断面図

の畝溝、足跡を検出した。南北方向の畝溝群と道路状遺構は、両者とも南北主軸の振れを同じくすることから同時期に存在したものと考えられる。また東西方向の畝溝は道路状遺構に先行する。

1) 道路状遺構

トレンチ中央部でL字状に並行する2条の溝(溝2042と溝2046)を検出した。溝2046はトレンチ中央南端から北に向かって約9.4m延びたところで90°東へ曲がる。溝2042と溝2046の溝心間距離は2.2~2.5mである。道路状遺構の南北主軸は真北に対し、東へ約4°の振れを持つ。



挿図106 1 Bトレンチ 出土 土器 実測図

2) 畝溝

道路状遺構を挟んで西側に南北溝（溝2047・2048）、東側に東西溝（溝2043～2045）を検出した。溝2047・2048は、本調査トレンチの西約8 mに位置する昨年度調査区の1 Aトレンチで検出した畝溝群と主軸の傾きが一致し、また約2 m間隔で並んだ溝群とほぼ等間隔に並ぶ位置にあることから、一連のものであると考えられる。溝2043～2045は2 m間隔で併走する。道路状遺構に先行する。溝からは遺物が出土していないため、時期的な差は不明である。

(4) 1 Bトレンチ 出土遺物（挿図106, 図版62）

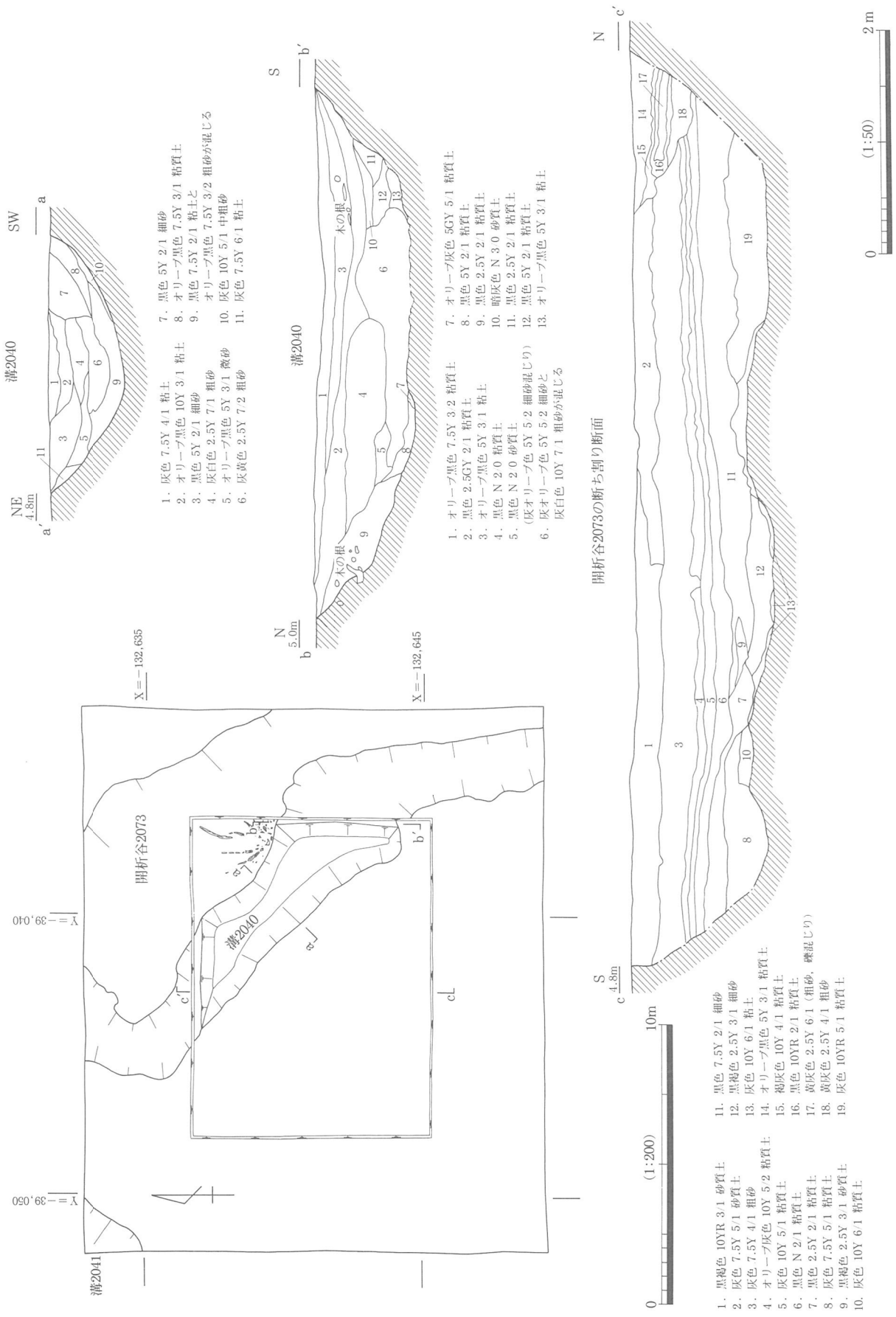
（1・3・4・7・8）は第Ⅲ層、（2・5・6・9～11）は第Ⅳ層、（12）は第Ⅱ層出土である。弥生土器（1～11）壺、甕、鉢、高杯がある。

壺（7～11）（7・8）は広口壺の口縁部片、（9～11）は体部片である。（7）は口縁部の端面に浅くて幅が狭い凹線文を2条施す。（8）は口縁部の端面に刻み目を施す。（9）は波状文と直線文を交互に施文する。原体幅は7 mmで、刷毛目は6条である。（10）は直線文と波状文、凹線文を2条以上を施す。凹線文は幅2 mmの浅いものである。刷毛の原体幅は1.2cmで、刷毛目は10条である。（11）は直線文と波状文を施す。刷毛の原体幅は不明である。

甕（1）（1）は口縁部片である。口縁部が頸部から短く屈曲して続き、端部をつまんでわずかに拡張する。

鉢（2・3・5）いずれも口縁部片である。口縁端部を段状に折り返して厚くするもの（2・3）と碗状の体部から直行する口縁部が続くもの（5）がある。（2）は口縁部から下に直線文と波状文を施す。原体幅は1.2cmで、刷毛目は8条である。（3）は厚くした口縁部の端面に凹線文を2条施す。（5）は口縁部の端面に凹線文を4条施す。

高杯（4・6）（4）は口縁部片である。坏部が屈曲して立ちあがる。口縁部の端面に横なで、以下



挿図107 2Bトレンチ V層上面 平面・断面図

にヘラミガキを施す。(6)は脚部片である。内面にしぼり痕が残る。

白磁(12) (12)は碗である。口縁端部内側の釉を4mm幅で削り取る。13世紀～14世紀代の所産であろう。

2 2Bトレンチ 検出遺構(挿図107・108, 図版48～50・53・56～58・60)

(1) 弥生時代(挿図107, 図版49・50)

第Ⅴ層上面で検出した遺構面である。溝2条と開析谷と思われる自然地形の一端を検出した。

1) 溝

溝2040

トレンチ北中央部から南東部にかけて溝2040を検出した。S字状に屈曲する。断面は碗形を呈し、埋土は灰～黒色系粘土～粘質土と灰色系細砂～砂質土が互層状に堆積する。遺物は出土していない。

溝2041

トレンチ北西端で溝2041を検出した。北東～南西方向に延びる溝である。鋼矢板のすぐ際であるため、平面で確認するにとどめた。この溝は本調査トレンチの西約7mに位置する昨年度調査区である4Aトレンチで検出した溝1652の東延長部にあたる。

2) 開析谷

開析谷2073

トレンチ北東隅で東端を検出した。溝2040検出後、さらに下層の遺構等の有無の確認のため、トレンチ中央部において南北8m、東西1mの範囲で断ち割りを行った。凹凸のある底部分には黒色～灰色粘土、細砂、灰白色粘土が堆積する。その上に粗砂が堆積し、上層になるにしたがって砂質土へと粒度が細くなっていく。土層の堆積状況が、本調査トレンチの西約18mに位置する3Aトレンチで検出した開析谷のものと類似していることから、開析谷の延長部であると判断される。遺物は出土していない。

(2) 中世Ⅰ(挿図108, 図版57・58)

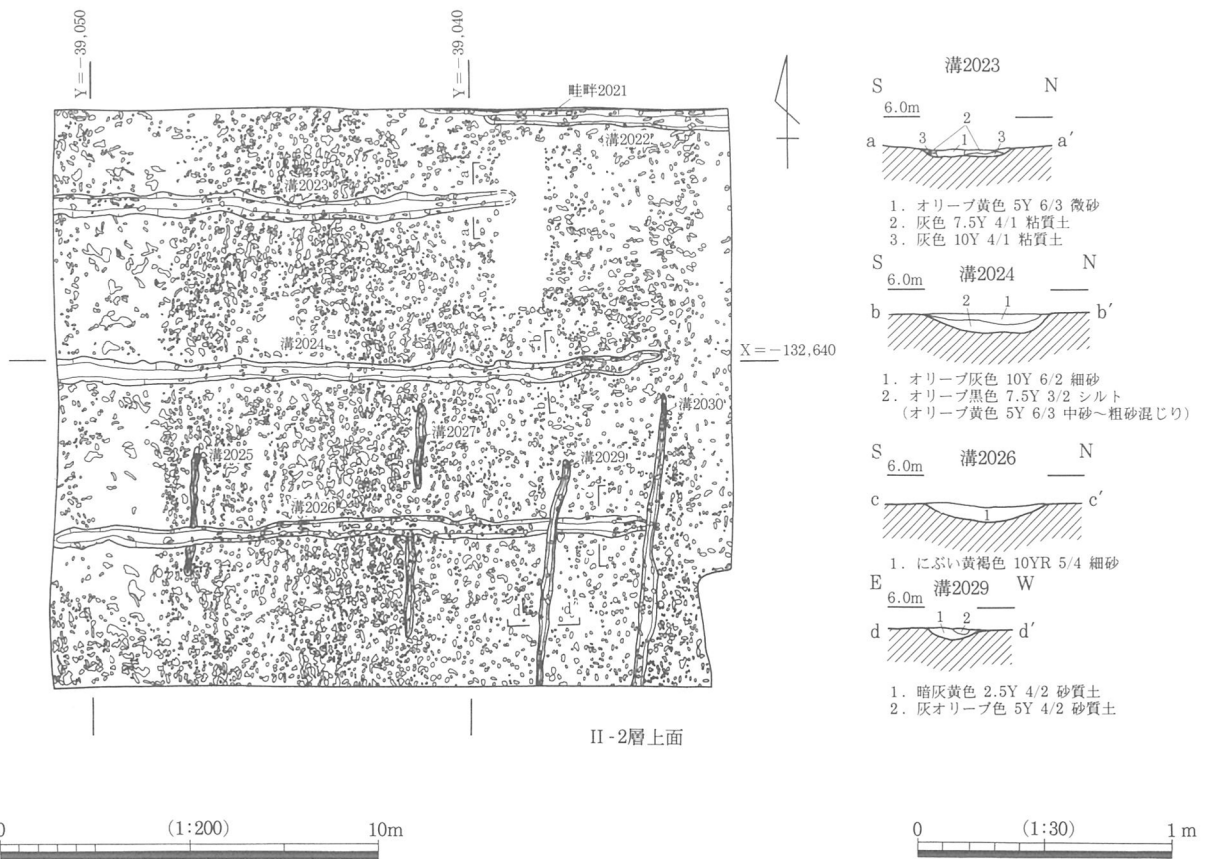
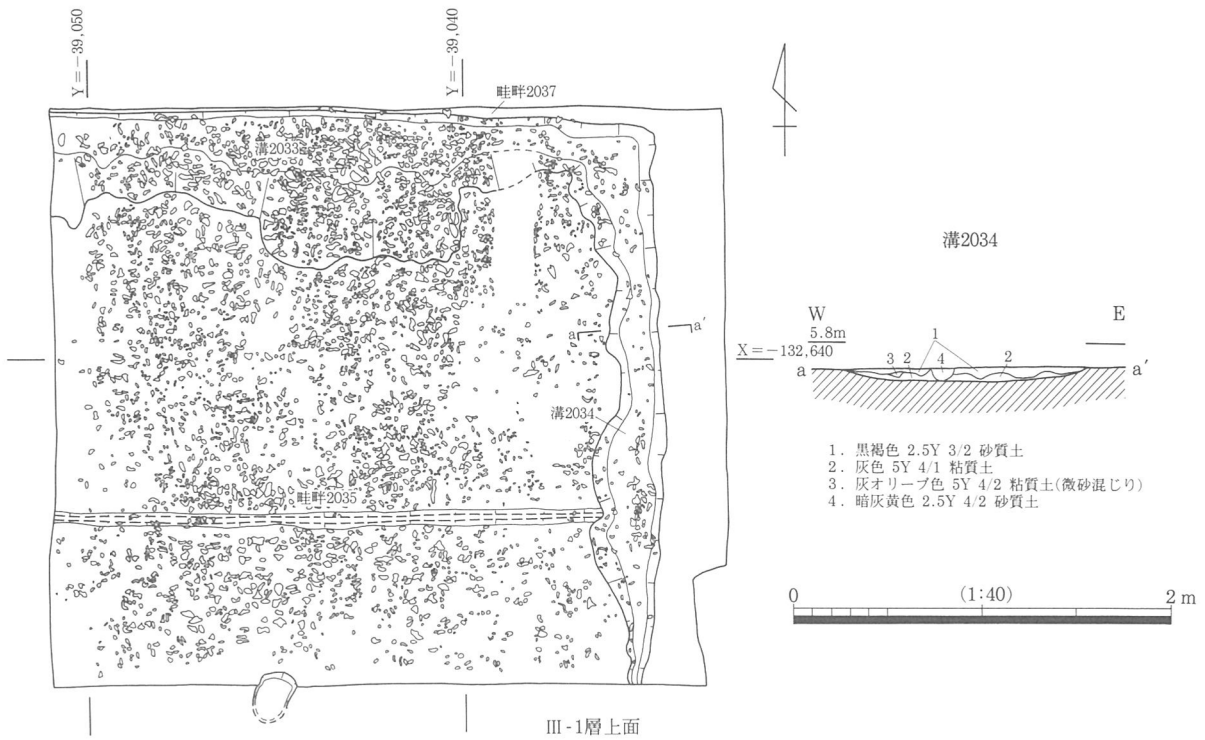
第Ⅲ-1層上面で検出した遺構面である。水田跡と足跡を検出した。

1) 水田跡

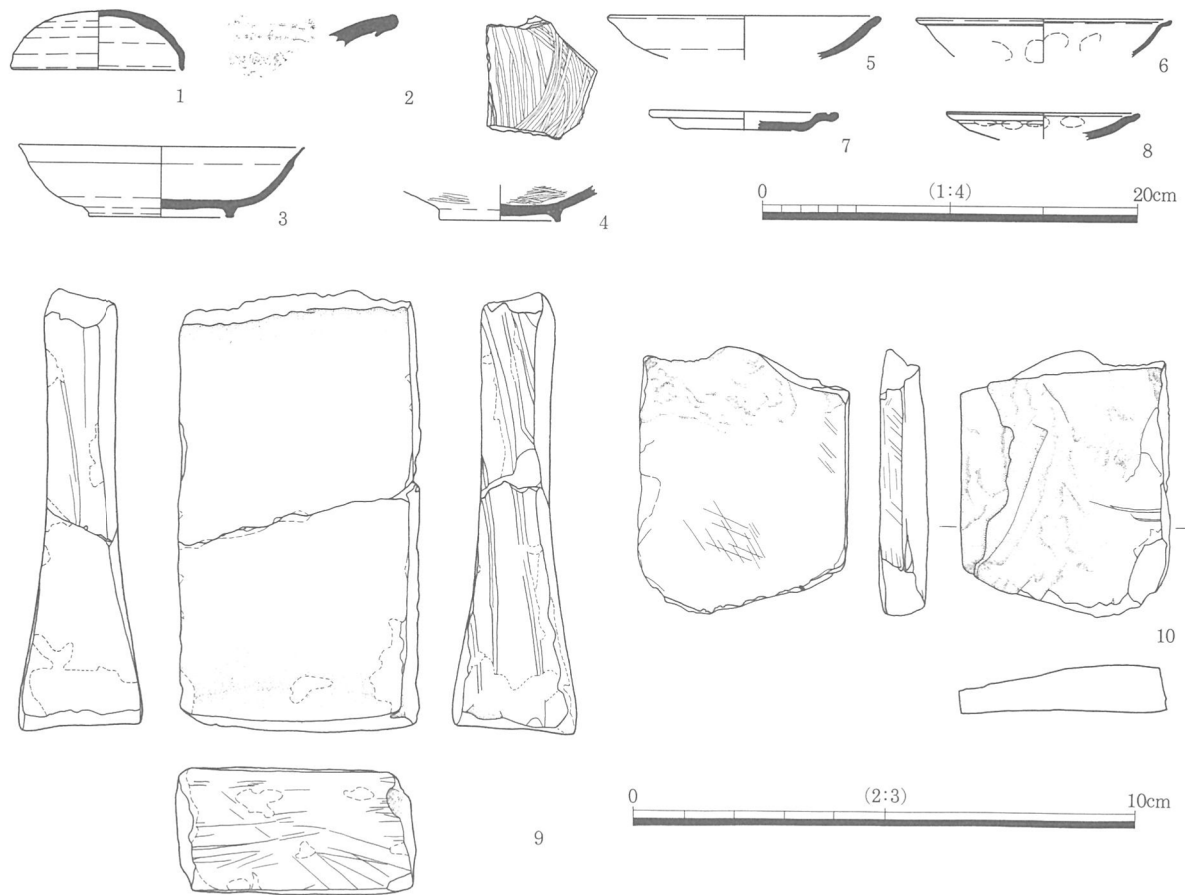
トレンチ北端で畦畔2037、南側で畦畔2035を検出した。その方位はほぼ真東西に一致する。畦畔2035は高まりとして検出することはできず、周辺より色調が一段暗いことから、畦畔の痕跡であると判断したものである。畦畔2037と畦畔2035は、本調査トレンチの西約7mに位置する昨年度調査区の4Aトレンチで検出した畦畔1234と畦畔1245をそれぞれ東に延長した位置にある。水田面の標高は調査トレンチ西端で5.64～5.69m、東端で5.64～5.69mを測る。西から東へ緩やかに0.1mほど下降し、国土座標Y=-39,035.0付近で0.1m前後の段差を生じて東側が高くなる。畦畔間距離は約10.9mである。

2) 溝

畦畔2037の南側に沿って溝2033、トレンチ東部の段差に沿って溝2034を検出した。溝2033と2034は切り合い関係はみられず、連続する溝である。溝の幅は0.4～4mとバラツキがある。トレンチ中央部から畦畔2037と段差にむかって徐々に深くなる。深さは0.35～0.08mである。溝の埋土は、溝2033は灰色系の中砂や粗砂であるのに対し、溝2034は灰色系粘質土の上面に黒褐色の砂質土が堆積する。洪水によって削られた水田面の凹みに洪水砂や砂質土、粘質土が堆積したものである可能性がある。



挿図108 2 B トレンチ II-2層・III-1層上面 平面・断面図



挿図109 2Bトレンチ 出土 土器（1～8）・石器（9・10）実測図

（3）中世II（挿図108，図版60）

第II-2層上面で検出した遺構面である。水田跡と足跡を検出した。

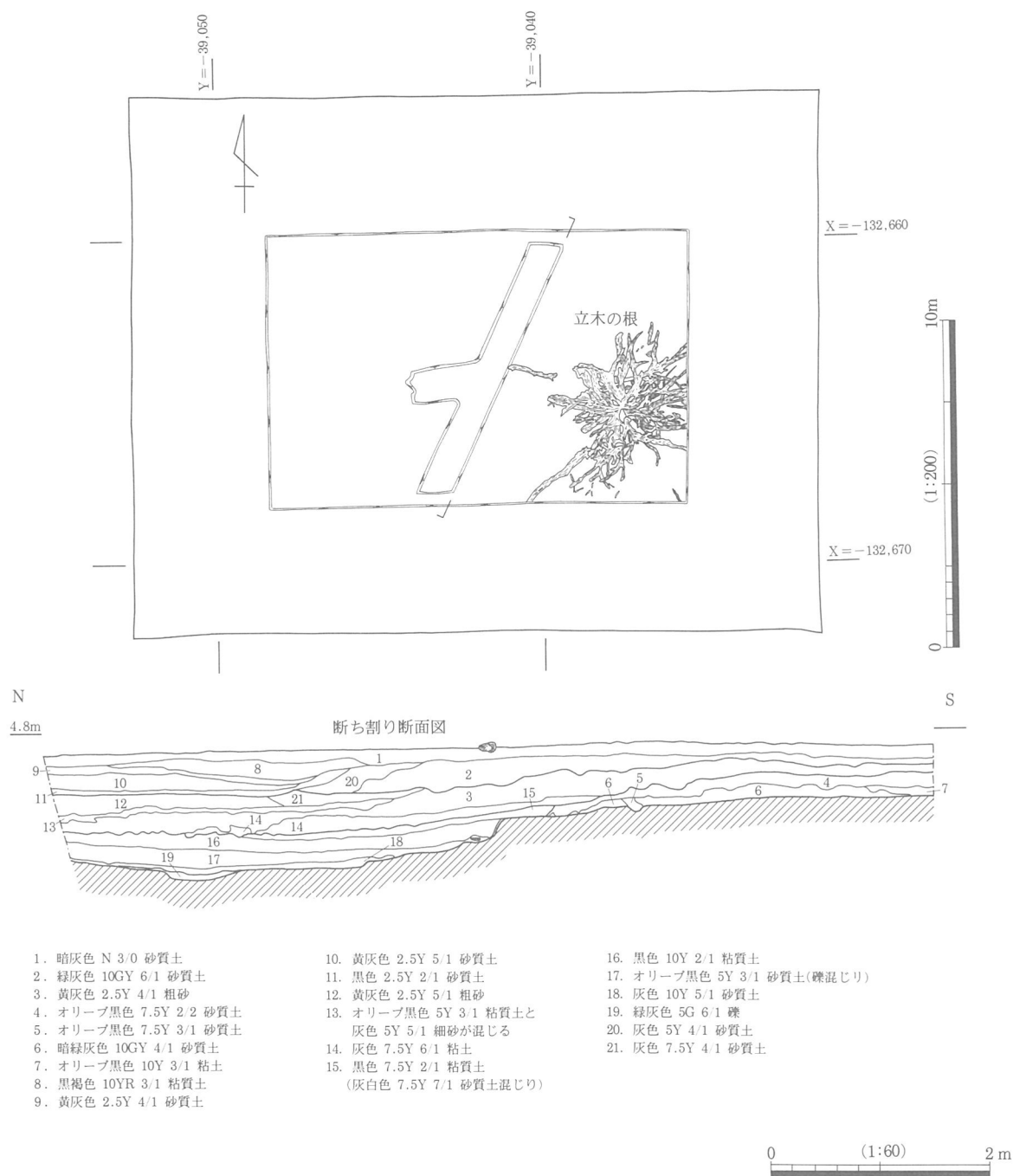
1）水田跡

トレンチ北端で畦畔2021を検出した。その方向はほぼ真東西に一致する。水田面の標高はトレンチ西端で5.90～5.96m、東端で5.80～5.90mを測り、ほぼ平坦である。水田面には多数の足跡のほか南北溝と東西溝が残る。トレンチ南部で南北溝（溝2025・2027・2029・2030）、トレンチ全域で東西溝（溝2022～2024・2026）を検出した。東西溝は北端部の2条間が2.2m、それより南は4.3～4.5mの間隔で畦畔2021に併行する。断面は皿形を呈し、深さは3～7cmである。埋土には灰色系の微砂、細砂が堆積する。南北溝は東から2.6～5.9mの不等間隔で併行する。真北から東に振れを持つ。断面は皿形を呈する。埋土には灰色系の中砂、砂質土が堆積する。また人と牛の足跡を検出した。足跡はトレンチのほぼ全域で検出しているが、西部と北東部で希薄になる。足跡の希薄な部分では、その輪郭は不鮮明である。トレンチ西部には0.6～0.8m間隔で南北方向に歩行した足跡列がある。真北から東に振れを持ち、その一部は畦畔2021のところで方向転換をするかのように東へ緩やかにカーブを描く。

（4）2Bトレンチ 出土遺物（挿図109，図版63）

（1～9）は第III層、（10）は第II層から出土した。

須恵器（1・2） （1）は古墳時代後期（TK217）の坏蓋、（2）は甕の口縁部片である。（2）は口縁端部を外側に折り曲げて肥厚する。口縁部から下に波状文を施す。刷毛目は5条である。



挿図110 3 B トレンチ V層上面 平面・断面図

土師器 (3・5～8) (3)は椀、(5～8)は小皿の口縁部片である。(3)は体部が内湾して立ち上がり、横なので口縁部外面上部がやや外湾して丸くおわる。底部外面には断面台形の高台を張り付ける。(5～8)は口縁部外面を強くなでて外反させ、端部を内側に丸く巻き込む「て」の字状の口縁を持つもの(6～8)と、口縁端部を巻き込まずに丸くおさめるもの(5)がある。(5)は口縁部内側に灯明痕がある。

瓦器椀(4) (4)は底部片である。内・外面に幅2mmの暗文を密に施す。見込み部の暗文は平行線状である。断面台形の高台を張り付ける。

石器(9・10) 両者とも砥石である。(9)は2箇所の長辺には、研磨痕が溝状にあわせて7条残る。

研磨痕は幅1～2mm、深さ1mmである。端面には鋭い刃状のものによる研磨痕が残る。

3 3Bトレンチ 検出遺構（挿図110・111，図版48・51・53・56・58・59・61）

（1）弥生時代（挿図110，図版51）

第V層上面で検出した遺構面である。遺構は確認されなかったが、立木の根を検出した。立木の根の範囲は直径5mに及ぶ。幹の部分は残っていない。腐食し、一部炭化している。立木の根を覆う第IV層からは、縄文時代晩期（船橋式）のほか弥生時代中期（第IV様式）の土器が出土していることから、年代は弥生時代中期以降と考えられる。立木検出後さらに下層で、遺構等の有無の確認のためトレンチ中央部において南北約8m、東西約1mの範囲で断ち割りを行った。その結果、本調査トレンチ北約16mに位置する2Bトレンチで検出した開析谷と同様な土層の堆積状況を確認した。

（2）中世I（挿図111，図版58・59）

第III-1層上面で検出した遺構面である。水田跡、足跡を検出した。

1）水田跡

トレンチ北部で畦畔2015、南部で畦畔2016を検出した。その方位はほぼ真東西に一致する。畦畔間距離は10.8～10.9mである。水田面の標高は調査トレンチ西端で5.52～5.63m、東端で5.48～5.57mを測る。西から東へ緩やかに下降し、国土座標Y＝－39,036.1m付近で0.1m前後の段差を生じて東側が高くなる。また段差上面において南北方向に帯状のうっすらと暗い色調を帯びる部分があり、南北畦畔の存在が考えられる。水田面には人と牛の足跡が残る。

（3）中世II（挿図111，図版61）

第II-2層上面で検出した遺構面である。水田跡と溝を検出した。

1）水田跡

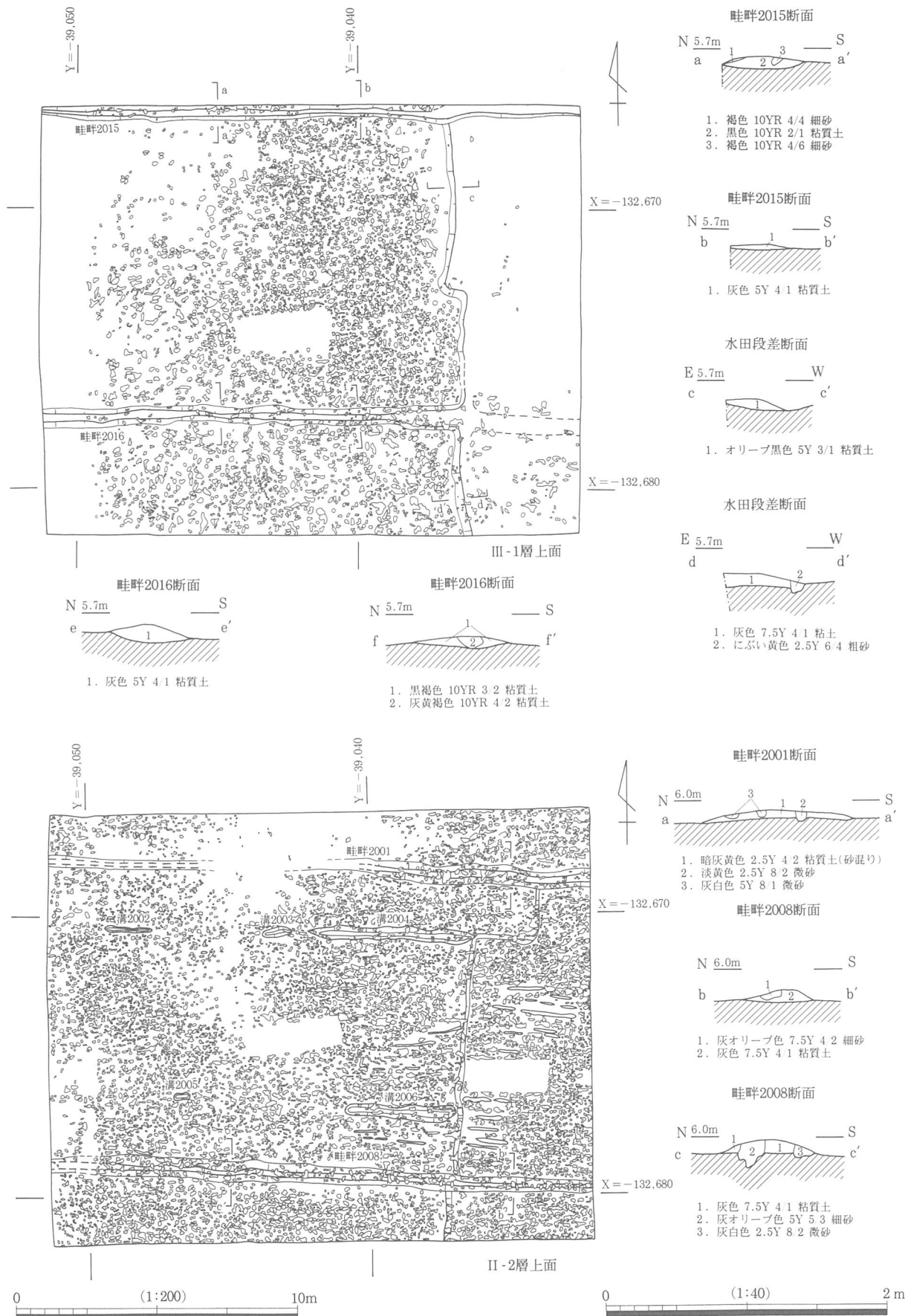
トレンチ北部で畦畔2001、南部で畦畔2008を検出した。その方位は東西で南に2～3°の振れを持つ。畦畔間距離は10.8～11mである。水田面の標高は調査トレンチ西端で5.87～5.89m、東端で5.78～5.81mを測る。西から東へ緩やかに下降し、国土座標Y＝－39,036.75付近で0.05m前後の段差を生じて東側が低くなる。これらの畦畔に連結する南北畦畔は検出されなかった。水田面には大人と子どもの足跡に混じって牛の足跡が全体的に密集してみられる。国土座標Y＝－39,050.0m付近において幅約0.6mの範囲で南北方向に足跡が途切れている部分がある。畦畔の痕跡である可能性がある。トレンチ東部において鋤による起耕痕が残る。鋤溝は畦畔に併走する。鋤溝間距離は0.25～0.45mである。

2）溝

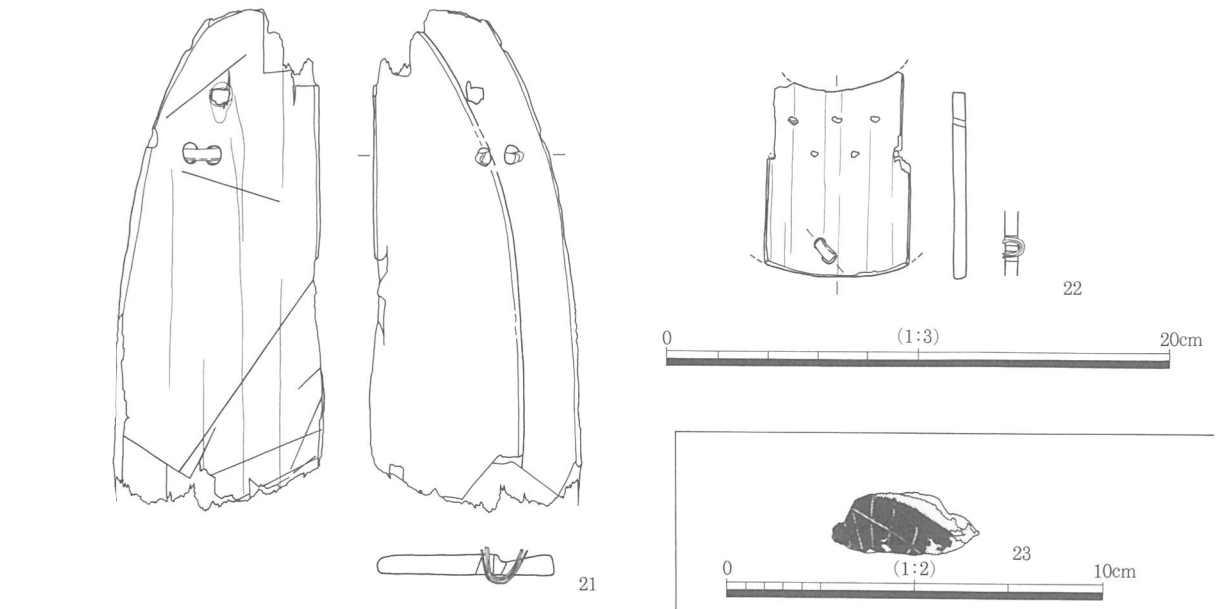
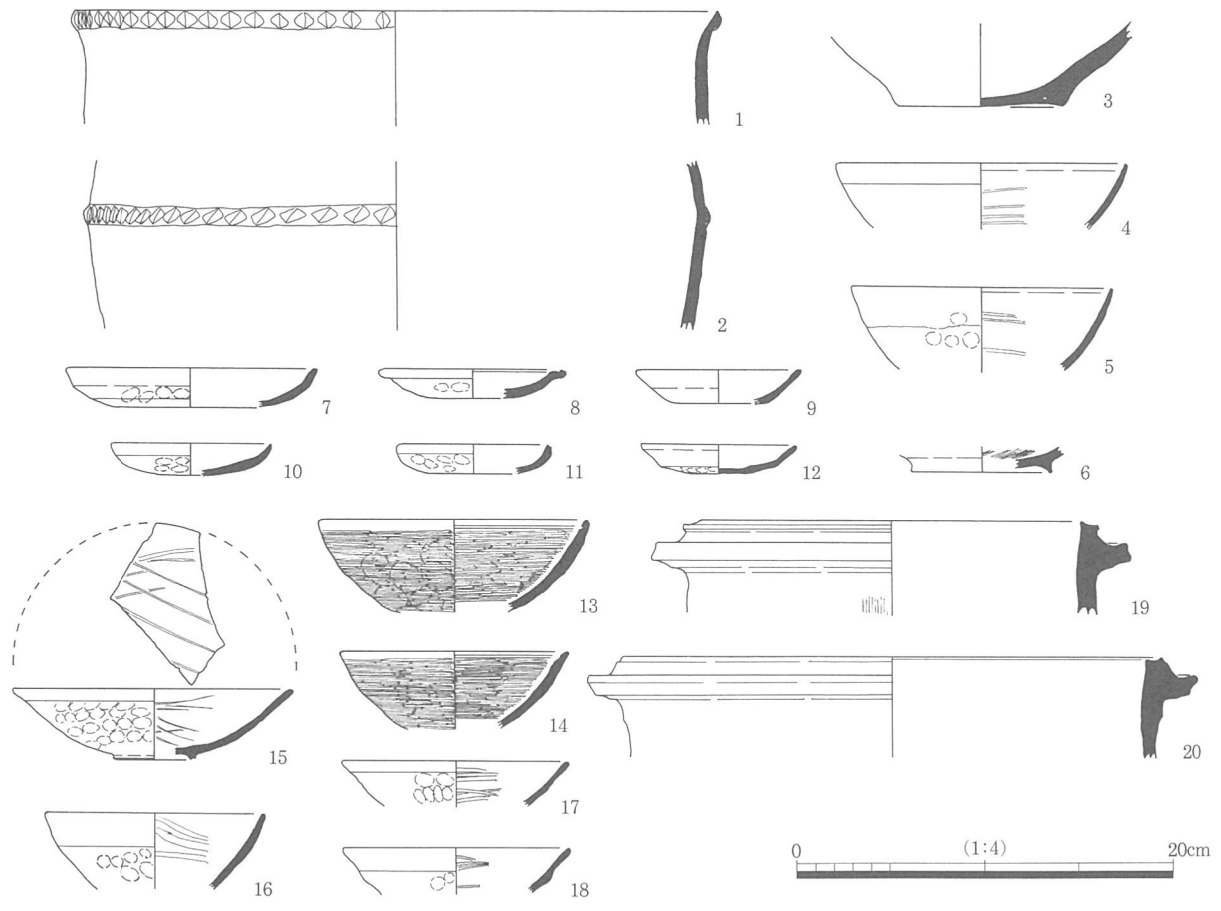
畦畔2001の南側で溝2002～2004、畦畔2008の北側で溝2005・2006を検出した。溝2002～2004は畦畔2001から南約2.2mに位置し、畦畔に並行する東西溝である。灰色～黄褐色の砂が堆積する。深さ0.06mである。溝2005・2006は畦畔2008から北へ2.4～2.6mのところを位置し、畦畔に並行する東西溝である。灰色～黄褐色の砂が堆積する。深さ0.07mである。

（4）3Bトレンチ 出土遺物（挿図112・113，図版62～64）

（112-1・2）は第IV層、（112-4～6・8～10・13・14・18～23，113-1・2）は第III層、（112-



挿図111 3Bトレンチ II-2層・III-1層上面 平面・断面図

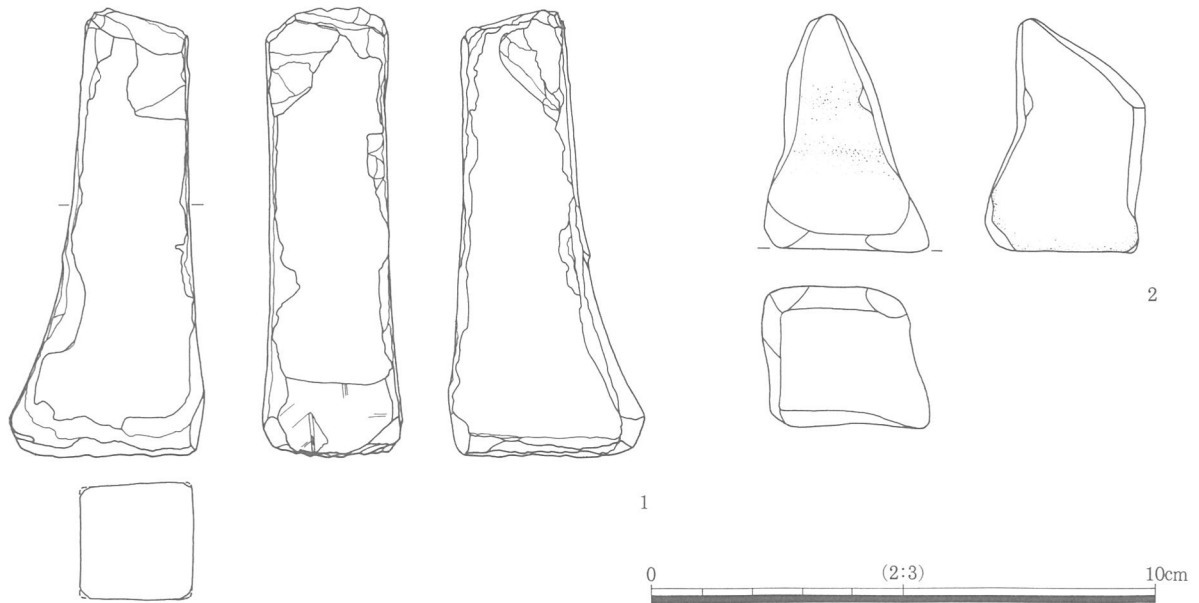


挿図112 3Bトレンチ 出土 土器（1～20）・木器（21・22）漆器（23）実測図

7・11・12・17）は第II層、（112-3・15・16）は第II～IV層から出土した。

縄文土器（1・2）（1）は深鉢の口縁部片、（2）は深鉢の体部片である。（1・2）は同一個体である。口縁端部と体部に粘土紐突帯を張り付け、刻み目を施す。船橋式（晩期）である。胎土は生駒西麓産である。

弥生土器（3）（3）は壺の底部片である。



挿図113 3 Bトレンチ 出土 砥石 実測図

黒色土器（4～6）（4・5）は碗の口縁部片、（6）は碗の底部片である。いずれも内面に黒色処理を施すA類である。（4・5）は内面にヘラミガキを施す。（6）は断面三角形の高台を貼り付ける。見込み部にヘラミガキを施す。平安時代前期の所産である。

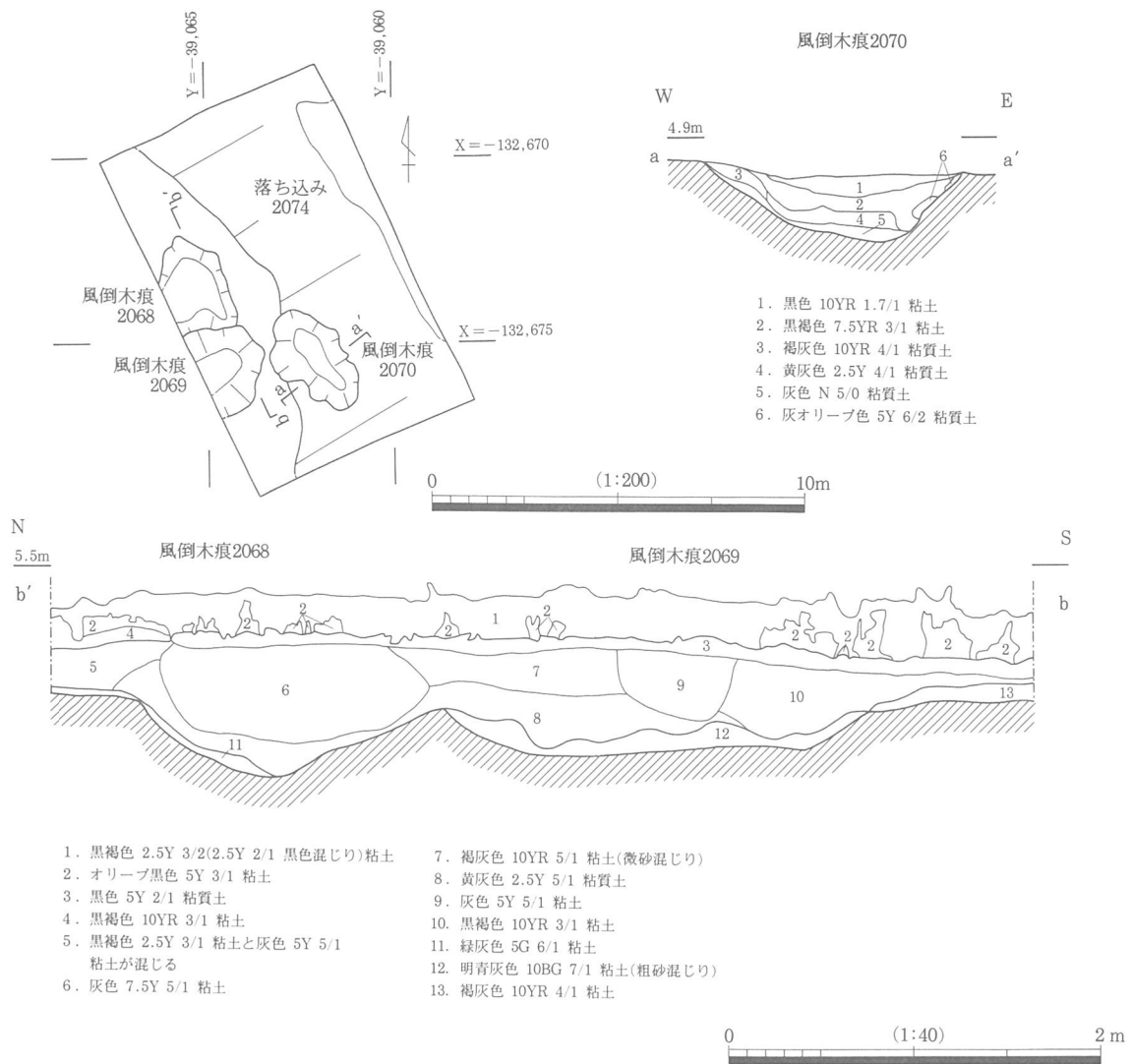
土師器（7～12）（7～12）は小皿の口縁部片である。いずれも手づくね成形である。口縁部外面を横なでし、底部外面は指押さえの痕跡が残る。（8）は口縁部外面を強くなでて外反させ、端部を内側に丸くおさめる「て」の字状の口縁を持つ。

土師質土器（19・20）（19・20）は羽釜の口縁部片である。口縁端部外面に断面方形の罫を張りつける。

瓦器碗（13～18）いずれも口縁部片である。体部が緩やかに内湾し、口縁端部を丸くおさめるもの（13・14）と体部が緩やかに内湾し、口縁部外面を横なでして外反させ、端部を丸くおさめるもの（15～18）がある。（13）は内、外面ともに幅2mm以下の細かいヘラミガキを密に施す。口縁端部内面に沈線を施す。（14）は内、外面ともに幅2mm以下の細かいヘラミガキを密に施す。外面はヘラミガキの前にヘラケズリを施す。口縁端部内面に沈線を施す。（15）は断面台形の低い高台を貼り付ける。見込みから体部にかけて、疎らに幅1.5mmの平行線状の暗文を施す。外面にはヘラミガキを施さず、口縁部以下に指押さえ痕跡が残る。（16）は口縁部内面に幅3mmのヘラミガキを疎らに施す。外面にはヘラミガキを施さない。口縁部外面は横なで以下指押さえの痕跡が残る。（17）は口縁部内面に幅3mmのヘラミガキを疎らに施す。外面にはヘラミガキを施さない。口縁部外面は横なで以下指押さえの痕跡が残る。（18）は口縁部内面に幅1.5mmのヘラミガキを疎らに施す。外面にはヘラミガキを施さない。口縁部外面は横なで以下指押さえの痕跡が残る。

木器・漆器

第Ⅲ層から木器2点（21・22）、漆器1点（23）が出土している。（21）は折敷の底板片である。底板の側面から斜め下に切り込み、直に立ち上げて溝をつくり、溝に側板をはめ込む。底板と側板を樺皮で綴じ合わせて結合させるものと思われる。綴じ穴のそばに孔が1箇所あけられている。外面には刃痕がある。（22）は円板の中央に孔をあけたものと推測される。蒸し器の一部と思われる¹⁾。中央孔の周囲



挿図114 4 Bトレンチ V層上面 平面・断面図

に7箇所あける。(23)は漆器である。黒色系の下地に、内面には朱色漆で文様を描く。

石器

第Ⅲ層から砥石が2点(113-1・2)出土している。(1)は4面とも使用のため磨耗している。(2)は端面にも使用痕が認められる。

4 4 Bトレンチ 検出遺構(挿図114, 図版48・51~55・59)

(1) 弥生時代(挿図114, 図版51・52)

第Ⅴ層上面で検出した遺構面である。遺構は確認されなかったが、風倒木痕を3個、落ち込みを検出した。

1) 風倒木痕

トレンチ西端で風倒木痕2068と2069の一部、トレンチ南部で風倒木痕2070を検出した。いずれも断面でブロック状の第Ⅴ層の下に第Ⅳ層が入り込んでいる状況を確認した。断面の形態から風倒木痕であると判断した。

2) 落ち込み

トレンチ東部で落ち込み2074を検出した。トレンチ中央から東に向かって深くなる。特に深く落ち込んでいく北東端で、深さ0.55mを測る。埋土には暗灰色粘土が堆積する。遺物は出土していない。

(2) 中世 I

機械掘削が第II-2層の半ばまでおよんだため、第II-2層上面の遺構は検出することができなかった。トレンチ西壁面の観察から1～3 B トレンチと同様に第II-2層上面に洪水砂が堆積し、一部が第II-2層に入り込んでいる状況を確認した。

小結

今年度の調査では弥生時代と中世の遺構を検出した。弥生時代は中期以降、中世 I は（平安時代後半～鎌倉時代初頭）、中世 II は（鎌倉時代後半）の年代が当てられる。遺物はすべて包含層から出土したもので、縄文時代～中世の土器、磁器、漆器、木器、石器がある。

弥生時代

溝、ピット、風倒木痕、立木の根、開析谷、落ち込みを検出した。人為的な遺構としてピットと溝が1 B トレンチで検出されたのみである。柱根跡が残るものがあるが、建物として認識できるものはない。2 B・3 B トレンチでは風倒木痕、立木の根、開析谷、落ち込みを検出したにとどまる。本調査地は、東奈良遺跡の北東部に位置する。付近の調査には本調査地の北約15mで大阪府埋蔵文化財協会が調査した府営茨木第1住宅建設に伴う調査と、大阪府教育委員会がその周辺で行った調査があり、墓域と居住域からなる集落の存在が明らかになっている²⁾。今年度調査区と同様に、昨年度調査区でも北側のトレンチでのみ遺構を検出していることから、東奈良遺跡の北東部に位置する集落の様相の一端が明らかになった。

古墳時代

遺構は検出されなかったが、後期の須恵器坏蓋が1点と須恵器甕の小片が1点出土している。本調査地の南約60mで大阪府教育委員会が調査した府営茨木第2住宅建設に伴う調査では、古墳時代後期の掘立柱建物群などが検出され、これまで東奈良遺跡でほとんど知られていなかった時期の遺構がみつかったことで注目されている³⁾。今回の調査ではほぼ同時期の遺物がわずかではあるが出土していることは、東奈良遺跡における古墳時代の集落を考えるうえで興味深い。

中世

中世では2つの遺構面を検出した。中世 I 面では水田区画の畦畔、水田面に多数の人と牛の足跡、溝を検出した。中世 II 面では道路状遺構、畝溝、水田区画の畦畔、鋤溝、水田面に多数の人と牛の足跡を検出した。東西畦畔は中世 I・II面を通じてほぼ同じ位置につくられ、中世2つの段階を通じて条里地割りが維持されていることが明らかになった。畦畔間距離は約10.9mを測り、条里地割りの1町四方を南北に10等分した長地型が復元できる。また本調査地北側の一連の調査で、畑作を示す溝群が検出されており、「畑作は水田耕作の合間の季節的なものではなかったか」との考察がなされている⁴⁾。今回の調査でも中世 II 面において1 B トレンチ、昨年度調査区では1 A トレンチで水田あるいは畑遺構と思われる畝溝群を検出しており、水田耕作と畑作が営まれていたことが考えられる。これらより、本調査地において中世における土地利用の様相が明らかになった。

註

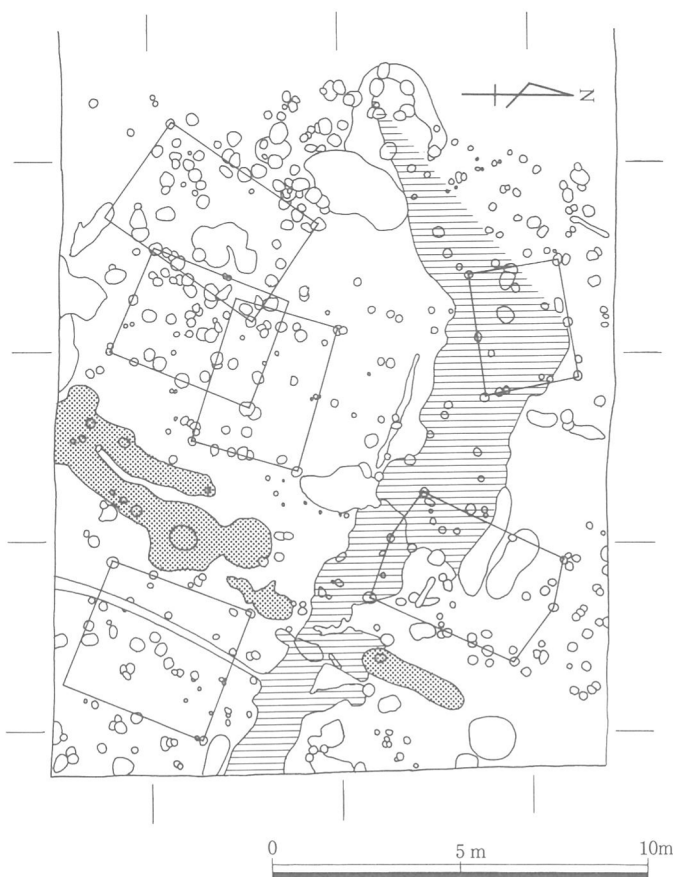
- 1) 奈良国立文化財研究所 『木器集成図録 近畿古代篇』 「奈文研史料第27冊」 1984年
- 2) ①財団法人大阪府埋蔵文化財協会 『東奈良遺跡』 「(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書」第92輯 1995年3月
②大阪府教育委員会 『東奈良Ⅲ・郡遺跡発掘調査概要』 -安威川流域下水道茨木箕面幹線(二)下水管渠工事に伴う発掘調査-1996年3月
- 3) 大阪府教育委員会 『東奈良遺跡発掘調査概要・Ⅱ』 -府営茨木第2住宅建替に伴う-1990年3月
- 4) 2) -②に同じ

第5章 まとめ

1 遺構

(1) 弥生時代

今回の調査で明らかにできたのは一つの居住域とその周囲の様相である。東奈良遺跡はすでに知られている中心的居住域があり、ここからやや離れて中心的居住域を取り囲むようにして点在する小さな居住域（以下居住域と表記する）がある。調査した居住域は柱穴が1000個以上集中して検出されて、掘立柱建物の相当な数が建て替えられて、建物が密集していたと考えられる。掘立柱建物22棟がようやく復元できたが、復元できていない柱穴の数の方が圧倒的に多く、建物の延べ総数は数十棟に達するものと推察される。建物は最多で4期の重複が認められた。居住域の内部は直交する溝によって4区画に分けられており（挿図115）、建物はこの区画する溝に規制される形で建てられているものが多い。建物は比較的大小差が少なく最大の建物でも約20㎡を測り、残りはそれ以下の面積の建物で占められている。今回の調査区では竪穴住居は検出されなかった。居住域の外側は溝や柵な



挿図115 2 A トレンチ 弥生II居住域内部を区画する溝

どの田郭施設は認められなかったが、小溝や土坑などが散在的に分布する様相が明らかになった。この範囲から少量の土器が出土しており、日常生活の活動域と考えられよう。活動域の外側は遺構や遺物の検出量が一段と減少する。活動域の外側では大きな遺構としては灌漑用と考えられる大溝を2条検出ただけである。すなわち居住域を中心にまとめると居住域、活動域、その外側と同心円状に取りまく構造を示して外側ほど遺構、遺物の検出量が段階的に減少する。今回調査した居住域は中位段丘上に立地して、南東側に淀川が形成した後背湿地が接していた。この堆積層の自然科学的分析結果は少量のイネ科イネ属のプラントオパールを検出したが水田跡と認定できなかった。弥生時代ではこのような集落に隣接した低湿地を水田として利用していたことは、今回は断定できなかったが、可能性として充分考えられる。

(2) 古墳時代

この時代は遺構も遺物も希薄である。近隣にこの時代の集落が存在している事を推測させた。調査地南側に位置する1989年度調査で古墳時代集落が明らかにされている個所や、北側に隣接して古墳時代集落が検出されている中条遺跡などとの関連が注目される。

(3) 古代

遺構が検出されなかった。奈良時代後半から平安時代頃にはⅢ層の湿地性堆積層が弥生時代遺構面を覆い始める。湿地性堆積層の自然科学的分析結果はイネ科イネ属のプラント・オパールが検出されている。これは湿地の状況の元でも稲の栽培が行われていた可能性がある事を指摘している。

(4) 中世

中世の初頭頃に、湿地性堆積層であるⅢ-1層上面を開発して調査地一帯の大規模な条里型水田の開発が行われたようだ。このⅢ-1層の時期は出土する遺物で示すと、黒色土器から瓦器へと移行する時期である。Ⅲ層は湿地状堆積層であることから、湿地に溜まる水の排水溝の整備と農業用水の灌漑用水路の新設などの環境整備に労力を投入して、淀川に注ぎ込む中小河川に伴う後背湿地を乾田化している。稲の収穫量の増加と安定化を目的とした大規模開発であろう。Ⅲ層上面から検出された畦は、ほぼ東西南北方向を示して現地表面に見られる条里型水田区画と合致した区画である。中でも調査区中央を通る南北方向の畦は断続的に検出されて、現在の地表面に残る条里型水田から復元した条里制区画に重なっている。水田には畦、鋤溝、人や牛の無数の足跡などが検出された。水田面の足跡は一定方向に並ぶものも認められた。鋤溝の中には牛が唐鋤を牽いたと思われるものも見られた。今回の調査地では中世水田が最多で4面重複していた。Ⅲ-1層上面に条里型水田を施行して以降、方画地割りの水田が現代に至るまでほぼ同じ位置に継承されて、水田を規制し続けている。検出された水田は洪水を被って埋没すると、その度ごとに新しい水田を条里型地割りに従ってほぼ同じ位置に復元している。水田区画や畦の間隔は洪水による埋没毎に少し位置を変えている場合があるし、同じ場合も見られる。

また中世水田は近世以降の水田の畦や水路のありようと少し違っている。中世水田の復元条里の坪境が調査区内を南北に通っているが、この坪境の畦は他の畦の大きさと同じで、大畦ではなかった。また水田面に灌漑用水路がほとんど見られないことから、田越しに農業用水を灌漑する形態であったようだ。条里型水田区画境界が灌漑用水区画の境界となる灌漑用水形態ではないようだ。

(5) 近世

水田が中世から継続している。洪水砂層は中世より一層厚く、頻繁に水田の上に堆積している。

2 遺物

(1) 3Bトレンチ最下層の低湿地層から縄文時代晩期船橋式の深鉢の破片が出土した。生駒西麓産の搬入土器である。同様な土器は今回の調査区より南側の大阪府教育委員会による調査区でも出土しており、付近に縄文時代晩期頃の集落跡が存在することが推定された。

(2) 今回の調査で出土した遺物はコンテナにして約30箱である。これらの遺物の大半は弥生時代中期の土器である。その主要なものを実測・拓本・写真によって資料化することができた。その結果、摂津地域では数少ない弥生時代中期末、Ⅳ-2様式からⅣ-3様式頃の土器群の実態を明らかにすることができた。

(3) Ⅳ様式の土器としては、壺口縁部、壺頸部、高杯杯部外面、高杯脚端部、器台外面等の部分に施される凹線文が盛行している現象が指摘される。しかし同時に、櫛描き波状文、直線文、扇状文、斜格子文が壺口縁部、壺体部、鉢体部等の部分に数多く施されて、櫛描文も盛行している現象が指摘される。しかしながら簾状文土器は出土点数も少なく、生駒西麓産の土器と併せて河内地域の土器が少ない現象が窺えるようだ。

(4) 搬入土器としては、今回資料化した512点の弥生土器の内、産地不明なもの数点、生駒西麓産の土器3点、河内平野部の土器2点、近江の土器2点である。搬入土器の少なさが特徴として上げられ

る。中心的居住域を取り囲む小さな居住域では独自に他地域の集落と交流をほとんど持たなかったようだ。

(5) IV様式の土器に伴って石器、木器未製品が少数出土した。打製石器としては、サヌカイト製の石鏃、同未製品、剥片があり、磨製石器としては磨製石剣、石庖丁、同未製品、太型蛤刃石斧、柱状片刃石斧、柱状両刃石斧、砥石がある。他に叩き石、投弾、攻玉用の石鋸未製品かと推測される紅簾片石石材などもある。この紅簾片岩は刃部の一部が磨耗していたので使用されていたと考えられる。石器は主要な器種が揃っている点の特徴となる。サヌカイトは表面が風化した母岩が搬入されている。石庖丁、石鏃は未製品が出土している。木製品ではえぶり未製品が出土している。

(6) IV様式の土器に伴って、銅鐸形土製品が出土した。鈕の部分欠くものの、鱗の部分を含めた体部破片が2点あり、同一固体のものと考えられた。外面下半部に沈線状の段からなる文様も施されていた。内面下半部には本物の銅鐸と同様に突帯が施されているのが、他の銅鐸形土製品にない特徴である。茨木市内では従前の東奈良遺跡調査での2例、倍賀遺跡の1例に続く4例目の資料である。

(7) 古代中世では須恵器や土師器、黒色土器、瓦器などが出土しているが、出土量は少ない。また金属器、木製品では鉄鎌や下駄が出土している。

参考文献

- 『東奈良』 「発掘調査概報Ⅰ」 東奈良遺跡調査会 1979年
『東奈良遺跡発掘調査概要・Ⅱ』 一府営茨木第2住宅建替に伴う一 大阪府教育委員会 1990年
『東奈良』 「発掘調査概報Ⅱ」 東奈良遺跡調査会 1981年
『東奈良遺跡』 「大阪府茨木市東奈良第2期第1次住宅建替事業に伴う発掘調査報告書」 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1995年
『東奈良Ⅲ・郡遺跡発掘調査概要』 一安威川流域下水道茨木箕面線(二)下水管渠工事に伴う発掘調査一 (財)大阪府教育委員会 1996年
『昭和60年度 発掘調査略報』 茨木市教育委員会 1984年
『昭和62年度発掘調査概報Ⅰ』 茨木市教育委員会 1986年
『平成元年度発掘調査概報』 茨木市教育委員会 1989年
『平成3年度発掘調査概報』 茨木市教育委員会 1991年
大阪府茨木市 『平成8年度発掘調査概報』 茨木市教育委員会 1997年度
『わがまち茨木』 「水利編」 茨木市教育委員会 1991年
『倍賀遺跡発掘調査概要報告書』 一平成4年度発掘調査概報一 茨木市教育委員会 1993年
『弥生土器の様式と編年』 「近畿編Ⅱ」 森岡秀人 寺沢薫編 摂津地域 森田克行 木耳社 1990年
『七日市遺跡(1)』 (弥生・古墳時代遺跡の調査) 一近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書(VII-2) 兵庫県教育委員会 1990年
『芥川遺跡発掘調査報告書』 一縄文・弥生集落跡の調査一 高槻市教育委員会 1995年
『神戸市西区 玉津田中遺跡』 (狭間・唐土地区の調査) 一田中特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書一 兵庫県教育委員会 1995年
三田市 『川除・藤ノ木遺跡』 一武庫川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一 兵庫県教育委員会 1992年
『古曽部・芝谷遺跡』 一高地性集落遺跡の調査一 高槻市教育委員会 1996年
都出比呂志『日本農耕社会の成立過程』第三章 集落の構造 二弥生時代集落の構成 1989年
原口正三 「考古学から見た原始・古代の高槻」 『高槻市史』第1巻 本編1 1977年
田中義昭 「南関東における農耕社会成立をめぐる若干の問題」 『考古学研究』22巻3号 1976年

一 覽 表

表 1	A地区	遺構一欄表	146
表 2	A地区	掘立柱建物一覽表	150
表 3	A地区	出土石器・金属器・土製品・木器一覽表	150
表 4	A地区	出土土器一覽表	152
表 5	B地区	出土土器一覽表	168
表 6	B地区	出土石器・木器一覽表	168
表 7	B地区	遺構一覽表	170

表2-1 A地区 掘立柱建物 一覧表

遺構の種類	番号	トレンチ	地区割り	遺構面	規模長辺(m)	規模短辺(m)	床面積(m ²)	主軸方位
掘立柱建物	1	1A	F10e8,9f8,9	弥生I	2.45	1.5	3.68	N-73°-E
掘立柱建物	2	1A	F10e9	弥生I	4.5	3.85	20.02	N-51°-W
掘立柱建物	3	1A	F10e8,9	弥生I	2.6	1.85	5.07	N-49°-W
掘立柱建物	4	1A	F10e9	弥生I	5.1	3.1	17.98	N-68°-E
掘立柱建物	5	1A	F10e9	弥生I	2.6	2.2	5.72	N-2°-E
掘立柱建物	6	1A	F10e9,f9	弥生I	3.3	2.3	7.59	N-69°-E
掘立柱建物	7	2A	F10h6,7	弥生I	4.05	3.25	13.16	N-20°-W
掘立柱建物	8	2A	F10h6,7g6,7	弥生I	4.85	2.35	11.4	N-9°-W
掘立柱建物	9	2A	F10h9	弥生I	3.5	2.5	8.75	N-57°-W
掘立柱建物	10	2A	F10h9	弥生I	4.05	3.15	12.76	N-59°-W
掘立柱建物	11	2A	F10h9	弥生I	4.7	3.55	16.69	N-58°-W
掘立柱建物	12	2A	F10h8	弥生I	5.1	2.65	13.12	N-63°-W
掘立柱建物	13	2A	F10h8,9g8,9	弥生I	5.45	3.25	17.71	N-64°-E
掘立柱建物	14	2A	F10h8	弥生I	4.4	2.45	9.72	N-83°-W
掘立柱建物	15	2A	F10h9	弥生I	3.55	1.9	6.25	N-83°-E
掘立柱建物	16	2A	F10h8	弥生I	5.1	2.2	10.84	N-64°-W
掘立柱建物	17	2A	F10h6i6	弥生II	4.65	3.1	14.42	N-35°-E
掘立柱建物	18	2A	F10h4,5i5	弥生II	3.9	3.6	14.04	N-23°-E
掘立柱建物	19	2A	F10h5g5	弥生II	4.15	3.15	13.67	N-25°-E
掘立柱建物	20	2A	F10h5,6	弥生II	3.9	2.9	11.31	N-72°-W
掘立柱建物	21	2A	F10h5,6g5,6	弥生II	3.25	2.5	7.8	N-83°-E
掘立柱建物	22	2A	F10h5,6g5,6	弥生II	3.9	3.0	11.7	N-25°-E
柵	1	1A	F10e9	弥生I	4.1			N-65°-E

表3-1 A地区 出土石器 金属器 土製品 木器 一覧表

挿図番号	図版番号	トレンチ	地区	遺構、層名	時期	器種	材質
95-1	43a-1	1A	F10e9II	IV	弥生中期	石庖丁	極細粒凝灰岩
95-2	43a-2	1A	F10e8I	III-2	弥生中期	石庖丁	極細粒凝灰岩
95-3	43a-3	5A		III-2	弥生中期	石庖丁	綠色片岩
95-4	43a-5	2A	F10h8	III-2	弥生中期	石庖丁未製品	頁岩か粘板岩
95-5	43a-4	1A	F10e8	溝1258	弥生中期	石庖丁未製品	細粒凝灰岩
96-1	42b-5	2A	F10h8III	III-2	弥生中期	大型蛤刃石斧	花崗閃緑岩
96-2	42b-7	5A		IV	弥生中期	大型蛤刃石斧	安山岩
97-1	42b-6	1A	F10e8IV	III-2	弥生中期	大型蛤刃石斧	玢岩
97-2	42b-3	2A	F10i7III	III-1	弥生中期	柱状片刃石斧	凝灰岩
97-3	42b-4	1A	F10e8II	III-2	弥生中期	柱状片刃石斧	硅質頁岩か粘板岩
97-4	42b-1	2A	F10i9	III-2	弥生中期	扁平片刃石斧	細粒花崗岩
97-5	42b-2	1A	F10e9II	溝1258	弥生中期	柱状両刃石斧	硅質凝灰岩
98-1	44a-5	2A		ピット737	弥生中期	敲石	砂岩
98-2	44a-6	3A	G10b9	IV	弥生中期	敲石	砂岩
98-3	44a-2	1A	F10e6II,IV	IV	弥生中期	砥石	酸性凝灰岩
98-4	44a-1	2A		土坑588	弥生中期	砥石	砂岩
98-5	44a-3	2A		ピット767	弥生中期	砥石	砂岩
99-1	43b-1	2A	F10h6	土坑1171	弥生中期	剝片	サヌカイト
99-2	43b-5	1A		土坑1263	弥生中期	剝片	サヌカイト
99-3	43b-6	2A	F10h9III	III-2	弥生中期	石鏃未製品	サヌカイト
99-4	43b-2	2A	F10e6	II-1	弥生中期	石鏃	サヌカイト
99-5	43b-3	2A		ピット785	弥生中期	石鏃未製品	サヌカイト
99-6	43b-7	2A	F10h7IV	III-2	弥生中期	角錐状石器	サヌカイト
99-7	43b-4	1A	F10e9IIIV	III-2	弥生中期	磨製石剣	硅質粘板岩
99-8	44a-4	2A	F10h7III	III-1	弥生中期	投弾	砂岩
100-1	47a-1	1A	F10d7II	III-2	中世	鉄鎌	鉄
100-2	47a-2	4A	G10e8I	II-2	中世	鉄鎌	鉄
100-3	47b-3	2A	出土地不明	IV	中世	鉄釘	鉄
100-4	47b-1	1A	F10d8III	I	中世	刀子状鉄製品	鉄
100-5	47b-2	3A	G10h8	III-2	中世	用途不明鉄製品	鉄
101-1		3A	G10a7	III-2	弥生中期	用途不明土製品	
101-2	42a-1	2A	F10h8III	III-2	弥生中期	紡錘車	
101-3		1A	F10e8	溝1258	弥生中期	紡錘車	
101-4	42a-2	2A	F10h8II	III-2	弥生中期	紡錘車未製品	
101-5	巻頭カラー	3A	G10a9	III-2	弥生中期	銅鐸形土製品	
102-1	46a-1	3A	G10h8	III-2	中世	板状木製品	
102-2	46a-3	2A		土坑1171	弥生中期	しゃもじ状木製品	
102-3	46a-2	2A	F10h6	土坑1171	弥生中期	えぶり未製品	
103	45b	1A	F10e7III	III-1	中世	下駄	

表2-2 A地区 掘立柱建物 一覧表

遺構の種類	番号	時代	遺構挿図	遺構写真	構成するピット
掘立柱建物	1	弥生	8 9	2-c 3-b	1491,1509,1363
掘立柱建物	2	弥生	8 9	2-c	1331,1330,1335,1336,1338,1299,1315,1313,1302
掘立柱建物	3	弥生	8 10	2-c 3-b	1499,1511,1296,1503
掘立柱建物	4	弥生	8 10	2-c	1339,1345,1320,1337,1479
掘立柱建物	5	弥生	8 11	2-c	1312,1319,1303,1307,1494
掘立柱建物	6	弥生	8 11	2-c	1300,1297,1277,1287,1291
掘立柱建物	7	弥生	16 18	5-b	983,988,1000,980,1002,1035,1736
掘立柱建物	8	弥生	16 18	5-b	975,305,991,317,982,854
掘立柱建物	9	弥生	16 19	5-a 6-a	754,763,672,813,770,798,1705
掘立柱建物	10	弥生	16 19	5-a 6-a	714,674,594,808,665,797,1723,652
掘立柱建物	11	弥生	16 20	5-a 6-a	678,621,762,669,811,803,773,654
掘立柱建物	12	弥生	16 20	5-a 6-a	1155,455,822,526,569,512,485
掘立柱建物	13	弥生	16 21	5-a	1710,1089,613,410,606,540,423
掘立柱建物	14	弥生	16 21	5-a	535,450,1137,570,513,481
掘立柱建物	15	弥生	16 22	5-a 6-a	656,664,625,587,650,641,688,583
掘立柱建物	16	弥生	16 22	5-a 6-a	547,1133,553,522,467
掘立柱建物	17	弥生	17 23	7-ab 8-cd	499,478,873,218,240
掘立柱建物	18	弥生	17 23	7-ab 8-b 9-b	119,106,102,130,84,124,909
掘立柱建物	19	弥生	17 24	7-ab 8-c	278,353,899,340,281,335,284,294,316
掘立柱建物	20	弥生	17 24	7-ab 9-b	260,256,150,245,236,228,175
掘立柱建物	21	弥生	17 25	7-ab 9-a	386,365,367,392,359,351
掘立柱建物	22	弥生	17 25	7-ab 8-c	203,211,859,252,861,184,232
柵	1	弥生	8 11	2-c 7-ab	1501,1294,1290

表3-2 A地区 出土石器 金属器 土製品 木器 一覧表

挿図番号	外面の色調	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	特徴
95-1	7.5Y5/1灰色	3.7	9.4	0.6	刃部は外湾し背部は弧状を呈する
95-2	2.5Y5/2暗灰黄色	4.0	5.6	0.8	研磨痕有り,刃部欠損刃こぼれ
95-3	2.5GY6/1オリーブ灰色	3.4	4.65	0.7	両端欠損
95-4	5B4/1暗青灰色	3.7	9.0	1.2	表裏共に研磨痕が多く見られる
95-5	N6/0灰色	6.3	9.9	1.0	研磨痕が両面に見られる
96-1	2.5Y5/3黄褐色	8.9	7.7	5.3	基部欠損,敲打痕は認められない
96-2	N4/0灰色	10.5	7.1	5.5	基部欠損,刃部片側欠損
97-1	N6/0灰色	11.1	6.6	3.2	太型蛤刃石斧基部と側面の一部が残る
97-2	5GY8/1灰白色	5.0	3.0	2.3	敲打痕有り
97-3	10BG5/1青灰色	7.7	2.7	3.8	敲打痕研磨痕有り,植物遺体付着
97-4	2.5Y7/1灰白色	2.7	4.2	2.0	敲打痕有り,扁平片刃石斧先端部
97-5	N7/0灰白色	6.3	2.5	2.2	柱状両刃石斧基部及び刃部先端部欠損
98-1	N6/0灰色	8.1	11.2	3.6	中央に指の痕と見られる窪み有り
98-2	2.5Y6/1黄灰色	8.1	7.1	3.1	
98-3	10YR7/4にぶい黄橙色	4.3	4.5	2.1	
98-4	2.5GY7/1暗オリーブ灰色	6.3	5.8	3.5	
98-5	10YR6/1褐灰色	6.1	3.3	2.2	四面使用した痕跡有り
99-1	N3/0暗灰色	6.0	3.8	1.1	
99-2	N4/0灰色	7.8	11.2	2.0	
99-3	N3/0暗灰色	4.4	2.7	0.9	先端部欠損
99-4	2.5Y4/1黄灰色	2.0	1.5	0.3	凹基式石鏃
99-5	5GY2/1オリーブ黒色	4.3	2.2	0.7	先端部欠損
99-6	5Y5/1灰色	5.3	1.5	0.6	刃先端が欠損して丸みを帯びている
99-7	10Y4/1灰色	3.2	2.1	0.9	表裏共に多数の研磨痕有り
99-8	7.5Y6/1灰色	5.2	3.6	3.5	
100-1	柄1.45 0.35	18.6	13.1	0.3	
100-2	柄1.7 0.3	20.7	9.0	0.3	刃部先端欠損
100-3		15.9	0.9	0.9	縦方向に僅かな凹みのある面が1つある
100-4	柄0.6 0.5	10.6	23.0	0.4	刃部先端欠損
100-5		13.9	0.7	0.4	
101-1	10YR8/2灰白色	4.5	3.5	1.7	
101-2	2.5Y6/3鈍い黄色	4.9	4.9	0.9	
101-3	10YR8/2灰白色	2.4	2.4	0.5	
101-4	10YR8/2灰白色	3.2	2.8	0.6	
101-5	2.5Y8/3浅黄色	5.2	6.7	4.4	
102-1		92.8	9.8	2.8	
102-2		22.4	5.0	0.8	
102-3		38.4	23.3	5.7	
103		17.9	7.3	3.0	

表4-2 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径などcm	器高残存高cm
59-1	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	剝離の為不明	14.8	6.0
59-2	7.5YR7/2明褐灰色	良好	表面-ハケ、ヘラ磨き	16.6	4.5
59-3	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-横ナデ、縦ハケ、ヘラ磨き 裏面-ナデ	13.2	7.0
59-4	10YR4/1褐灰色	良好	裏面-ハケ、指頭圧痕、ヘラ削り	9.2	4.5
59-5	10YR6/1褐灰色	良好	剝離しているが、ナデが少し残っている	22.0	2.6
59-6	7.5YR7/2明褐灰色	良好	上部に黒斑がある	20.2	2.0
59-7	10YR5/1褐灰色	良好	剝離の為不明	15.9	3.1
59-8	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	剝離の為不明	20.1	2.9
59-9	2.5Y8/3浅黄色	良好	剝離の為不明	14.3	2.6
59-10	10YR8/2灰白色	良好	表面-縦ハケ 裏面-ナデ	14.8	1.8
59-11	10YR8/2灰白色	不良	取手部に指押さえらしきものがある	1.0	1.0
59-12	2.5Y8/3浅黄色	良好	表面-横ナデ、ヘラ削り 裏面-横ナデ、縦ハケ	24.8	5.3
59-13	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-ナデ、縦ハケ 裏面-ナデ	24.2	2.2
59-14	5YR8/4淡褐色	良好	剝離の為不明	24.9	2.4
59-15	10YR7/2鈍い黄褐色	不良	磨滅の為不明	21.9	2.5
59-16	2.5Y7/4浅黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	28.1	2.3
59-17	10YR5/1褐灰色	良好	表面-ナデ、端部に黒斑	16.6	2.4
59-18	10YR8/3浅黄褐色	良好	剝離の為不明	36.7	1.6
59-19	2.5Y6/1黄灰色	良好	裏面-ヘラ削り、横ハケ	17.0	4.2
59-20	7.5YR7/1明褐灰色	良好	剝離の為不明	39.2	5.0
59-21	10YR4/1褐灰色	良好	表面-ハケ	24.0	1.2
59-22	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-指頭圧痕	13.6	4.3
59-23	10YR7/4鈍い黄褐色	良好	不明	18.0	2.5
59-24	10YR8/3浅黄褐色	良好	裏面-横ナデ	22.2	3.6
59-25	2.5Y7/1灰白色	良好	不明	5.4	6.0
59-26	2.5Y8/1灰白色	良好	不明	16.4	4.4
60-1	7.5YR8/3浅黄褐色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
60-2	5Y4/1灰色	良好	表面-文様間へら磨き 裏面-斜刷毛目		
60-3	10YR8/3浅黄褐色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-横刷毛目		
60-4	10YR8/3浅黄褐色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
60-5	7.5YR7/3鈍い褐色	やや良好	表面-縦刷毛目 裏面-剝離不明		
60-6	10YR6/2灰黄褐色	良好	表面-ナデ調整 裏面-刷毛目		
60-7	2.5Y5/2暗灰黄色	やや良好	表面-刷毛目 裏面-剝離不明		
60-8	2.5GY4/1暗オリーブ灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
60-9	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
60-10	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-縦刷毛目		
61-1	10YR7/1灰白色	良好	表面-指頭圧痕、ナデ 裏面-ナデ	1.8	3.3
61-2	10YR8/3浅黄褐色	不良	表面-ナデ 裏面-ナデ	11.2	7.2
61-3	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ	17.6	1.7
61-4	10YR8/3浅黄褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	24.6	1.7
61-5	10YR7/4鈍い黄褐色	良好	表面-横ナデ	22.7	1.8
61-6	2.5Y8/1灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	22.2	2.7
61-7	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-ナデ	12.8	1.4
61-8	2.5Y7/2灰黄色	良好	剝離の為不明	13.2	1.6
61-9	7.5YR6/2灰褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-ナデ	19.9	2.3
61-10	2.5Y8/1灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	18.1	1.7
61-11	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	表面-ハケ、横ナデ 裏面-ハケ、横ナデ、指頭圧痕、指押	18.2	6.2
61-12	5YR6/1褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	19.0	1.8
61-13	7.5YR8/4浅黄褐色	良好	表面-ナデ ヘラミガキ 裏面-ヘラ削り 剝離の為不明	10.0	9.9
61-14	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	表面-縦ハケ、横ハケ 裏面-縦ハケ、横ハケ	16.0	15.2
62-1	7.5YR7/3鈍い褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	17.8	3.6
62-2	10YR8/2灰白色	良好	表面-横ナデ、ナデ、指頭圧痕 裏面-ハケ、横ナデ	9.5	6.4
62-3	7.5Y4/1灰色	良好	表面-横ナデ、ヘラ削り、指頭圧痕 裏面-横ナデ	8.0	6.7
62-4	10YR8/2灰白色	良好	表面-縦ハケ、横ナデ 裏面-ナナメハケ、横ナデ	16.9	4.4
62-5	2.5Y4/1黄灰色	良好	表面-縦ハケ、横ナデ 裏面-ヨコハケ、横ナデ	12.9	3.7
62-6	10YR6/2灰黄褐色	良好	表面-タタキ痕跡 裏面-横ハケ	3.2	2.7
62-7	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	表面-タタキ痕跡、ハケ、横ナデ、ナデ 裏面-縦ハケ ナデ	17.2	5.0
62-8	5YR7/4鈍い褐色	良好	表面-横ナデ、縦ハケ 裏面-横ナデ	23.9	5.7
62-9	2.5YR6/6褐色	良好	剝離の為不明	36.0	4.2
62-10	7.5YR7/2明褐灰色	良好	表面-ヘラ削り、ナデ 縦ハケ 裏面-縦ハケ	15.2	8.8
62-11	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-縦ハケ、横ナデ、横ハケ 裏面-ヘラ削り 横ナデ	15.0	8.4
63-1	10YR5/1褐灰色	良好	表面-ヘラ磨き ヘラ削り 裏面-横ナデ 横ハケ ミガキ	30.2	6.7
63-2	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	表面-横ナデ、縦ハケ 裏面-横ナデ	23.1	4.3
63-3	10YR4/1褐灰色	良好	表面-ヘラ磨き 裏面-ナデ	28.2	4.3
63-4	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-横ナデ ヘラ磨き 裏面上部-横ナデ ヘラ磨き	27.7	3.2

表4-4 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径などcm	器高残存高cm
63-5	10YR7/1灰白色	良好	剝離の為不明	25.4	3.2
63-6	2.5YR6/6橙色	良好	表面-縦ハケ、横ナデ 裏面-横ナデ	28.6	8.5
63-7	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ヘラ磨き、横ナデ 裏面-ヘラ磨き、横ナデ	44.6	5.6
63-8	10YR4/1褐灰色	良好	裏面-横ナデ、緻密なヘラ磨き	12.8	3.5
63-9	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-横ヘラ削り	18.0	5.3
63-10	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-剝離の為不明 裏面-指頭圧痕	8.6	1.9
63-11	10YR7/1灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ ヘラ削り	19.0	2.2
64-1	10YR8/3浅黄橙色	良好	裏面-刷毛目		
64-2	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-縦刷毛目		
64-3	10YR8/4浅黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-横刷毛目		
64-4	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-刷毛目		
64-5	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-横刷毛目		
64-6	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-刷毛目		
64-7	10YR6/4明黄褐色	良好	表面-ナデ調整、刷毛目		
64-8	5YR7/4鈍い橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-縦刷毛		
64-9	7.5YR8/4浅黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-刷毛目		
64-10	2.5Y4/2暗灰黄色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
64-11	7.5YR8/2浅黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-肩部指圧痕		
64-12	7.5YR8/4浅黄橙色	やや不良	表面-剝離不明 裏面-粘土紐痕		
64-13	7.5YR8/4浅黄橙色	良好	表面-口縁下垂部作成の裏-横ナデ		
64-14	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ		
64-15	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-斜刷毛目 裏面-斜刷毛目		
64-16	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
65-1	10YR6/4明黄褐色	良好	表面-ナデ 縦ハケ 裏面ナデ 横ハケ	25.0	21.2
65-2	10YR7/4鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ、横ナデ、縦ハケ 裏面-ナデ、横ナデ ヘラ削り	13.3	14.5
65-3	7.5YR7/2明褐灰色	良好	表面-ヘラ磨き、横ハケ	16.6	4.5
65-4	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-縦ヘラ磨き 裏面-ヘラ削り 裏-横ナデ	14.4	7.1
65-5	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-ヘラ削り、ヘラ磨き、ナデ 裏面-ハケ	10.6	4.8
65-6	10YR8/4浅黄橙色	良好	表面-横ナデ 縦ハケ 裏面-横ナデ	29.4	3.4
65-7	5YR6/2鈍い橙色	良好	表面-横ナデ、ヘラ磨き 裏面-横ナデ、ヘラ磨き	35.7	4.8
65-8	10YR8/2灰白色	良好	表面-縦ハケ、横ナデ 裏面-横ナデ、縦ハケ	13.2	4.7
65-9	7.5YR6/6橙色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	27.5	2.7
65-10	7.5YR8/2灰白色	良好	表面-縦ハケ、横ナデ 裏面-剝離の為不明	11.4	3.9
65-11	2.5Y8/1灰白色	良好	表面-縦ヘラ削り、横ナデ、縦ハケ 裏面-ヘラ削り、横ナデ	9.2	7.2
65-12	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-タタキ、縦ハケ、磨き 裏面-ハケ、指押さえ痕	22.8	19.4
65-13	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-タタキ、指圧痕 裏面-煤付着	16.8	12.9
65-14	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	表面-ヘラ削り、横ナデ 裏面-縦ハケ、指頭圧痕	5.0	7.4
65-15	10Y8/1灰白色	浅い	剝離の為不明	34.7	18.5
66-1	10YR6/3鈍い黄橙色	良好	裏面-ナデ、粘土板のつなぎ目が残る	29.2	4.1
66-2		良好	裏面-横ナデの後ハケ目 表面-縦ハケの後横ハケ	9.4	4.6
66-3	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面、裏面口縁部-ナデ 表面-縦ナデ 裏面-縦ハケ	16.2	4.1
66-4	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-横ナデ、煤付着 裏面-横ナデ	19.2	2.1
66-5	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	裏面-横ハケの後横ナデ	10.3	7.0
66-6	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面口縁部-ナデ 頸部-横ナデ、指頭圧痕 裏面-横ハケ	22.8	7.3
66-7	2.5Y7/2灰黄色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	18.3	1.4
66-8	5YR6/1褐灰色	良好	表面口縁部、頸部-ナデ 表面-縦ハケ 裏面-ナデ	29.6	4.8
66-9	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面体部-縦ハケ 裏面体部-ナデ、指頭圧痕	24.2	4.7
66-10	2.5Y6/2灰黄色	良好	表、裏面口縁部-ナデ 表面体部-縦ハケ 裏面-ナナメハケ	24.2	8.9
66-11	2.5Y6/1黄灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-斜めハケ、横ナデ	30.1	4.2
66-12		良好	表面口縁部-ハケ、ヘラ磨き、横ナデ 裏-ハケ、ヘラ磨き	20.9	16.2
66-13	7.5YR8/4浅黄橙色	良好	表面-ヘラ磨き 裏面-ヘラ磨き	30.0	6.0
66-14	2.5Y8/2灰白色	良好	表、裏口縁部-横ナデ 裏-ヘラ磨き 表-ヘラ磨き	31.0	6.0
66-15	7.5YR8/1灰白色	良好	裏面口縁部-横ナデ 表面-ヘラ磨き 裏面-横ハケ	26.8	14.7
66-16	2.5Y7/1灰白色	良好	裏面口縁部-横ナデ 裏面体部-ハケ	33.0	6.2
66-17	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面口縁部-ハケ、横ナデ 裏面-ナナメハケ、横ナデ	38.0	6.5
66-18	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面口縁部-横ナデ 表面-ハケ ケズリ 裏面-横ナデ	14.0	21.8
67-1	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-横ナデ 裏面体部-ナデ 端部-横ナデ	7.5	3.7
67-2	10YR6/2灰黄褐色	良好	表面-ヘラ磨き 裏面-ヘラナデ	25.4	2.1
67-3	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ 裏面、表-ヘラ磨き、ハケ	11.8	3.7
67-4	2.5Y6/2鈍い黄色	良好	表面-ヘラ磨き 横ナデ 裏面-ヘラ削り	16.6	5.3
67-5	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ、縦ハケ	26.7	9.9
67-6	10YR8/2灰白色	良好	表面-ヘラ磨き 裏面-横ナデ 脚柱部-しぼり目	13.4	15.7
67-7	7.5YR8/2灰白色	良好	表面-ナナメハケ、横ナデ 裏面-横ナデ	16.5	5.5
67-8	7.5YR7/2暗褐灰色	良好	表面-縦ハケ、端部-横ナデ 裏面-剝離の為不明	16.2	8.7
67-9	2.5Y8/2灰白色	良好	表面体部-ヘラ削り 裏面体部-ナデ	10.5	5.3

表4-6 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径などcm	器高残存高cm
67-10	2.5Y7/1灰白色	良好	表面-ヘラ削り 裏面-しぼり痕、ナデ	5.4	7.4
67-11	2.5Y4/2暗灰黄色	良好	表面-ヘラ磨き 裏面-ヘラ磨き	4.4	3.9
67-12	7.5YR8/2灰白色	良好	表面-ヘラ削り、煤付着 裏面-ナナメハケ	6.6	8.5
67-13	10YR6/2灰黄褐色	良好	表面-縦ハケ、叩き目 裏面-縦ハケ、指頭圧痕	4.9	
67-14	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-ヘラ削り、ヘラ磨き 裏面-縦ハケ	10.2	12.6
68-1	10YR8/1灰白色	良好	指頭圧痕	1.4	1.4
68-2	5PB5/1青灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	24.0	1.8
68-3	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ 頸部-縦ハケ 裏面-横ナデ 頸部-横ハケ	23.4	3.0
68-4	2.5Y5/1黄灰色	不良	表面-横ナデ 頸部-縦ハケ 裏面-横ナデ	14.0	4.3
68-5	2.5Y8/2灰白色	良好	剥離の為不明		6.2
68-6	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ	11.4	0.8
68-7	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ	9.5	3.5
68-8	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-ヘラ磨き 裏面-ナデ、ヘラ削り 端部-横ナデ	10.6	2.7
68-9	10YR8/3浅黄橙色	良	剥離の為不明	24.2	1.7
68-10	N6/0灰色	良好	表、裏面側部-横ナデ 底部-指押さえ後ナデ	11.0	2.9
68-11	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナナメハケ、横ナデ 裏面-横ナデ	15.7	3.4
68-12	10YR8/3浅黄橙色	やや不良	表面-縁部-ナデ 体部-横ナデ 裏面-ヘラ削り	16.4	5.7
69-1	10YR8/1灰白色	良好	表、裏面口縁部-ナデ 表-縦ハケ 裏-横ハケ	26.7	4.6
69-2	2.5Y6/1黄灰色	不良	剥離の為不明	13.0	2.8
69-3	10YR5/4鈍い黄褐色	良好	表面-ヘラ削り、タタキ目、ハケ 裏面-ヘラ削り、ナデ	14.8	14.8
69-4	10YR8/2灰白色	良好	表面上部-ナデ、縦ハケ 裏面上部-横ハケ	31.2	8.8
69-5	10YR7/4鈍い黄橙色	良好	表面-縁部-横ハケ 裏面-横ナデ 表面-横ナデ	30.6	1.7
69-6	10YR8/4浅黄橙色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ 裏面-ナデ、ヘラ磨き	23.2	2.7
69-7	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-縁部-横ナデ、ヘラ磨き 裏面-ヘラ磨き	33.0	4.4
69-8	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ヘラ磨き 裏面-ハケ、ナデ、ヘラ磨き	42.2	6.5
69-9	7.5YR8/2灰白色	良好	表面-ハケ、ヘラ磨き、ヘラ削り 裏面-ハケ	7.9	9.5
69-10	2.5Y7/1灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ	18.6	2.3
69-11	10Y3/1オリブ黒色	良好	裏面脚柱部-絞り痕	7.8	5.5
69-12	2.5Y7/2灰黄色	やや軟質	表面-ヘラ磨き 裏面上部-絞り痕、下部ヘラ削り	8.8	6.9
69-13	10YR3/3暗褐色	良好	表面-ハケ、ヘラ磨き 裏面-ナデ ハケ	6.4	24.3
70-1	7.5YR6/4鈍い橙色	良好	表面-刷毛目 裏面-刷毛目		
70-2	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整粘土紐痕		
70-3	N5/0黒色	良好	表面-斜縦刷毛目 裏面-刷毛目		
70-4	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ヘラ削り刷毛		
70-5	10YR6/4鈍い黄橙色	良好	表面-横ナデ刷毛目 裏面-横刷毛目		
70-6	10YR6/2灰黄褐色	良好	表面-横ナデ刷毛目 裏面-横ナデ		
70-7	5Y4/1灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-上部横ナデ		
70-8	2.5Y8/1灰白色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-横ナデ		
70-9	10YR6/3鈍い黄橙色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-刷毛目		
70-10	5Y7/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-刷毛目		
70-11	10Y7/3鈍い黄橙色	良好	表面-荒い刷毛目 裏面-刷毛目		
70-12	7.5YR8/1灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-横刷毛目		
70-13	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
71-1	10YR8/4浅黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-粘土紐		
71-2	10YR8/2灰白色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-横刷毛目		
71-3	7.5YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-横ナデ刷毛目		
71-4	10YR7/1灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-横刷毛目		
71-5	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-縦刷毛目		
71-6	10YR8/2灰色	良好	表面-横ナデ調整 裏面-横刷毛		
71-7	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-指圧痕		
71-8	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
71-9	10YR8/2灰白色	良好	表面-刷毛目、縦刷毛目		
71-10	N3/0暗灰色	良好	表面-文様間ヘラ磨 裏面-絞痕、ヘラ痕		
71-11	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ		
71-12	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
71-13	10YR8/1灰白色	良好	表面-横ナデ調整 裏面-横ナデ調整		
71-14	2.5Y5/2暗灰黄色	良好	表面-文様間ヘラ磨 ヘラ磨き 裏面-ナデ調整		
71-15	10YR8/2灰白色	良好	表面-文様間ヘラ磨き 裏面-指圧痕刷毛目		
72-1	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-横刷毛目		
72-2	2.5Y6/4鈍い黄色	不良	表面-剥離の為不明 裏面-横刷毛目		
72-3	10YR8/3浅黄橙色	不良	表面-剥離の為不明 裏面-剥離の為不明		
72-4	7.5YR4/1褐灰色	良好	表面-斜刷毛目 裏面-指ナデ横刷毛目		
72-5	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-横刷毛目		
72-6	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-横刷毛と横ヘラ磨き		
72-7	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ヘラナデ		

表4-8 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径などcm	器高残存高cm
72-8	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
72-9	10YR7/4鈍い黄橙色	良好	表面-刷毛目 裏面-ナデ調整		
72-10	10YR6/1褐灰色	不良	表面-剥離の為不明 裏面-剥離の為不明		
72-11	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-ナデ調整		
72-12	7.5YR4/1褐灰色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-ナデ		
72-13	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-刷毛目		
72-14	2.5Y7/2灰黄色	やや不良	表面-剥離の為不明 裏面-ナデ		
72-15	10YR7/3鈍い黄橙色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-剥離の為不明		
72-16	5Y6/1灰色	良好	表面-斜刷毛目 裏面-斜刷毛目		
72-17	2.5Y7/1灰白色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-縦刷毛目		
72-18	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-斜刷毛目 ナデ 裏面-斜刷毛目		
72-19	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-縦刷毛目		
72-20	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-斜刷毛目 裏面-横刷毛目		
73-1	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-斜刷毛目 ナデ、裏面-刷毛目		
73-2	5Y5/1灰色	良好	表面-ナデ 裏面-絞り、横ナデ調整		
73-3	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
73-4	2.5Y8/1灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
73-5	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-文様間へら磨き 裏面-縦刷毛目、		
73-6	N3/0暗灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-横方向の刷毛目		
73-7	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-縦刷毛目、斜刷毛目		
73-8	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-縦刷毛目、ナデ調整 裏面-刷毛目		
73-9	10YR8/3浅黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-斜め方向の刷毛目		
73-10	10YR8/1灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-縦刷毛、横刷毛		
73-11	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	表面-ナデ 裏面-縦斜め向きの刷毛目		
73-12	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-斜細へら磨き 裏面-最大径横刷毛目		
73-13	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-斜刷毛目、横へら磨き		
73-14	10YR7/2鈍い黄橙色	やや不良	表面-剥離の為不明 裏面-ナデ調整		
73-15	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ		
73-16	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-指ナデ後横ナデ		
73-17	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-刷毛目 ナデ 裏面-指圧痕 ナデ		
73-18	2.5Y6/3鈍い黄色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-縦刷毛目横ナデ		
73-19	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-横ナデ		
73-20	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-上半ナデ、下半縦刷毛		
73-21	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-横ナデ 裏面-斜め向きのナデ		
74-1	2.5Y6/1黄灰色	不良	剥離の為不明	22.8	1.8
74-2	2.5Y8/2灰白色	不明	剥離の為不明	17.0	1.2
74-3	2.5Y5/1黄灰色	不良	剥離の為不明	16.8	1.6
74-4	2.5Y4/1黄灰色	良好	表面-剥離の為不明 裏面-横ナデ	17.5	4.5
74-5	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	剥離の為不明	25.4	1.9
74-6	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	剥離の為不明	10.2	1.5
74-7	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-縦ハケ、斜めハケ、横ナデ 裏面-剥離	23.0	4.0
74-8	2.5Y5/1黄灰色	良好	剥離の為不明	16.9	2.8
74-9	2.5Y8/3浅黄色	良好	剥離の為不明	30.9	1.55
74-10	2.5Y5/1黄灰色	良好	剥離の為不明	14.6	1.5
74-11	2.5Y6/1黄灰色	良好	表面-ナデ、ハケ 裏面-ナデ、ナナメハケ	38.6	5.6
74-12	10YR8/2灰白色	良好	剥離の為不明	13.6	3.6
74-13	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	裏面-指頭圧痕 剥離の為不明	30.0	4.0
74-14	2.5Y7/2灰黄色	良好	剥離の為不明	18.9	2.6
74-15	2.5Y8/2灰白色	良好	剥離の為不明	29.6	2.9
74-16	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	剥離の為不明	18.0	4.4
74-17	10YR4/1褐灰色	良好	ナデ	34.0	3.5
74-18	2.5Y7/3浅黄色	良好	剥離の為不明	35.4	4.4
74-19	2.5Y4/1黄灰色	良好	剥離の為不明	14.0	5.0
74-20	2.5Y5/1黄灰色	良好	剥離の為不明	39.0	5.2
74-21	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	裏面-へら削り	15.0	4.8
74-22	10YR4/1褐灰色	良好	剥離の為不明	44.4	4.7
74-23	2.5Y5/1黄灰色	良好	剥離の為不明	14.2	5.4
74-24	2.5Y7/1灰白色	良好	剥離の為不明	44.8	4.0
74-25	2.5Y8/3淡黄色	良好	表面-タタキ 裏面-剥離の為不明	3.2	2.4
75-1	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-縦ハケ 裏面-剥離の為不明	29.8	3.4
75-2	2.5Y7/2灰黄色	やや軟質	剥離の為不明	20.6	4.0
75-3	10YR8/2灰白色	良好	剥離の為不明	41.1	5.3
75-4	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-へら磨き 裏面-へら磨き	7.2	9.9
75-5	2.5Y8/2灰白色	やや軟質	表面-ナデ 裏面-指押さえ	3.8	1.7
75-6	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	剥離の為不明	32.5	3.6

表4-9 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	図版番号	トレンチ	地区	遺構 層名	時期	器種	施文	備考	内面の色調	外面の色調
75-7		1A	F10e8III	IV	弥生中期	高杯	凹線 3条		2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/2灰黄色
75-8		1A	F10e8	IV	鎌倉	瓦器碗			N4/0灰色	N4/0灰色
75-9		1A	F10e7III	IV	奈良	須惠器杯			N5/0灰色	N5/0灰色
76-1		1A	F10e8III, IV	IV	弥生中期		直線文 波状文		2.5Y6/4鈍い黄色	10YR6/3鈍い黄褐色
76-2	37b	1A	F10d9 I	IV	弥生中期		波状文 直線文 波状文		2.5Y7/2灰白色	N2/0黒色
76-3	41a	1A	F10e8 I, III	IV	弥生中期		直線 波状 円浮 直線		2.5Y8/2灰白色	N2/0黒色
76-4		1A	F10e8III	IV	弥生中期		波状文 直線文		2.5Y6/3鈍い黄色	10YR6/2灰黄褐色
76-5	39b	1A	F10e8III	IV	弥生中期		幅の広い凹線文に刺突文		2.5Y6/3鈍い黄色	10YR6/3鈍い黄褐色
76-6	40a	1A	F10e9III	IV	弥生中期		圧痕文貼付突帯		2.5Y6/3鈍い黄色	2.5Y6/3鈍い黄色
76-7		1A	F10e8III	IV	弥生中期		扇状 扇状		2.5Y6/6明黄褐色	2.5Y6/4鈍い黄色
76-8		1A	F10e8III	IV	弥生中期		直線 波状 直線 斜格		2.5Y7/4浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
76-9		1A	F10e9 II	IV	弥生中期		凹線文 4条		2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
76-10		1A	F10d9	IV	弥生中期		凹線文 3条 列点 列点		2.5Y6/4鈍い黄色	10YR7/2鈍い黄褐色
76-11	39b	1A	F10e8III, IV	IV	弥生中期	壺	波状文 扇状文		7.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1灰白色
76-12	40a	1A	F10e6	IV	弥生中期		圧痕文貼付突帯		2.5Y7/1灰白色	10YR7/2鈍い黄褐色
77-1		2A	F10i6 II i7 I	IV	弥生中期	壺	凹線 凹線		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR8/2灰白色
77-2	34a	2A	F10h8	IV	弥生中期	壺			10YR5/2灰黄褐色	10YR7/3鈍い黄褐色
77-3	34a	2A	F10h6	IV	弥生中期	壺	凹線 6条 扇状		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR7/3鈍い黄褐色
77-4	35a	2A	F10h8	IV	弥生中期	鉢	凹線、刻目文帯、波状		2.5Y7/3浅黄色	10YR8/2灰白色
77-5		2A	F10h8 V	IV	弥生中期	壺	刻目文		10YR6/4鈍い黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
77-6	34a	2A	F10h8 IV	IV	弥生中期	無頸壺	突帯 1条		10YR5/3鈍い黄褐色	2.5Y6/3鈍い黄色
77-7		2A	F10h7	IV	弥生中期	蓋			2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
77-8		2A	F10h8 IV	IV	弥生中期	甕			2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色
77-9	42a	2A	F10h7 I	IV	弥生中期	ミニチュア鉢			2.5Y7/1灰白色	2.5Y7/1灰白色
77-10		2A	F10h6	IV	弥生中期	甕	刻目文		10YR4/1褐灰色	2.5Y5/1黄灰色
77-11	35a	2A	F10h8	IV	弥生中期	台形土器			2.5Y7/3浅黄色	N3/0暗灰色
77-12		2A	F10h8	IV	弥生中期	台形土器			2.5Y7/3浅黄色	2.5Y8/3淡黄色
77-13	35a	2A	F10h8	IV	弥生中期	鉢	簾状 簾状 簾状	生駒西麓産	2.5Y4/2暗灰黄色	2.5Y3/1黒褐色
77-14	34b	2A	F10h9	IV	弥生中期	高杯脚部	凹線 4条		10YR8/3浅黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
77-15	27d	2A	F10i9	IV	弥生中期	高杯脚部	刺 4 凹 3 刺 4 凹 2		10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色
77-16	34b	2A	F10h9	IV	弥生中期	高杯脚部	径 3mm の孔		10YR5/1褐灰色	10YR6/2灰黄褐色
77-17	34b	2A	F10h8 IV	IV	弥生中期	高杯脚部	径 3mm の孔		7.5YR6/2灰褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
77-18		2A	F10h7 III	IV	弥生中期	高杯脚部	円孔		2.5Y6/2灰黄色	10YR7/3鈍い黄褐色
77-19	34b	2A	F10h8 IV	IV	弥生中期	器台脚部	凹線 5条		10YR7/4鈍い黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
77-20	34b	2A	F10h6	IV	弥生中期	器台脚部	凹線 2条		10YR8/3浅黄褐色	10YR6/2灰黄褐色
77-21	34b	2A	F10h9	IV	弥生中期	器台脚部	凹線 6条		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
77-22		2A	F10h8 IV	IV	弥生中期	器台脚部	凹線 6条		2.5Y5/1黄灰色	2.5Y7/2灰黄色
77-23		2A	F10g67h6	III-2	弥生中期	鉢底部		生駒西麓産	2.5Y3/2黒褐色	10YR4/3鈍い黄褐色
78-1		2A	F10h9	IV	古墳中期	須惠高杯	菱形の透かし穴		N6/0灰色	N6/0灰色
78-2		2A	F10h9	IV	弥生中期	須惠杯身			N6/0灰色	N6/0灰色
78-3		2A	F10h7 I	IV	弥生中期	高杯	凹線 2条		10YR6/1褐灰色	10YR8/3浅黄褐色
78-4		2A	F10h9	IV	古墳後期	須惠杯蓋			N6/0灰色, N7/0灰色	N6/0灰色, N7/0灰色
78-5		2A	F10h9	IV	古墳後期	須惠杯身			N6/0灰色	N6/0灰色
78-6		2A	F10g7 IV	IV	奈良平安	須惠器杯			10Y6/1灰色	N5/0灰色
78-7		2A	F10h7	IV	古墳中期	須惠高杯			N7/0灰白色	N6/0灰色
79-1		2A	F10h6	IV	弥生中期		波状文		10YR7/2鈍い黄褐色	7.5YR6/6褐色
79-2		2A	F10i7	IV	弥生中期	壺	上部扇状文		2.5Y7/3浅黄色	10YR8/3浅黄褐色
79-3		2A	F10i8	IV	弥生中期	壺	凹線 円形浮文 扇状		7.5YR6/6褐色	10YR8/2灰白色
79-4	39b	2A	F10g7 IV	IV	弥生中期	壺	波状 直線 扇状 扇状 直線		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
79-5		2A	F10h6	IV	弥生中期		直線文 波状文		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR8/2灰白色
79-6		2A	F10h6	IV	弥生中期		直 波 直 波 斜格		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR5/3鈍い黄褐色
79-7		2A	F10h6	IV	弥生中期		波状 波状 斜線		10YR7/2鈍い黄褐色	5YR6/6褐色
80-1		3A	G10a9	IV	弥生中期	蓋	格子状文様		10BG1.7/1青黒色	10YR6/2灰黄褐色
80-2		3A	G10b9	IV	弥生中期	壺	扇状文 波状文		7.5YR5/1褐灰色	7.5YR7/4鈍い褐色
80-3		3A	G10e7	IV	弥生中期	壺	波状文 凹線文 7条		2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
80-4		3A	G10a9	IV	弥生中期	鉢	凹線 5条		2.5Y6/2灰黄色	10YR7/2鈍い黄褐色
80-5	35a	3A	G10e7	IV	弥生中期	壺	上面 扇 扇 波 端面 波		2.5Y6/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色
80-6		3A	G10b9	IV	弥生中期	鉢			10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色
81-1		5A	F10bc5	IV	弥生中期	壺	扇状 凹線 3条		2.5Y7/1灰白色	2.5Y7/1灰白色
81-2		5A	F10bc5	IV	弥生中期	蓋			5Y2/1黒色	2.5Y6/2灰黄色
81-3		5A	F10bc5	IV	弥生中期	壺	扇状 扇状 凹線 刻目		2.5Y7/3浅黄色	10YR6/3鈍い黄褐色
81-4	35a	5A	F10bc5	IV	弥生中期	壺	上 扇 扇 扇 端 凹 円浮 15		2.5Y6/4鈍い黄色	7.5YR6/6褐色
81-5		5A	F10bc5	IV	弥生中期	壺	凹線 3条		7.5YR7/3鈍い褐色	10YR7/3鈍い黄褐色
82-1		1A	F10e9 IV	III-2	弥生中期	壺	凹線 6条、円浮 2		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
82-2	35a	1A	F10e8 II	III-2	弥生中期	壺	上刺突 端凹線 棒浮 刻目		10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色

表4-10 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径などcm	器高残存高cm
75-7	2.5Y7/2灰黄色	良好	裏面-横ナデ	23.6	3.1
75-8	N7/0灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-ナデ	6.6	1.3
75-9	N5/0灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	12.0	3.8
76-1	2.5Y6/4鈍い黄色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
76-2	7.5Y6/1灰色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
76-3	N4/0灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
76-4	2.5Y6/3鈍い黄色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-絞り締め		
76-5	2.5Y6/3鈍い黄色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
76-6	2.5Y6/3鈍い黄色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
76-7	2.5Y5/4黄褐色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
76-8	5Y5/1灰色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
76-9	5Y7/1灰色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
76-10	2.5Y7/2灰黄色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
76-11	7.5Y7/1灰白色	やや不良	表面-剥離の為不明 裏面-刷毛目		
76-12	2.5Y7/1灰白色	良好	表面-縦ヘラナデ 裏面-横ヘラ磨き、横ナデ		
77-1	10YR8/2灰白色	良好	剥離の為不明	12.6	2.9
77-2	10YR6/2灰黄褐色	良好	表面-横ナデ、縦ハケ 裏面-横ナデ、縦ハケ	14.1	5.8
77-3	10YR8/1灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	36.6	2.7
77-4	N4/0灰色	良好	剥離の為不明	30.0	2.4
77-5	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	剥離の為不明	18.4	1.6
77-6	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-横ナデ、ハケ、縦ヘラ磨き 裏面-ヘラ磨き、横ヘラ	15.4	3.9
77-7	2.5Y7/3浅黄色	やや軟質	つまみ指頭圧痕	2.3	3.9
77-8	2.5Y8/2灰白色	やや軟質	裏面-ナデ 他剥離	18.0	3.0
77-9	完形	良好	表面-縦ハケ、横ナデ、かきとり痕 裏面-横ナデ	5.6	2.8
77-10	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	表面-縦ハケ、ヘラ磨き、横ナデ 裏面-斜めハケ、横ハケ	42.9	9.0
77-11	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-縦ハケ、横ナデ 裏面-指頭圧痕	18.4	3.7
77-12	5Y6/1灰色	やや軟質	剥離の為不明	18.4	6.7
77-13	2.5Y3/1黒褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-ナデ	22.0	4.9
77-14	10YR8/3浅黄褐色	良好	剥離の為不明	14.0	3.3
77-15	10YR8/3浅黄褐色	良好	表面-ナデ 裏面-絞り痕	5.3	7.0
77-16	10YR5/1褐灰色	良好	剥離の為不明	9.8	2.1
77-17	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	表面-剥離の為不明 裏面-ナデ	14.2	2.3
77-18	2.5Y6/2灰黄色	良好	剥離の為不明	11.6	4.0
77-19	10YR6/4鈍い黄褐色	良好	剥離の為不明	26.4	4.5
77-20	10YR8/2灰白色	良好	表面-横ナデ、縦ハケ 裏面-横ナデ、縦ハケ	26.2	9.0
77-21	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	表面-ナデ 裏面-剥離の為不明	25.8	4.4
77-22	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-縦ハケ、横ナデ	30.6	14.3
77-23	10YR4/3鈍い黄褐色	良好	底面-ヘラミガキ		
78-1	7.5Y7/1灰白色	良好	脚部-横ナデ 他ナデ	8.8	5.0
78-2	N6/0灰色	良好	表面-ヘラ削り、横ナデ 裏面-横ナデ	12.0	3.4
78-3	5Y3/1オリーブ黒色	良好	表面-ナデ 裏面-ハケ	19.4	4.0
78-4	N6/0灰色	良好	表面-横ヘラ削り、横ナデ 裏面-横ナデ	3.2	2.3
78-5	N7/0灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	11.6	2.5
78-6	5Y6/1灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	8.2	3.4
78-7	N6/0灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	12.0	4.0
79-1	10YR5/1褐灰色	良好	表面-ナデ 裏面-斜刷毛目		
79-2	5Y7/2灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ		
79-3	10YR5/1褐灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ		
79-4	N5/0灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-右刷毛目、粘土紐		
79-5	2.5Y8/2灰白色	不良	表面-剥離の為不明 裏面-剥離の為不明		
79-6	10YR5/3鈍い黄褐色	良好	表面-ナデ 裏面-剥離の為不明		
79-7	2.5Y4/1黄灰色	良好	表面-最大径斜ヘラ磨き 裏面-縦刷毛目		
80-1	N2/0黒色	良好	表面-縦ハケ、横ハケ、指頭圧痕 裏面-縦ハケ	4.4	5.7
80-2	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	18.2	2.9
80-3	2.5Y6/3鈍い黄色	良好	表面-不明 裏面-横ナデ	27.2	2.9
80-4	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ、ハケ	31.6	4.0
80-5	7.5YR5/3鈍い褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	25.5	2.0
80-6	10YR8/2灰白色	良好	表面-横ハケ、縦ハケ、横ナデ 裏面-横ハケ、縦ハケ	44.2	4.2
81-1	2.5Y7/1灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	18.0	1.8
81-2	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ	4.8	4.7
81-3	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	25.0	1.5
81-4	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ、縦ハケ、横ハケ 裏面-横ナデ、縦ハケ	32.7	7.8
81-5	2.5Y6/3鈍い黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	19.4	2.0
82-1	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	剥離の為不明	30.2	3.9
82-2	10YR8/2灰白色	良好	剥離の為不明	45.1	4.9

表4-11 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	図版番号	トレンチ	地 区	遺構 層名	時期	器 種	施 文	備 考	内面の色調	外面の色調
82-3		1A	F10e8	Ⅲ-2	弥生中期	壺	上扇状 端凹線3条		2.5Y6/2灰黄色	10YR6/2灰黄褐色
82-4	34a	1A	F10d9Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	上刺突 端凹線 円浮		10YR6/4鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
82-5	35a	1A	F10e9	Ⅲ-2	弥生中期	壺	上羽状 凹6条、円浮、刻目		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR7/3鈍い黄褐色
82-6		1A	F10e8Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	列点 列点 凹線		5Y3/1オリーブ黒色	2.5Y7/3浅黄色
82-7		1A	F10e8Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線6条		10YR8/3浅黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
82-8		1A	F10e7Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線2条		2.5Y7/2灰黄色	10YR7/2鈍い黄褐色
82-9	35a	1A	F10e8Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期	台付き鉢	罫 円形浮文		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
82-10		1A	F10e8Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	扇状		2.5Y6/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色
82-11		1A	F10d7Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期	鉢			2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
82-12		1A	F10d8Ⅰ	Ⅲ-2	弥生中期	甕	刻目		7.5YR5/3鈍い褐色	10YR5/3鈍い黄褐色
82-13	34b	1A	F10e7Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期	器台脚部	凹線2条		2.5Y7/3浅黄色	10YR6/3鈍い黄褐色
82-14		1A	F10e6	Ⅲ-2	弥生中期	高杯			2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
82-15	34b	1A	F10d9	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	高杯脚部	凹線3条		2.5Y6/3鈍い黄色	2.5Y5/1黄灰色
82-16		1A	F10e8Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期	高杯脚部	円形文		2.5Y6/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
82-17	34b	1A	F10e8Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期	高杯脚部	刺突1帯		2.5Y5/2暗灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
82-18		1A	F10d9Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	壺			2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色
82-19		1A	F10d9	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	小型台付鉢			2.5Y2/1黒色	7.5YR7/3鈍い褐色
83-1		1A	F10d7Ⅱ	Ⅲ-2	古墳後期	須恵杯身			10YR7/1灰白色	N6/0灰色
83-2	35b	1A	F10e9Ⅱ	Ⅲ-2	古墳後期	須恵杯蓋			N6/0灰色	N6/0灰色
83-3		1A	F10e6	Ⅲ-2	奈良	土師器坏			2.5Y7/2灰黄色	10YR5/3鈍い黄褐色
83-4		1A	F10d9	Ⅲ-2	平安前期	土師器椀			10YR7/3鈍い黄褐色	7.5YR7/4鈍い褐色
83-5		1A	F10e9Ⅳ	Ⅲ-2	平安前期	黒色土器椀			2.5Y3/1黒褐色	2.5Y4/1黄灰色
83-6	35b	1A	F10e6	Ⅲ-2	平安前期	土師器椀			2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
83-7		1A	F10d9	Ⅲ-2	平安前期	土師器皿			2.5Y8/1灰白色	2.5Y8/1灰白色
83-8	34a	1A	F10d9Ⅱ	Ⅲ-2	平安前期	土師器甕			10YR5/2灰黄褐色	7.5YR5/2灰褐色
83-9		1A	F10d9	Ⅲ-2	平安前期	黒色椀			N3/0暗灰色	10Y2/1黒色
83-10	35b	1A	F10d9Ⅱ	Ⅲ-2	平安前期	土師器皿			2.5Y7/2灰黄色	2.5Y8/2灰白色
83-11	35b	1A	F10d9	Ⅲ-2	平安前期	黒色椀			N3/0暗灰色	N3/0暗灰色
83-12		1A	F10d7Ⅱ	Ⅲ-2	鎌倉	土師羽釜			10YR6/3鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
83-13	35b	1A	F10e8	Ⅲ-2	鎌倉	瓦器椀			N3/0暗灰色	N3/0暗灰色
84-1	40a	1A	F10e8Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期		圧痕文貼付突帯		2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
84-2		1A	F10d8Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期		屋根の絵画?	絵画文土器	2.5Y7/3浅黄色	N2/0黒色
84-3		1A	F10d8Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期		直 直 波 直 円浮 斜格		2.5Y8/4淡黄色	2.5Y7/3浅黄色
84-4		1A	F10e7Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期		波状文 直線文 波状文		2.5Y6/3鈍い黄色	10YR8/3浅黄褐色
84-5	40a	1A	F10e8Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期		圧痕文貼付突帯		2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
84-6	40a	1A	F10e7	Ⅲ-2	弥生中期		圧痕文貼付突帯		2.5Y7/4浅黄色	2.5Y7/4浅黄色
84-7	40a	1A	F10e8	Ⅲ-2	弥生中期		圧痕文		2.5Y6/4鈍い黄色	2.5Y6/3鈍い黄色
84-8	40a	1A	F10e8	Ⅲ-2	弥生中期		圧痕貼付突帯		10YR6/2鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
85-1	42a	2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	小型台付鉢			2.5Y8/2灰白色	2.5Y7/4浅黄色
85-2	34a	2A	F10h7Ⅰ	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	壺	上扇状 端凹線6条 扇状 直線		10YR6/3鈍い黄褐色	2.5Y6/2灰黄色
85-3	34a	2A	F10i7Ⅰ	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	壺	波状 波状 円状浮文		7.5YR6/4鈍い褐色	7.5YR5/3鈍い褐色
85-4		2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	台形土器				2.5Y7/3浅黄色
85-5		2A	F10g7Ⅲ	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	壺	凹線6条		10YR7/2鈍い黄褐色	2.5Y6/1黄灰色
85-6	35a	2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	近江甕	列点文	近江受口甕	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色
85-7	34b	2A	F10g7Ⅲ	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	高杯脚部	竹管文 円穴		2.5Y6/1黄灰色	2.5Y6/2灰黄色
85-8		2A	F10i6Ⅱ	Ⅲ-2 Ⅳ	弥生中期	高杯	突帯		5YR7/4鈍い褐色	7.5YR7/3 鈍い褐色
85-9		2A	F10h9Ⅰ,Ⅱ	Ⅲ-2	平安前期	須恵器壺	糸切り痕	拓本有り	N6/0灰色	N5/0灰色
85-10		2A	F10h7Ⅰ	Ⅲ-2 Ⅳ	古墳中期	須恵杯身			N5/0灰色	N4/0灰色
85-11		2A	F10h8	Ⅲ-2 Ⅳ	古墳中期	須恵杯身			N7/0灰白色	N6/0灰色
85-12		2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2 Ⅳ	古墳中期	須恵高杯			7.5Y5/1灰色	7.5Y5/1灰色
85-13		2A	F10i7Ⅳ	Ⅲ-2 Ⅳ	古墳後期	須恵器杯			N5/0灰色	10G3/1暗緑灰色
85-14		2A	F10g7Ⅲ	Ⅲ-2 Ⅳ	平安前期	土師器椀			2.5Y7/2灰黄色	10YR7/2鈍い黄褐色
85-15		2A	F10i8Ⅰ	Ⅲ-2 Ⅳ	古墳中期	須恵器甕	突帯		2.5Y3/1暗オリーブ灰色	7.5Y3/2オリーブ黒色
86-1		2A	F10h7Ⅰ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	刻目 刻目 円形浮文	生駒西麓産	7.5YR4/3褐色	7.5YR4/3褐色
86-2		2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線9条 円形浮文		2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
86-3		2A	F10h8	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線6条 棒状浮文		2.5Y6/3鈍い黄色	2.5Y6/3鈍い黄色
86-4		2A	F10h8	Ⅲ-2	弥生中期	壺	上扇状 端凹線 棒状浮文		7.5YR7/4鈍い褐色	10YR8/3浅黄褐色
86-5		2A	F10h8Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線9条		10YR6/3鈍い黄褐色	N2/0黒色
86-6		2A	F10i6Ⅱ,Ⅰ7	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線9条		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR8/3浅黄褐色
86-7		2A	F10i6Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線7条		5YR7/6褐色	10YR8/2灰白色
86-8		2A	F10i6Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	上面羽状文 端面凹線4条		10YR6/4鈍い黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
86-9		2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線4条		2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
86-10		2A	F10h9	Ⅲ-2	弥生中期	壺	断面三角形貼付突帯3条		10YR6/4鈍い褐色	7.5YR7/4鈍い褐色
86-11		2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線6条		2.5Y6/4鈍い黄色	2.5Y7/3浅黄色
86-12		2A	F10i6Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線4条		2.5Y8/2灰白色	10YR7/3鈍い黄褐色

表4-12 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径などcm	器高残存高cm
82-3	2.5Y5/1黄灰色	良好	剝離の為不明	20.4	1.3
82-4	2.5Y5/2暗灰黄色	良好	剝離の為不明	20.1	3.2
82-5	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	剝離の為不明	30.8	3.4
82-6	2.5Y5/1黄灰色	良好	剝離の為不明	19.4	1.3
82-7	10YR8/3浅黄橙色	良好	剝離の為不明	16.9	4.9
82-8	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	剝離の為不明	16.6	1.3
82-9	10YR6/2灰黄褐色	良好	剝離の為不明	19.0	2.0
82-10	2.5Y6/2灰黄色	やや軟質	表面-横ナデ 裏面-剝離の為不明	19.8	3.3
82-11	2.5Y7/2灰黄色	良好	剝離の為不明	12.4	3.4
82-12	10YR4/1褐灰色	不良	剝離の為不明	38.0	1.2
82-13	5Y4/1灰色	良好	剝離の為不明	17.6	5.4
82-14	7.5Y7/1灰白色	良好	剝離の為不明	35.3	2.9
82-15	2.5Y6/3鈍い黄色	良好	剝離の為不明	17.2	2.9
82-16	7.5YR7/3鈍い橙色	良好	裏面-ハケ	15.2	1.7
82-17	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-へら削り	15.4	2.9
82-18	2.5Y8/2灰白色	良好	剝離の為不明	40.1	8.5
82-19	2.5Y7/2灰黄色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-剝離の為不明	5.7	3.0
83-1	2.5Y6/1黄灰色	良好	横ナデ	12.3	1.7
83-2	N6/0灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	9.9	2.3
83-3	2.5Y8/1灰白色	良好	横ナデ	13.4	1.9
83-4	7.5YR7/4鈍い橙色	やや軟質	表面-横ナデ 裏面-ナデ	5.8	1.7
83-5	5Y5/1灰色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-剝離の為不明	12.1	2.0
83-6	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	剝離の為不明	15.2	2.0
83-7	2.5Y8/1灰白色	良好	横ナデ	7.6	1.4
83-8	5YR7/4鈍い橙色	良好	表面-横ナデ 裏面-へら削り 横ナデ	18.2	5.0
83-9	N4/0灰色	やや軟質	表面-横ナデ、横へら磨き 裏面-横へら磨き	6.0	2.3
83-10	2.5Y7/1灰白色	良好	横ナデ	10.0	0.6
83-11	N2/0黒色	良好	横磨き	15.1	3.5
83-12	5YR7/6橙色	良好	横ナデ	24.7	5.1
83-13	7.5Y7/1灰白色	良好	表面-横へら、指頭圧痕 裏面-横磨き 暗文	14.2	5.2
84-1	2.5Y7/3浅黄色	不良	表面-剝離の為不明 裏面-剝離の為不明		
84-2	2.5Y6/1黄灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-不明		
84-3	2.5Y6/1黄灰色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
84-4	5Y5/1灰色	良好	表面-斜荒い刷毛目 裏面-横刷毛目		
84-5	2.5Y7/3浅黄色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
84-6	2.5Y7/4浅黄色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
84-7	5Y4/1灰色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
84-8	7.5YR6/2灰褐色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
85-1	2.5Y7/4浅黄色	良好	口縁部-ナデ	5.3	1.4
85-2	10YR6/2灰黄褐色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ へらミガキ	23.7	6.0
85-3	2.5Y6/1黄灰色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	22.9	2.6
85-4	2.5Y7/3浅黄色	良好	剝離の為不明	21.0	2.5
85-5	2.5Y5/2暗灰黄色	良好	剝離の為不明	26.1	3.6
85-6	2.5Y7/2灰黄色	やや軟質	剝離の為不明	20.0	2.4
85-7	2.5Y6/2灰黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-剝離の為不明	11.4	1.8
85-8	10YR5/1褐灰色	良好	表面-横ハケ、へら削り、へら磨き 裏面-へら磨き	25.8	5.9
85-9	N7/0灰白色	良好	表面-ナデ	7.5	1.9
85-10	N5/0灰色	良好	表面-へら削り、横ナデ 裏面-横ナデ	11.6	4.1
85-11	N6/0灰色	良好	表面-へら削り、横ナデ 裏面-横ナデ	12.0	3.5
85-12	7.5Y5/1灰色	良好	表面-ナデ、へら削り、横ナデ 裏面-横ナデ	4.6	5.4
85-13	5YR5/1褐灰色	良好	表面-ナデ、横ナデ 裏面-横ナデ	9.2	3.3
85-14	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-ナデ	6.4	1.6
85-15	7.5YR5/1褐灰色	良好	口縁部-横ナデ	26.7	4.0
86-1	10YR4/4褐色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
86-2	2.5Y7/3浅黄色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-剝離の為不明		
86-3	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-剝離の為不明 裏面-横ナデ		
86-4	10YR7/3にぶい黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-横ナデ		
86-5	7.5Y4/1灰色	やや不良	表面-剝離の為不明 裏面-ナデ		
86-6	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-横ナデ 裏面-ナデ		
86-7	10YR8/2灰白色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-剝離の為不明		
86-8	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-ナデ		
86-9	2.5Y7/3浅黄色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
86-10	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ(粘土紐痕)		
86-11	2.5Y4/1黄灰色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
86-12	10YR7/3にぶい黄橙色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-剝離の為不明		

表4-13 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	図版番号	トレンチ	地区	遺構 層名	時期	器種	施文	備考	内面の色調	外面の色調
86-13		2A	F10h8Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	断面三角形貼付突帯		10YR6/4鈍い黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
86-14		2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線6条		10YR7/4鈍い黄褐色	10YR7/4鈍い黄褐色
86-15	41a	2A	F10h6	Ⅲ-2	弥生中期	壺	波状 直線 円形浮文		7.5YR7/3鈍い橙色	N2/0黒色
86-16	39a	2A	F10h6	Ⅳ	弥生中期	壺	凹直波直円波斜波円斜波		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR5/3鈍い黄褐色
86-17		2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
86-18		2A	F10h6	Ⅲ-2	弥生中期	壺	凹線 圧痕文貼付突帯		10YR7/4鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
86-19		2A	F10h9Ⅰ,Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR5/1褐色
86-20	40a	2A	F10h8	Ⅲ-2	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
86-21		2A	F10h8	Ⅲ-2	弥生中期	甕	圧痕文貼付突帯		10YR8/3浅黄褐色	5YR8/4浅褐色
86-22		2A	F10g7,6h6	Ⅲ-2	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		7.5YR8/3浅黄褐色	7.5YR8/3浅黄褐色
86-23		2A	F10h7Ⅰ	Ⅲ-2	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		7.5YR8/2灰白色	7.5YR8/4浅黄褐色
87-1		2A	F10h7Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期		波状 直線 波状 直線 波状		2.5Y5/2暗灰黄色	2.5Y6/4鈍い黄色
87-2		2A	F10h8Ⅰ	Ⅲ-2	弥生中期		直線文 波状文 直線文		7.5YR7/4鈍い橙色	7.5YR8/4浅黄褐色
87-3	37a	2A	F10h8Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期		直線文 波状文 直線文		2.5Y8/2灰白色	10YR8/2灰白色
87-4	37a	2A	F10i6Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期		波状 波状 直線 波状		2.5Y8/4淡黄色	10YR7/3鈍い黄褐色
87-5	41a	2A	F10h8	Ⅲ-2	弥生中期	壺	簾状文 直線文		2.5Y5/2暗灰黄色	2.5YR6/2灰黄色
87-6	37b	2A	F10h7Ⅰ	Ⅲ-2	弥生中期		波状 直線 波状 波状 直線		2.5Y7/4浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
87-7		2A	F10h8Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期	高杯脚部	凹線4条 へら描三角形文		10YR6/3鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
87-8		2A	F10h8	Ⅲ-2	弥生中期		斜格子文 直線文		2.5Y7/2灰黄色	7.5YR6/4鈍い橙色
87-9		2A	F10h9ⅠⅡ	Ⅲ-2	古墳後期	須恵器坏身	底面にへら記号		N7/0灰白色	N6/0灰色
88-1		3A	G10a8	Ⅲ-2	弥生中期	鉢	凹線2条		10YR6/3鈍い黄褐色	2.5Y8/3淡黄色
88-2		3A	G10a7Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期	甕			10YR4/3鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
88-3		3A	G10a8	Ⅲ-2	弥生中期	壺	刻目文		10YR6/2灰黄褐色	10YR5/2灰黄褐色
88-4		4A	G10e8Ⅱ	Ⅲ-2	平安前期	黒色椀	暗文		N1.5/0黒色	2.5Y4/1黄灰色
88-5		4A	G10e8Ⅱ,Ⅳ	Ⅲ-2	奈良	須恵器杯身			10Y8/1灰白色	10Y8/1灰白色
88-6		4A	G10d9Ⅰ	Ⅲ-2	平安前期	土師器皿			2.5Y8/1灰白色	2.5Y8/1灰白色
88-7		4A	G10e8Ⅱ,Ⅳ	Ⅲ-2	奈良	土師器甕			2.5Y7/2灰黄色	2.5Y6/2灰黄色
88-8		5A	F10bc5	Ⅲ-2	奈良	須恵杯蓋			10BG5/1青灰色	5YB4/1暗青灰色
88-9		5A	F10bc5	Ⅲ-2	平安前期	黒色椀			N1.5/0黒色	N1.5/0黒色
88-10		5A	F10bc5	Ⅲ-2	弥生中期	高杯脚部			10YR6/3鈍い黄褐色	2.5Y6/3鈍い黄色
89-1		2A	F10h7	溝824	弥生中期		波状文 直線文		2.5Y6/2灰黄色	2.5Y8/3淡黄色
89-2		3A	G10a9	溝944	弥生中期		直線文 直線文		2.5Y7/3浅黄色	2.5Y6/3鈍い黄色
89-3	38b	3A	G10a9	溝944	弥生中期		直線文 波状文		N3/0暗灰色	10YR6/2灰黄褐色
89-4		3A	G10a9	溝944	弥生中期		直線文 波状文		N2/0黒色	2.5Y7/2灰黄色
89-5		2A	F10h7	溝824	弥生中期	壺	上面波状 扇状 凹線 円形		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
89-6		不明	不明	不明	弥生中期	鉢	波状 直線 波状 直線		2.5Y7/1灰白色	2.5Y7/1灰白色
89-7	37a	3A	G10c8	Ⅳ	弥生中期		直線文 波状文 直線文		2.5Y6/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
89-8		3A	G10e7	Ⅳ	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色
89-9	37a	3A	G10f9	Ⅲ-2	弥生中期		斜格子文 波状文 直線文		10YR8/2灰白色	10YR7/3鈍い黄褐色
89-10	38b	3A	G10f9	Ⅲ-2	弥生中期		直線文 斜格子文		10YR6/4鈍い黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
89-11	38b	3A	G10a8	Ⅲ-2	弥生中期		斜格子文 直線文		10YR5/2灰黄褐色	10YR5/2灰黄褐色
89-12		3A	G10a8	Ⅲ-2	弥生中期		直線 円形浮 斜格		10YR8/2灰白色	2.5Y7/2灰黄色
89-13	37b	3A	G10a7	Ⅲ-2	弥生中期		波状文 直線文 波状文		2.5Y7/2灰黄色	N2/0黒色
89-14	37a	3A	G10f9	Ⅲ-2	弥生中期		直線文 波状文		2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
89-15	37a	3A	G10f9	Ⅲ-2	弥生中期		直線 波状 直線 波状		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR7/3鈍い黄褐色
89-16	37a	3A	G10a7Ⅳ	Ⅲ-2	弥生中期		波状 直線 波状		10YR7/6明黄褐色	10YR7/4鈍い黄褐色
89-17	37b	3A	G10a8	Ⅲ-2	弥生中期		波状 直線 波状		10YR8/2灰白色	10YR7/3鈍い黄褐色
89-18	37b	3A	G10h8	Ⅲ-2	弥生中期		波状 波状 直線 波状		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
89-19	37a	3A	G10f9	Ⅲ-2	弥生中期		波状文 直線文 波状文		2.5Y7/2灰黄色	10YR5/3鈍い黄褐色
89-20		3A	G10a7Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期		波状文 直線文		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR8/3浅黄褐色
89-21		3A	G10a7Ⅲ	Ⅲ-2	弥生中期		上面扇状文 端面波状文		10YR7/3鈍い黄褐色	2.5Y7/2灰黄色
89-22	39b	3A	G10a9	Ⅲ-2	弥生中期		扇 直 波 直 扇 直		10YR8/1灰白色	10YR8/1灰白色
89-23	37b	3A	G10h8	Ⅲ-2	弥生中期		直線 波状 直線 波状		10YR6/4鈍い黄褐色	2.5Y7/3浅黄色
89-24	38b	3A	G10a9	Ⅲ-2	弥生中期		直線 扇状 直線 斜格		2.5Y7/1灰白色	10YR7/3鈍い黄褐色
89-25	37a	3A	G10a8	Ⅲ-2	弥生中期		直線文 波状文 扇状文		N2/0黒色	2.5Y7/2灰黄色
89-26	39b	3A	G10a7Ⅱ	Ⅲ-2	弥生中期		上面扇状文		10YR6/2灰黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
89-27	39b	3A	G10f9	Ⅲ-2	弥生中期		直線文 扇形文 直線文		2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色
89-28		3A	G10a8	Ⅲ-2	弥生中期		圧痕文貼付突帯		5Y5/1灰色	5Y4/1灰色
89-29	39b	3A	G10f9	Ⅲ-2	弥生中期		簾状 扇状 簾状 扇状 直線		2.5Y4/1黄灰色	5Y5/2灰オリーブ色
90-1		2A	F10g9	ⅢⅣ	弥生中期	壺	凹線5条		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
90-2		2A	F10g7,6h6	Ⅲ-2Ⅳ	弥生中期	壺	直線 直線 直線		5Y6/2灰オリーブ色	2.5Y7/3浅黄色
90-3		2A	F10g7,6h6	Ⅲ-2Ⅳ	弥生中期		波状 直線 波状		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
90-4	40a	2A	F10g7,6h6	Ⅲ-2Ⅳ	弥生中期	壺	凹2、羽状、三角貼付突帯		2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色
90-5	37a	2A	F10d6	ⅢⅣ	弥生中期		直線 波状 直線		10YR7/2鈍い黄褐色	2.5Y8/1灰白色
91-1		1A	F10e9Ⅱ	Ⅲ-1,2	弥生中期	壺			10YR6/4鈍い黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色

表4-14 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径などcm	器高残存高cm
86-13	10YR6/4鈍い黄褐色	やや不良	表面-剥離の為不明 裏面-指圧痕残		
86-14	10YR6/1褐灰色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-剥離の為不明		
86-15	10YR8/2灰白色	良好	表面-ナデ調整 裏面-横刷毛目		
86-16	10YR5/3鈍い黄褐色	良好	裏面-縦ヘラ磨き 縦刷毛目(下半)		
86-17	10YR7/3にぶい黄橙色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
86-18	N2/0黒色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
86-19	10YR5/1褐灰色	やや不良	表面-剥離不明 裏-頸部斜刷毛目		
86-20	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-剥離の為不明		
86-21	10YR7/1灰白色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
86-22	7.5YR8/3浅黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-斜刷毛目、横ナデ		
86-23	7.5YR8/2灰白色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
87-1	5Y6/2灰オリーブ色	良好	表面-ナデ調整 裏面-横ナデ調整		
87-2	7.5YR8/2灰白色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
87-3	2.5YR8/2灰白色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-横刷毛目		
87-4	2.5Y4/1黄灰色	やや不良	表面-ナデ調整 裏面-剥離の為不明		
87-5	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
87-6	N3/0暗灰色	やや不良	表面-ナデ調整 裏面-剥離の為不明		
87-7	10YR5/1褐灰色	やや不良	表面-剥離の為不明 裏面-横ヘラ削り		
87-8	2.5Y6/1黄灰色	良好	表面-ヘラ磨き 裏-縦刷毛目		
87-9	N5/0灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ調整		
88-1	2.5Y5/1黄灰色	良好	裏面-ヘラ磨き 裏面-ヘラミガキ 横ナデ	27.0	6.4
88-2	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-縦ハケ、横ナデ 裏面-縦ハケ 横ナデ	26.4	5.2
88-3	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	剥離の為不明	16.8	1.5
88-4	2.5Y6/2灰黄色	良好	表面-ヘラ削り、横ナデ、ナデ 裏面-ヘラ磨き、横ナデ	7.0	1.2
88-5	10Y8/1灰白色	やや軟質	表面-横ナデ、ナデ 裏面-横ナデ	10.5	0.9
88-6	2.5Y8/1灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	14.8	1.5
88-7	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ、ナデ 裏面-横ナデ、ナデ 横ハケ	14.0	4.0
88-8	5YR4/2灰褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	15.5	1.9
88-9	2.5Y6/1黄灰色	良好	表面-剥離の為不明 裏面-ヘラ磨き	13.0	2.7
88-10	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-ヘラ削り	14.4	4.9
89-1	2.5Y4/2暗灰黄色	良好	表面-横刷毛目 裏面-横刷毛目		
89-2	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-斜刷毛目 裏面-斜刷毛目		
89-3	10YR6/2灰黄褐色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-横刷毛目		
89-4	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-腰部下斜刷毛目 裏面-縦刷毛目		
89-5	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
89-6	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
89-7	2.5Y4/1黄灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
89-8	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-縦刷毛目、裏面-斜刷毛目、横ナデ		
89-9	10YR8/2灰白色	良好	表面-縦斜刷毛目 裏面-斜刷毛目		
89-10	10YR6/4鈍い黄橙色	良好	表面-斜刷毛目 裏面-斜刷毛目		
89-11	10YR5/2灰黄褐色	良好	表面-ナデ調整 裏面-横刷毛目		
89-12	10YR6/1褐灰色	良好	表面-ナデ 裏面-横刷毛目		
89-13	2.5Y7/2灰黄色	やや不良	表面-ナデ 裏面-剥離の為不明		
89-14	7.5YR5/4鈍い橙色	良好	表面-横刷毛目ナデ整形 裏面-横刷毛目		
89-15	2.5Y4/1黄灰色	良好	表面-ナデ 裏面-斜め向きの刷毛目		
89-16	10YR4/1褐灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-右荒い刷毛目		
89-17	2.5Y6/2灰黄色	やや不良	表面-剥離の為不明 裏面-横刷毛目		
89-18	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-文様間ヘラ磨き 裏面-横刷毛目		
89-19	2.5Y4/1黄灰色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ(指圧残る)		
89-20	10YR7/3鈍い黄褐色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
89-21	10YR6/1褐灰色	良好	表面-縦刷毛目、裏面刷毛目		
89-22	10YR8/1灰白色	やや不良	表面-ナデ調整 裏面-剥離の為不明		
89-23	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-ナデ 裏-横刷毛目、縦刷毛目		
89-24	2.5Y7/1灰白色	やや不良	表面-剥離不明 裏面-横荒い刷毛目		
89-25	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横刷毛目ヘラ磨き 裏面-右刷毛目		
89-26	2.5Y4/1黄灰色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ		
89-27	2.5Y5/1黄灰色	良好	表面-ナデ調整 裏面-縦刷毛目		
89-28	7.5YR4/1灰色	良好	表面-縦刷毛目 裏面-縦横刷毛目		
89-29	5Y4/1灰色	良好	表面-ナデ 裏面-斜刷毛目、上に横ナデ		
90-1	10YR7/3鈍い黄褐色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
90-2	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-ナデ調整 裏面-斜ナデ調整		
90-3	10YR7/3鈍い黄褐色	良好	表面-ナデ調整 裏面-ナデ調整		
90-4	2.5Y7/3浅黄色	不良	表面-剥離不明 裏面-剥離不明		
90-5	2.5Y8/1灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-横刷毛目、ヘラ磨き		
91-1	2.5Y7/2灰黄色	良好	不明	35.75	6.1

表4-15 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	図版番号	トレンチ	地 区	遺構 層名	時期	器 種	施 文	備 考	内面の色調	外面の色調
91-2		1A	F10e8	Ⅲ-1, 2	弥生中期	壺			10YR8/2灰白色	2.5Y7/2灰黄色
91-3	34b	1A	F10e8	Ⅲ-1, 2	弥生中期	高杯脚部	凹線 凹線 凹線 円孔 円孔		2.5Y8/3浅黄色	10YR7/3鈍い黄褐色
91-4		1A	F10e8	Ⅲ-1, 2	弥生中期	器台脚部	凹線 3条		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
91-5	34a	1A	F10e9Ⅳ	Ⅲ-1, 2	弥生中期	壺	上刻み目 端凹6条 棒浮5		5YR8/3淡褐色	5YR8/3淡褐色
91-6		1A	F10d9	Ⅲ-1, 2	弥生中期	鉢	凹線 3条		2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色
91-7		1A	F10e8	Ⅲ-1	鎌倉	瓦器椀	1条沈線		10BG1.7/1青黑色	10BG1.7/1青黑色
91-8	35b	1A	F10e6	Ⅲ-1	平安末期	土師器皿			7.5YR8/3浅黄褐色	7.5YR8/3浅黄褐色
91-9		1A	F10e8	Ⅲ-1	平安末期	瓦器椀			N2/0黒色	N2/0黒色
91-10		1A	F10e8	Ⅲ-1	平安末期	土師器皿			2.5Y8/2灰白色	2.5Y7/2灰黄色
91-11		1A	F10e8	Ⅲ-1	平安末期	瓦器椀			N4/0灰色	N5/0灰色
91-12		2A	F10g9	Ⅲ Ⅳ	古墳後期	須恵杯身			N6/0灰色	N6/0灰色
91-13		3A	G10a7	Ⅲ、Ⅳ	弥生中期	高杯脚部	凹線文		2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
91-14		3A	G10a7	Ⅲ、Ⅳ	弥生中期	高杯	凹線 3条 突帯		10YR5/2灰黄褐色	10YR6/2灰黄褐色
91-15		4A	G10d9Ⅳ	Ⅲ-1	平安前期	黒色土器椀			2.5Y6/3鈍い黄色	10Y4/1灰色
91-16		4A	G10e8	Ⅲ-1	平安前期	土師器皿			5Y8/1灰白色	5Y8/1灰白色
92-1	39b	2A	F10e6	ⅡⅢ	弥生中期	壺	上面 扇状 扇状 扇状		10YR6/3鈍い黄褐色	10YR6/3鈍い黄褐色
92-2		2A	F10h7Ⅰ	Ⅲ-1	弥生中期	壺	端面 凹線文 羽状文		5YR6/4鈍い褐色	10YR7/3鈍い黄褐色
92-3		2A	F10h7Ⅱ	Ⅲ-1	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		10YR6/2灰黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
92-4		2A	F10h7Ⅱ	Ⅲ-1	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		2.5Y7/3浅黄色	10YR8/3浅黄褐色
92-5		2A	F10h7Ⅰ, Ⅱ	Ⅲ-1	弥生中期	壺	圧痕文貼付突帯		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
92-6	38b	2A	F10h7Ⅰ, Ⅱ	Ⅲ-1	弥生中期	壺	斜格 波状 斜格 円形浮		10YR7/2鈍い黄褐色	10YR7/2鈍い黄褐色
92-7	37b	2A	F10h7Ⅰ, Ⅱ	Ⅲ-1	弥生中期		波状文 直線文 波状文		2.5Y7/3浅黄色	10YR6/3鈍い黄褐色
92-8	37a	2A	F10h7Ⅱ	Ⅲ-1	弥生中期		直線文 波状文		10YR7/3鈍い黄褐色	10YR7/3鈍い黄褐色
92-9		2A	F10h7Ⅲ	Ⅲ-1	弥生中期	壺	凹線 8条		10YR6/4鈍い黄褐色	10YR7/3鈍い黄褐色
92-10		2A	F10g7Ⅲ	Ⅲ-1	弥生中期	壺	凹線 4条		2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色
93-1		1A	F10e6Ⅲ	Ⅱ-2	鎌倉	瓦器椀			7.5YR8/2灰白色	5YR7/3鈍い褐色
93-2		1A	F10d9Ⅱ	Ⅱ-2	鎌倉	瓦器椀			2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/1灰白色
93-3	36a	1A	F10e6Ⅱ	Ⅱ-2	鎌倉	瓦器椀			2.5Y8/1灰白色	2.5Y8/1灰白色
93-4		1A	F10e6	Ⅱ-2、Ⅲ-1、2	鎌倉	土師器皿			2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色
93-5	36a	1A	F10e9Ⅰ	Ⅱ-2	鎌倉	土師器皿			2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/1灰白色
93-6	36a	1A	F10e8	Ⅱ-2	鎌倉	土師器皿			10YR7/2鈍い黄褐色	7.5YR7/3鈍い褐色
93-7	36a	1A	F10e6Ⅰ	Ⅱ-2	鎌倉	土師器皿			10YR7/4鈍い黄褐色	10YR6/4鈍い黄褐色
93-8		1A	F10e6Ⅲ	Ⅱ-2	鎌倉	瓦器椀			N7/0灰白色	N7/0灰白色
93-9	27f	1A	F10e8Ⅰ	Ⅱ-2	鎌倉	土師器皿			10YR7/4鈍い黄褐色	7.5YR7/4鈍い褐色
93-10	36a	1A	F10e9Ⅲ	Ⅱ-2	鎌倉	土師器皿			10YR7/3鈍い黄褐色	2.5Y7/3灰黄色
93-11	36a	1A	F10e8Ⅰ, Ⅱ	Ⅱ-2	鎌倉	土師器皿			7.5YR7/2明褐色	5YR7/4鈍い褐色
93-12	36a	1A	F10e9Ⅱ	Ⅱ-2	鎌倉	土師器皿			2.5YR7/4淡赤褐色	10YR6/4鈍い赤褐色
93-13	36a	1A	F10d9Ⅱ	Ⅱ-2	鎌倉	須こね鉢		東播系	N5/0灰色	N5/0灰色
93-14		1A	F10e6Ⅱ	Ⅱ-2	鎌倉	土師羽釜			5YR6/6褐色	2.5YR6/6褐色
93-15		3A	F10h7	Ⅱ-2	鎌倉	土師器皿			2.5Y7/2灰黄色	10YR6/1褐色
93-16		3A	F10h7	Ⅱ-2	鎌倉	瓦器椀	暗文		N3/0暗灰色	2.5Y8/1灰白色
93-17		3A	F10h7	Ⅱ-2	鎌倉	瓦器椀	暗文		N4/0灰色	N3/0暗灰色
93-18		4A	G10e9	Ⅱ-2	鎌倉	須こね鉢		東播系	7.5GY6/1緑灰色	10Y6/1灰色
93-19		5A	F10bc5	Ⅱ-2	平安	瓦器椀			5Y8/1灰白色	5Y8/1灰白色
94-1		1A	F10d9	Ⅱ-1	鎌倉	土師器皿			10YR8/3浅黄褐色	10YR6/2灰黄褐色
94-2	45a	1A	F10e7Ⅲ	Ⅱ-1	鎌倉	土師器皿			2.5Y8/2灰白色	2.5Y7/2灰黄色
94-3		1A	F10d8Ⅲ	Ⅱ-1	鎌倉	土師器椀			2.5Y4/1黄灰色	5Y7/1灰白色
94-4	45a	1A	F10d8Ⅲ	Ⅱ-1	鎌倉	青磁碗	蓮弁文		7.5Y5/2灰オレンジ	7.5Y5/2灰オレンジ
94-5		1A	F10d8Ⅲ	Ⅱ-1	鎌倉	瓦器椀			2.5Y8/1灰白色	2.5Y8/2灰白色
94-6		1A	F10d8Ⅲ	Ⅱ-1	鎌倉	瓦器椀			N4/0灰色	N5/0灰色
94-7	36a	1A	F10e7Ⅰ	Ⅱ-1	鎌倉	須こね鉢		東播系	N6/0灰色	N6/0灰色
94-8	45a	1A	F10d8Ⅲ	Ⅱ-1	鎌倉	瓦器椀	暗文		2.5GY8/1灰白色	2.5GY8/1灰白色
94-9	27h	1A	F10e7	Ⅱ-1	鎌倉	瓦器椀	暗文		N3/0暗灰色	N3/0暗灰色
94-10		3A		Ⅰ	鎌倉	土師質羽釜			7.5Y8/1灰白色	N7/0灰白色, N5/0灰色
94-11		3A	F10i9	Ⅱ-1	鎌倉	土師器皿			10YR7/3鈍い黄褐色	7.5YR7/4鈍い褐色
94-12		4A	G10e8Ⅱ	Ⅱ-1	鎌倉	土師器皿			2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色

表4-16 A地区 出土土器 一覧表

挿図番号	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径などcm	器高残存高cm
91-2	10YR8/2灰白色	良好	剝離の為不明	9.6	1.9
91-3	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	不明	3.6	8.3
91-4	10YR7/2鈍い黄橙色	やや不良	表面-縦ハケ 裏面-剝離の為不明	17.6	5.5
91-5	2.5Y4/1黄灰色	良好	不明	24.3	2.6
91-6	10YR7/3鈍い黄橙色	不良	剝離の為不明	20.0	2.4
91-7	10BG1.7/1青黒色	良好	不明	14.3	3.2
91-8	7.5YR8/3浅黄橙色	良好	表面-横ナデ	16.0	2.0
91-9	5Y5/1灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-ヘラ磨き	6.2	1.6
91-10	2.5Y7/1灰白色	良好	表面、裏面口縁部-横ナデ 表面-ナデ 裏面-ナデ	8.3	1.1
91-11	10Y3/1灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-ヘラ磨き	6.4	1.2
91-12	N6/0灰色	良好	表面-ヘラ削り、横ナデ 裏面-横ナデ	12.2	3.1
91-13	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-ヘラ磨き、横ナデ 裏面-ヘラ削り、横ナデ	11.6	4.0
91-14	10YR7/3鈍い黄橙色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	24.4	7.0
91-15	2.5Y7/2浅黄色	良好	表面-横ナデ、ヘラ削り、ヘラ磨き 裏面-斜めナデ	14.0	5.7
91-16	5Y8/1灰白色	良好	表面-横ナデ、指頭圧痕 裏面-横ナデ、ナデ	16.0	2.9
92-1	10YR6/3鈍い黄橙色	良好	裏面-ナデ調整		
92-2	10YR7/2鈍い黄橙色	不良	表面-剝離不明 裏面-不明		
92-3	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-縦刷毛目ヘラ磨き 裏-指頭圧痕		
92-4	2.5Y6/3鈍い黄色	不良	表面-剝離不明 裏面-剝離不明		
92-5	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-斜め刷毛ヘラ磨き 裏面-縦刷毛ナデ		
92-6	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ 裏面-斜刷毛目		
92-7	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-斜刷毛目 裏面-横ナデ調整		
92-8	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-ナデ調整 裏面-横ナデ調整		
92-9	2.5Y4/1黄灰色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ		
92-10	2.5Y6/1黄灰色	不良	表面-不明 裏面-剝離不明		
93-1	10YR8/2灰白色	良好	表面、裏面口縁部-横ナデ 裏面-ナデ	15.0	2.1
93-2	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面、裏面口縁部-ナデ、表面-指頭圧痕	10.5	1.8
93-3	2.5Y8/1灰白色	良好	表面、裏面口縁部-横ナデ	12.8	2.6
93-4	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-指頭圧痕 横ナデ 裏面-横ナデ	13.6	1.9
93-5	2.5Y8/2灰白色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ 表-ナデ、指頭圧痕 裏-ナデ	10.1	1.5
93-6	10YR8/2灰白色	良好	表、裏口縁部-横ナデ 表-ナデ、指頭圧痕 裏-ナデ	7.6	1.4
93-7	2.5Y8/3浅黄色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ 表面、裏面底部-ナデ	10.1	1.3
93-8	N8/0灰白色	不良	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	12.6	1.4
93-9	10YR8/4浅黄橙色	良好	表、裏口縁部-横ナデ 表底部-指頭圧痕 裏-ナデ	8.0	1.4
93-10	2.5Y7/2灰黄色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ 表面-ナデ	7.8	0.9
93-11	10YR8/2灰白色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ 裏面底部-ナデ	8.4	1.2
93-12	7.5YR8/1灰白色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ 表面-ナデ	10.9	2.4
93-13	N5/0灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	32.0	4.6
93-14	7.5YR8/2灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	22.0	1.4
93-15	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	11.6	1.9
93-16	5Y8/1灰白色	やや不良	表面-横ナデ、指頭圧痕 裏面-ナデ	14.8	3.5
93-17	N8/0灰白色	良好	表面-横ナデ、指頭圧痕 裏面-横ナデ	14.8	3.4
93-18	N6/0灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	26.4	4.5
93-19	5Y8/1灰白色	良好	表面-横ナデ、ナデ 裏面-ヘラ磨き	14.0	4.8
94-1	2.5Y8/2灰白色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ	7.8	1.2
94-2	2.5Y7/2灰黄色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ、裏面底部-ナデ	7.9	1.4
94-3	5Y8/1灰白色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ	11.9	2.1
94-4	10YR7/1灰白色	良好	施釉の為不明	15.1	6.0
94-5	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-横ナデ、ナデ 裏面-横ナデ	12.0	2.5
94-6	10Y8/1灰白色	良好	表、裏面口縁部-横ナデ 表-ナデ 裏-ナデ、磨き	13.9	1.7
94-7	N6/0灰色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ 表口縁-自然釉	29.2	2.8
94-8	2.5GY8/1灰白色	良好	表、裏面口縁部-ナデ 表-指頭圧痕 裏-暗文	13.8	3.2
94-9	N8/0灰白色	やや不良	表面口縁部-横ナデ 裏面-暗文 表面-ナデ	11.4	3.9
94-10	7.5Y8/1灰白色	やや不良	表面-横ナデ 裏面-指頭圧痕、横ハケ	18.2	3.5
94-11	10YR7/2鈍い黄橙色	良好	表面-指頭圧痕 裏面-横ナデ、ハケ	14.2	2.5
94-12	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-横ナデ、指頭圧痕 裏面-横ナデ	8.8	1.4

表5-1 B地区 出土土器 一覧表

挿図番号	図版番号	トレンチ	地区	層位	時期	器種	施文	備考	内面の色調
106-1	62c-1	1B	F10e5	III-2	弥生	甕			2.5Y7/1灰白色
106-2	62c-3	1B	F10d5e5	IV	弥生	鉢	直線文1帯、波状文1帯		2.5Y7/4浅黄色
106-3	62c-4	1B	F10e5	III-2	弥生	鉢	凹線文2条		2.5Y7/2灰黄色
106-4		1B	F10e5	III-2	弥生	高杯			2.5Y7/2灰黄色
106-5	62b-2	1B	F10d5e5	IV	弥生	鉢	凹線文4条		10YR6/6明黄褐色
106-6		1B	F10d5e5	IV	弥生	高杯			2.5Y7/3浅黄色
106-7	62c-2	1B	F10d5	III-2	弥生	壺	凹線文1条		2.5Y7/2灰黄色
106-8	62c-5	1B	F10d5	III-2	弥生	壺	刻み目		2.5Y7/2灰黄色
106-12	63b	1B	F10e5	II-1	中世	白磁碗			10Y7/1灰白色
109-1		2B	G10e5	III-2	古墳	須恵器坏蓋			N6/0灰色
109-3		2B	F10e4	III-2	中世	土師器碗			7.5YR8/4浅黄橙色
109-4	63a-9	2B	F10e5	III-2	中世	瓦器碗	暗文		N4/0灰色
109-5	63a-5	2B	F10e5	III-1	中世	土師器皿		灯明痕有り	7.5YR7/3鈍い橙色
109-6	63a-3	2B	G10e5	III-2	中世	土師器皿			10YR5/1褐灰色
109-7		2B	F10d4	III-2	中世	土師器皿			5YR7/3鈍い橙色
109-8	63a-2	2B	F10e5	III-1	中世	土師器皿			10YR8/2灰白色
112-1	62a-1	3B	F10h6	IV	縄文晩期	深鉢	突帯を貼付刻み目		2.5Y3/2黒褐色
112-2	62a-2	3B	F10h6	IV	縄文晩期	深鉢			2.5Y3/2黒褐色
112-3		3B	G10i5	II、III、IV	弥生	壺			10Y3/1オリーブ黒色
112-4		3B	G10h4	III-2	古代末	黒色土器碗			N2/0黒色
112-5		3B	F10g6	III-2	古代末	黒色土器碗			N2/0黒色
112-6		3B	F10g6	III-2	古代末	黒色土器碗			10Y2/1黒色
112-7		3B	G10g5	II-2	中世	土師器皿			2.5Y6/1黄灰色、2.5Y5/1黄灰色
112-8		3B	G10h5	III-1	中世	土師器皿			5Y7/1灰白色
112-9		3B	G10g5,6	III-1	中世	土師器皿			2.5Y7/3浅黄色
112-10	63a-4	3B	G10h5	III-1	中世	土師器皿			7.5YR7/2明褐灰色
112-11		3B		III-2	中世	土師器皿			2.5Y7/2灰黄色
112-12		3B		II-2	中世	土師器皿			5Y7/2灰白色
112-13		3B	G10h5	III-1	中世	瓦器碗			5Y8/1灰白色
112-14	63a-8	3B	G10h5	III-1	中世	瓦器碗			5Y8/1灰白色、10Y2/1黒色
112-15		3B	G10i5	II、III、IV	中世	瓦器碗	暗文		N2/0黒色
112-16		3B	G10h4	II、III、IV	中世	瓦器碗			10Y3/1オリーブ黒色
112-17		3B	G10i6	II-2	中世	瓦器碗			5Y7/1灰白色、N3/0暗灰色
112-18		3B	G10h5	III-1	中世	瓦器碗			2.5Y7/2灰白色
112-19	63a-6	3B	G10h4	III-2	中世	土師質羽釜			2.5Y6/3鈍い黄色
112-20	63a-7	3B	G10i6	III-2	中世	土師質羽釜			5Y4/1灰色

表6-1 B地区 出土石器・木器 一覧表

挿図番号	図版番号	トレンチ	地区	層位	時期	器種	材質
109-9	63c-2	2B	F10e5	III-2	不明	砥石	酸性凝灰岩
109-10	63c-1	2B	G10e4	II-2	不明	砥石	酸性凝灰岩
112-21	64a, b	3B	G10i5	III-2	中世	曲物底板	
112-22	64c	3B	G10h4	III-2	中世	円板	
112-23	64d, e	3B	G10h5	II	中世	漆器碗	
113-1	63c-3	3B	G10h4	III-2	不明	砥石	酸性凝灰岩
113-2	63c-4	3B	G10h4	III-2	不明	砥石	砂岩

表5-2 B地区 出土土器 一覧表

挿図番号	外面の色調	断面の色調	焼成	調整方法	法量口径cm	器高残柄高cm
106-1	2.5Y8/1灰白色	2.5Y8/1灰白色	やや軟質	表面-横ナデ 裏面-横ナデ、ナデ、他剥離	41.0	8.2
106-2	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色	良好	表面-横ナデ、剥離 裏面-横ナデ、剥離	37.9	6.2
106-3	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ、他剥離	28.8	3.3
106-4	N2/0黒色,5Y6/1灰色	2.5Y7/2灰黄,N2/0黒	良好	表面-横ナデ、ヘラ磨き 裏面-剥離	20.2	4.3
106-5	10YR6/6明黄褐色	10YR6/6明黄褐色	良好	表面-横ナデ 裏面-横ナデ	16.1	3.7
106-6	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y6/1黄灰色	良好	表面-縦ハケ、タタキ 裏面-縦ハケ、タタキ	7.6	9.7
106-7	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/1灰白色	良好	表-横ナデ、縦ハケ 裏-横ナデ、縦ハケ、横ハケ	24.6	4.6
106-8	10YR7/3鈍い黄橙色	2.5Y8/2灰白色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ、他剥離	16.7	4.4
106-12	10Y7/1灰白色	N8/0灰白色	良好	表面-ヘラ削り、釉 裏面-釉	11.2	3.4
109-1	N6/1灰色	N6/1灰色	良好	表面-ヘラ削り、横ナデ 裏面-横ナデ	9.0	3.1
109-3	7.5YR8/2灰白色	7.5YR8/3浅黄褐色	良好	表面-ナデ 裏面-ナデ	7.8	3.7
109-4	N4/0灰色	N8/0灰白,N7/0灰白	良好	表面-ヘラ磨き、ナデ 裏面-ナデ	6.4	1.9
109-5	7.5YR7/3鈍い橙色	7.5YR7/2明褐色	良好	表面-横ナデ、ナデ 裏面-横ナデ、ナデ	14.2	2.3
109-6	10YR7/2鈍い黄褐色	7.5YR7/2明褐色	やや不良	表面-指頭圧痕、横ナデ 裏面-指頭圧痕、横ナデ	13.5	2.0
109-7	7.5YR7/3鈍い橙色	5YR7/3鈍い橙色	良好	表面-指頭圧痕、一部ナデ 内面-一部ナデ	10.0	0.9
109-8	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色	良好	表面-横ナデ、ナデ 裏面-横ナデ、ナデ、指頭圧痕	10.3	1.4
112-1	2.5Y3/2黒褐色	2.5Y3/2黒褐色	やや軟質	剥離の為不明	34.0	6.0
112-2	2.5Y3/2黒褐色	2.5Y3/2黒褐色	やや軟質	表面-剥離の為不明 裏面-ナデ	33.2	8.9
112-3	2.5Y6/2灰黄色	10Y3/1オリーブ黒色	軟質	表面-剥離の為不明 裏面-ナデ	9.0	3.6
112-4	2.5Y6/3鈍い黄色	2.5Y6/3黄色N2/0黒色	良好	表口縁部-横ナデ 裏体部-ナデ、裏口縁-横ナデ	15.4	3.5
112-5	N3/0暗灰色2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ、指頭圧痕、ナデ 裏面-横ナデ	15.2	3.6
112-6	2.5Y7/2灰黄色	5Y7/2灰白色	良好	表面-横ナデ 裏面-ナデの後横方向の暗文	7.6	1.4
112-7	2.5Y6/2灰黄色,2.5Y4/1黄灰色	2.5Y6/2灰黄色	やや軟質	表面-横ナデ、指頭圧痕 裏面-横ナデ	13.4	2.1
112-8	5Y7/1灰白色	5Y7/1灰白色	良好	表面-横ナデ、指頭圧痕、ナデ 裏面-横ナデ	9.6	1.6
112-9	2.5Y7/3浅黄色	10YR6/3鈍い黄褐色	良好	表面、裏面口縁部-横ナデ 底部-指頭圧痕	8.8	1.8
112-10	5Y4/1灰色7.5YR7/2明褐色	10YR7/2鈍い黄褐色	良好	表口縁-横ナデ 裏体部-横ナデ 体部底-指頭圧痕	8.4	1.7
112-11	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ、指頭圧痕 裏面-横ナデ	8.3	1.5
112-12	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色	良好	表面-横ナデ、指頭圧痕 裏面-横ナデ	8.2	1.5
112-13	10G2/1緑黒色	5Y7/1灰白色	良好	表-指圧、ヘラ磨き、横ナデ 裏-横ナデ、ヘラ磨き	14.0	4.9
112-14	10Y3/1オリーブ黒色	10Y8/1灰白色	良好	表面-不明(指頭圧痕かヘラ削りか) 裏面-ヘラ削り	12.2	4.0
112-15	N3/0暗灰色	7.5Y8/1灰白色	良好	表面-指頭圧痕、横ナデ 裏面-ナデ、横ナデ	15.0	3.7
112-16	10Y3/1黒色	N7/0灰白色	良好	表面-指頭圧痕、横ナデ 裏面-横ナデ、ナデ	11.8	4.0
112-17	5Y7/1灰白色,N3/0暗灰色	7.5Y7/1灰白色	良好	表面-横ナデ、指頭圧痕 裏面-横ナデ、ナデ	12.0	2.4
112-18	2.5Y7/2灰黄色から10Y2/1黒色	2.5Y7/2灰白色	良好	表面、裏面口縁部-横ナデ 表面下部-指頭圧痕	12.0	2.3
112-19	2.5Y6/2灰黄色	2.5Y6/2灰黄色	良好	表下部-縦ハケ 裏体部-ナデ 裏口縁-横ナデ	6.2	4.9
112-20	2.5Y7/2灰黄色5Y3/1オリーブ黒色	2.5Y4/1黄灰色	良好	裏体部-横ナデ 表上半-横ナデ 表体部は指頭圧痕	28.4	5.3

表6-2 B地区 出土石器・木器 一覧表

挿図番号	外面の色調	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	特徴
109-9	2.5Y8/2灰白色	8.8	4.6	2.4	
109-10	10YR8/2灰白色	5.2	4.2	1.0	擦傷痕有り
112-21		19.5	8.2	0.8	
112-22		7.8	5.7	0.5	
112-23		3.9	1.7	0.4	
113-1	2.5Y8/2灰白色	8.9	3.8	2.3	四面使用痕跡有り
113-2	2.5Y8/1灰白色	4.7	3.2	2.8	

表7 B地区 遺構一覧表

遺構名	番号	トレンチ	地区割り	遺構面	長さ(cm)	横幅(cm)	深さ(cm)	主要埋土	時代	遺構挿図	遺構写真
溝	2002	3B	G10h5	中世II	174	14			中世	111	61a
溝	2003	3B	G10h5	中世II	110	34	6		中世	111	61a
溝	2004	3B	G10h45	中世II	593	50	6		中世	111	61a
溝	2005	3B	G10h5	中世II	57	25			中世	111	61a
溝	2006	3B	G10h4	中世II	396	56	7		中世	111	61a
溝	2022	2B	G10d4	中世II	645	37	4		中世	108	60b
溝	2023	2B	G10d4	中世II	1181	70	8	5Y6/3オリーブ黄色微砂	中世	108	60bc
溝	2024	2B	G10de4	中世II	1595	65	9	10YR6/2オリーブ灰色細砂	中世	108	60bd
溝	2025	2B	G10e5	中世II	343	22	4		中世	108	60b
溝	2026	2B	G10e4	中世II	1567	57	8	10YR5/4にぶい黄褐色細砂	中世	108	60be
溝	2027	2B	G10e5	中世II	226	215	2		中世	108	60b
溝	2029	2B	G10e4	中世II	602	27	4	2.5Y4/2暗灰黄色砂質土	中世	108	60b
溝	2030	2B	G10e4	中世II	778	45	4		中世	108	60b
溝	2033	2B	G10d5	中世I	1376	415	8		中世	108	57d
溝	2034	2B	G10d4	中世I	1461	183	11	2.5Y3/2黒褐色砂質土	中世	108	57d 58a
溝	2040	2B	G10de45	弥生I	2100	394	65	7.5Y4/1灰色粘土	弥生時代	107	49d 50ab
溝	2041	2B	G10d6	弥生I	(260)	(140)			弥生時代	107	50c
溝	2042	1B	F10e5	中世II	649	59	16	10YR5/3にぶい黄褐色粗砂	中世	105	60a
溝	2043	1B	G10e5	中世II	240	24	3		中世	105	60a
溝	2044	1B	F10e5	中世II	120	20	3	2.5Y5/3黄褐色微砂	中世	105	60a
溝	2045	1B	F10e5	中世II	310	40	8	2.5Y4/4オリーブ褐色細砂	中世	105	60a
溝	2046	1B	F10e5	中世II	820	31	16	10YR5/8黄褐色粗砂	中世	105	60a
溝	2047	1B	F10e5	中世II	285	19	4	2.5Y5/4黄褐色砂質土	中世	105	60a
溝	2048	1B	F10e5	中世II	680	14	10	2.5Y5/6黄褐色粗砂	中世	105	60a
溝	2049	1B	F10e5	中世I	270	18	15	7.5Y4/1灰色粘質土	中世	105	57ab
溝	2050	1B	F10e5	中世I	290	16	8	2.5GY4/1暗オリーブ色粘質土	中世	105	57ab
溝	2051	1B	F10e5	中世I	315	20	9	5Y3/1オリーブ黒色粘質土	中世	105	57ab
溝	2052	1B	F10e5	中世I	585	13	7	5Y4/1灰色粘土	中世	105	57ab
溝	2057	1B	F10d5	弥生I	173	18	9	2.5Y4/1黄灰色粘土	弥生時代	104	49a
溝	2064	1B	F10d45	弥生I	280	85	34	2.5Y3/1黒褐色粘土	弥生時代	104	49ab
ピット	2058	1B	G10e45	弥生I	16	16	37	10YR3/1黒褐色粘土	弥生時代	104	49a
ピット	2060	1B	F10d5	弥生II	27	22	18	5Y2/1黒色粘土	弥生時代	104	49a
ピット	2061	1B	F10e5	弥生II	16	15	9	2.5Y4/1黄褐色粘土	弥生時代	104	49a
ピット	2065	1B	F10d5	弥生I	16	15	8	5RP紫黒色粘土	弥生時代	104	49a
畦畔	2001	3B	G10g4	中世II	1930	71	6	2.5Y4/2暗灰黄色砂粘質土	中世	111	61ac
畦畔	2008	3B	G10h4i4	中世II	1930	77	8	7.5Y4/2灰オリーブ色細砂	中世	111	61ad
畦畔	2015	3B	G10g5	中世I	1917	60	10	10YR4/4褐色細砂	中世	111	59a
畦畔	2016	3B	G10h45	中世I	1460	86	12	10YR3/2黒褐色粘質土	中世	111	58c 59a
畦畔	2021	2B	G10d4	中世II	805	23	9		中世	108	60b
畦畔	2035	2B	G10e45	中世I	1475	40			中世	108	57d 58b
畦畔	2037	2B	G10d4	中世I	1591	85	13		中世	108	57d
畦畔	2053	1B	F10d5e5	中世I	1020	111	10	2.5Y5/6黄褐色細砂	中世	105	57ac
風倒木痕	2055	1B	F10e5	弥生I	217	247	41	7.5Y6/1灰色粘質土	弥生時代	104	49ac
風倒木痕	2056	1B	F10e5	弥生I	327	195	40	10YR3/1黒褐色粘土	弥生時代	104	49a
風倒木痕	2068	4B	G10h7	弥生I	275	168	17	10YR5/1褐色粘土	弥生時代	114	51d 52a
風倒木痕	2069	4B	G10h7	弥生I	240	169	48	7.5Y5/1灰色粘土	弥生時代	114	51d 52b
風倒木痕	2070	4B	G10h7	弥生I	300	186	41	10YR1.7/1黒色粘土	弥生時代	114	51d

付 章

付章1	東奈良遺跡の古環境復元	パリノ・サーヴェイ株式会社	173
付章2	大阪府東奈良遺跡におけるプラント・オパール分析	株式会社 古環境研究所	193
付章3	東奈良遺跡出土土器胎土分析	株式会社 第四紀地質研究所	197

付章1 東奈良遺跡の古環境復元

パリノ・サーヴェイ株式会社

<目次>

はじめに	174
1. 試料	175
2. 方法	175
(1) テフラ分析	175
(2) 珪藻分析	175
(3) 花粉分析	177
(4) 植物珪酸体分析	177
3. 結果	177
(1) テフラ分析	177
(2) 珪藻分析	177
(3) 花粉化石	182
(4) 植物珪酸体	186
4. 考察 —各地点(遺構)の環境変遷—	188
5. まとめ —遺跡としての古環境変遷と各地点の比較—	190
引用文献	191

<図表一覧>

表1 分析試料一覧	175
表2 珪藻分析結果	178, 179
表3 花粉分析結果	183
表4 植物珪酸体分析結果	187
図1 4 Bトレンチの柱状図と試料採取層位	176
図2 4 Bトレンチの主要珪藻化石群集	180
図3 各遺構の主要珪藻化石群集	181
図4 4 Bトレンチの主要花粉化石群集	184
図5 各遺構の主要花粉化石群集	185
図6 4 Bトレンチの植物珪酸体群集	187
図7 各遺構の植物珪酸体群集	188
珪藻化石・テフラ	図版1
花粉化石(1)	図版2
花粉化石(2)	図版3
植物珪酸体	図版4

東奈良遺跡の古環境復元

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

東奈良遺跡は、大阪平野北部の茨木市に所在する遺跡である。本遺跡は弥生時代の環壕集落で微高地から千里丘陵にかけて大規模な集落があったことが推定されている。本報告では、いくつかの地点を対象とした自然科学分析調査を行い、当時の古環境変遷に関する情報を得る。以下に調査対象とする地点とその目的を示す。

・ 2 A トレンチ 土坑968 (V層上面 弥生I)

大型の遺構で、遺構の西側に集落が広がっている。本遺構では、集落内の環境復元を目的として珪藻分析・花粉分析を実施する。

・ 2 A トレンチ (IV層)

集落内の弥生時代遺物包含層で、腐植質な粘土層である。集落域での植生や生活環境の復元を目的として珪藻分析・花粉分析を行う。

・ 2 A トレンチ第6遺構面 土坑1171 (V層上面 弥生I)

土坑968と同様集落に近接した土坑で、土器片が多量に検出されている。そこで、集落域での植生や生活環境の復元を目的として珪藻分析、花粉分析を実施する。

・ 2 B トレンチ溝2040 (V層上面 弥生I)

人為的に構築された溝であり、遺物はほとんど検出されていない。水田などの灌漑設備にともなうものではないかと推測されていることから、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を実施して、その可能性を検証する。

・ 2 B トレンチV層

遺構下部の「地山」に相当する。細粒の火山灰層が検出されていることから、その対比を行うためにテフラ同定を実施する。

・ 3 A トレンチ 溝944 (V層上面 弥生I)

開析谷に沿った低い地形に沿って掘られた溝で、幅4m、深さ1.2mをはかる。遺物は弥生時代中期IV様式の土器片を少量含む。当初環壕の可能性が考えられたが、集落が認められないことから灌漑施設などの可能性が指摘されている。そこで、溝の目的や性格ならびに当時の環境を知るため、珪藻分析ならびに花粉分析を実施する。

・ 4 B トレンチ

このトレンチは、河内潟の岸に相当すると考えられる。V層(地山)は青色の粘土層で、V層上面に弥生時代の遺構が検出される。IV層は、それを覆う腐植まじりの粘土層で、その上部は地震による変形がみられる。IV層上面にも弥生時代の遺構が検出される。III層は河川による氾濫性の堆積物である。この層では、上方に向かって細粒化する級化構造が認められる。III層の上面は、中世の水田面で、畦畔や足跡などが検出される。このため、III層上部は、水田遺構として使われた可能性がある。II層もIII層と同様級化構造がみとめられ、氾濫堆積物と考えられる。II層上面と中ほどに2枚の水田層が確認されている。また生物擾乱も著しいことから、氾濫堆積物を利用した水田であると考えられる。ここでは、稲作の消長や各水田の容態の違い、また、遺跡の時代的にみた古環境変遷を検討する目的で、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析をそれぞれ行う。

1. 試料

各地点で採取された土壌試料について、目的などを考慮して選択し、分析を行った。分析試料の一覧を表1に示す。さらに、4 B トレンチに関しては、柱状図と試料採取層位を併せて図1に示す。

表1 分析試料一覧

試料名	層相					層位
		珪藻	花粉	植珪	テフラ	
2 A トレンチ 土坑968	上層	5Y2/1黒色粘土	○	○		V層上面弥生I
	中層	5Y2/1黒色粘土(植物遺体含む)	○	○		
	下層	2.5Y3/1黒褐色粘土	○	○		
2 A トレンチ		10YR3/1黒褐色粘質土(植物遺体・土器片含む)	○	○		IV層
2 A トレンチ 土坑1171		2.5Y2/1黒色粘土(土器片多く含む)	○	○		V層上面弥生I
2 B トレンチ 溝2040	1	2.5GY2/1黒色粘質土				V層上面弥生I
	2	N2/0黒色粘質土	○	○	○	
	3	2.5Y2/1黒色粘質土		○		
2 B トレンチ	V層	2.5Y6/1黄灰色細粒火山灰			○	V層
3 A トレンチ 溝944	1	7.5YR2/2黒褐色粘土	○	○		V層上面弥生I
	2	7.5YR2/3極暗褐色粘土層(植物遺体含む)		○		
	3	7.5YR2/3極暗褐色粘土層(植物遺体含む)	○	○		
	4	2.5Y2/1黒色粘土層(植物遺体を含む)	○	○		
	5	2.5Y4/2暗灰黄色粘土層(植物遺体を多量に含む)	○	○		
4 B トレンチ	1	5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト	○	○	○	I層
	2	5Y4/2灰オリーブ色砂質粘土			○	II-1層
	3	10G4/1暗緑灰色砂混じり粘土	○	○	○	II-2層
	4	2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルト			○	
	5	10YR5/1褐灰色砂混じり粘土	○	○	○	III-1層
	6	10YR5/1褐灰色砂混じり粘土				
	7	10YR2/3黒褐色シルト混じり粘土	○	○	○	III-2層
	8	2.5Y3/1黒褐色シルト混じり粘土	○	○	○	IV層
	9	10YR2/3黒褐色シルト質粘土				V層
	10	2.5Y3/1黒褐色シルト質粘土				
	11	10YR5/1褐灰色シルト質粘土				

*層相は、添付資料等を参考に作成する。

2. 方法

(1) テフラ分析

試料は、適量を蒸発皿に取り、水を加え、超音波洗浄装置により分散、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより泥分を除去する。得られた砂分を実体顕微鏡および偏光顕微鏡下で観察し、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石の産状を調べる。さらに火山ガラスの屈折率の測定を行う。以上の観察および屈折率の測定結果からテフラの同定を行う。なお、屈折率の測定は、古澤(1995)に示された温度変化型屈折率測定装置を用いて行う。

(2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、K. Krammer and Lange-Bertalot (1986・1988・1991a・1991b)、K. Krammer (1992)などを用いる。

同定結果は、海水～汽水生種、汽水生種、淡水生種順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、

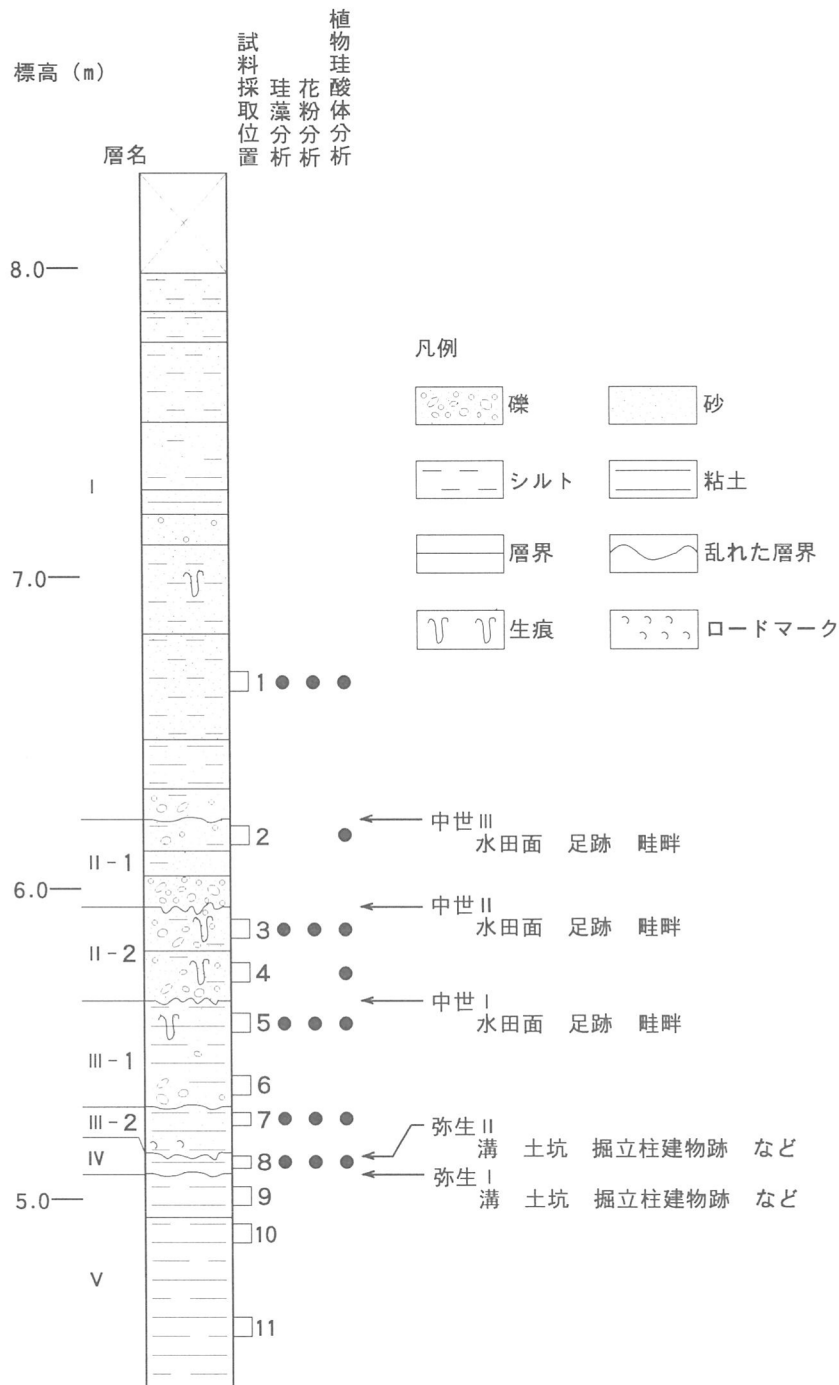


図1 4Bトレンチの柱状図と試料採取層位
柱状図の層相ならびに層界は添付された断面図に基づく。

産出個体数100個体以上の試料については、産出率2%以上の主要な種類について、主要珪藻化石の層位分布図を作成する。また、産出した化石が現地性の化石か他の場所から運搬・堆積した異地性の化石かを判断する目安として完形殻の出現率を求め考察の際に考慮した。堆積環境の解析にあたっては、海水生種・海～汽水生種・汽水生種については小杉(1988)、水生珪藻については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性については、Asai, K. & Watanabe, T. (1995)の環境指標種を参考とする。

(3) 花粉分析

試料約10 g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子は総花粉・孢子数から不明花粉を除いたものを基数とした百分率で出現率を算出し図示する。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

(4) 植物珪酸体分析

湿重5 g 前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W, 250KHz, 1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生や稲作について検討するために、植物珪酸体組成図を作成した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

3. 結果

(1) テフラ分析

本試料には細砂～極細砂径の無色透明の火山ガラスが多量含まれる。火山ガラスの形態は、緩い曲率をもった薄手平板状のいわゆるバブル型が多く、気泡の長く伸びたものが集まった繊維束型も微量認められる。屈折率は平均値1.4996、最小値1.4981、最大値1.5008であった。この火山ガラスは、その形態と色調、屈折率および産出層準から始良T_n火山灰（AT：町田・新井，1976）に由来すると考えられる。ATは、鹿児島県の始良カルデラを給源とし、降灰年代は約2.1～2.5万年前（町田・新井，1992）と考えられている。

(2) 珪藻分析

結果を表2、図2・3に示す。産出種は淡水生種を主体とするが、海水生種、海水生種～汽水生種、汽水生種も数個体産出する。産出分類群数は、39属177種である。以下、地点ごとに産出した珪藻化石について述べる。

・2Aトレンチ土坑968

珪藻化石は上層・下層で100個体以上産出する。中層では41個体と産出数が少ない。完形殻の出現率は40%前後とやや低い。産出種は貧塩不定性種（少量の塩分に耐性がある種、一般的な陸水域に生育）がほとんどを占める。貧塩不定性種の中でも、陸生珪藻は全体の80%以上を占める。陸生珪藻とは、多少の湿り気のある乾いた環境に生育する珪藻である。pH適応性に関しては真+好アルカリ性種が全体の約75%以上と優占する。流水適応性に関しては流水不定性種がほとんどを占める。優占している種は

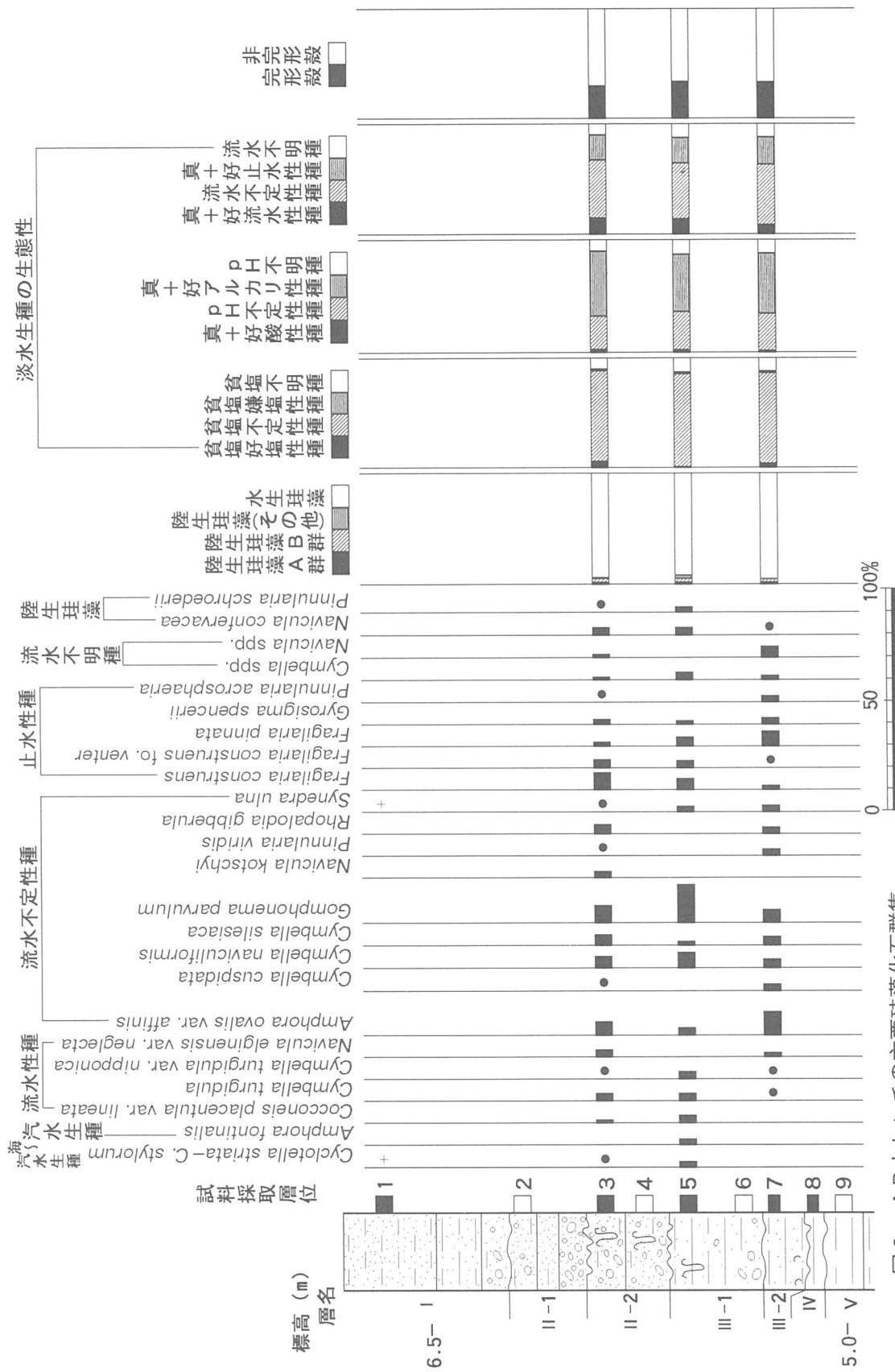


図2 4 Bトレンチの主要珪藻化石群集
 海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は淡水生種の合計を
 基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個体
 未満の試料について検出した種類を示す。

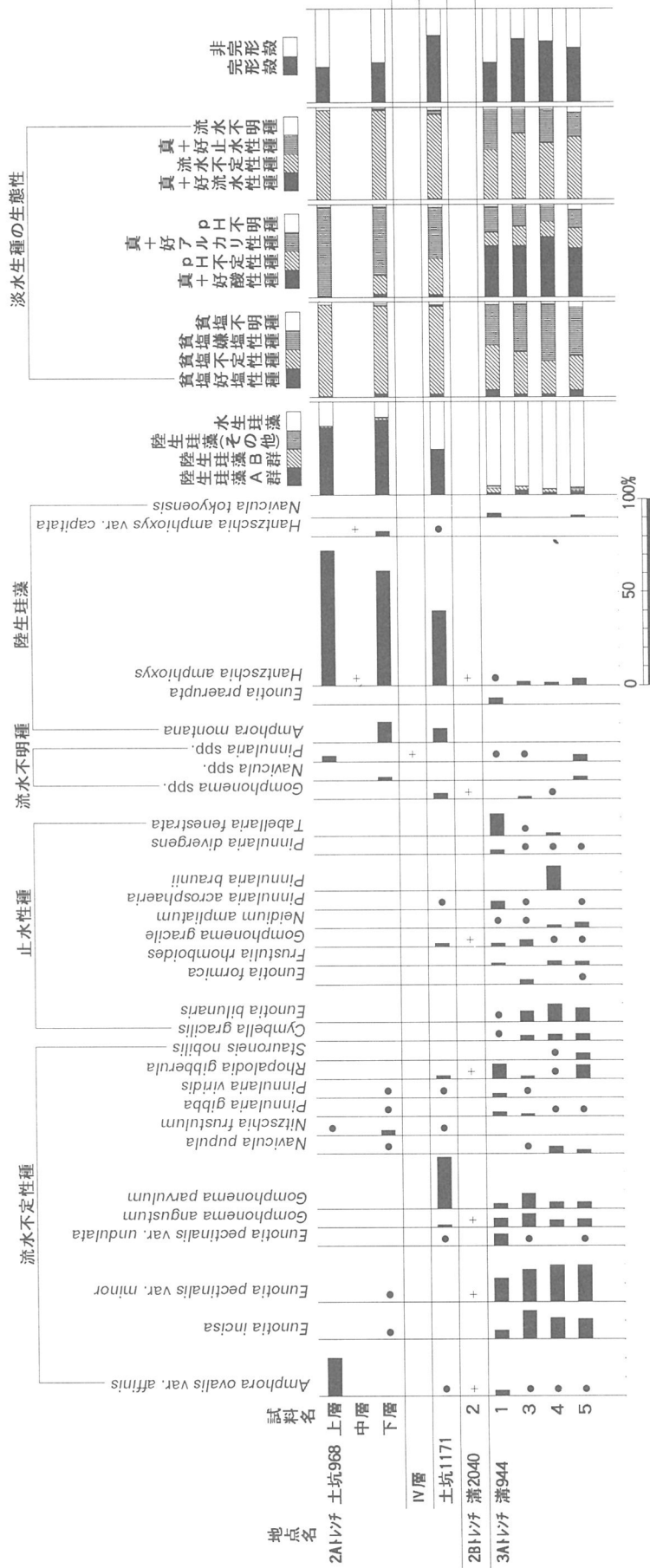


図3 各遺構の主要珪藻化石群集
 海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を
 基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個体
 未満の試料について検出した種類を示す。

上層で、流水不定性種の*Amphora ovalis var. affinis*、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*、下層では陸生珪藻の*Amphora montana*、*Hantzschia amphioxys*である。

- 2 A トレンチⅣ層

本地点では珪藻化石は2個体が検出されたのみである。

- 2 A トレンチ土坑1171

珪藻化石は100個体以上産出する。完形殻の出現率は約70%と高い。産出種は貧塩不定性種がほとんどを占める。また、陸生珪藻が全体の約50%を占める。pH適応性に関しては真+好アルカリ性種が全体の約50%と多産する。流水適応性に関しては流水不定性種がほとんどを占める。優占している種は流水不定性種の*Gomphonema parvulum*、陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*である。

- 2 B トレンチ溝2040

珪藻化石の産出数は30個体と少ない。

- 3 A トレンチ溝944

珪藻化石はすべての試料で100個体以上産出する。完形殻の出現率は40~65%である。産出種は貧塩不定性種および貧塩嫌塩性種（少量の塩分にも耐えることができない種）が優占しており、両者を合わせて全体の90%以上を占める。pH適応性に関しては、真+好酸性種が全体の約55%を占める。流水適応性に関しては、流水不定性種が全体の50~80%と優占する。次いで止水性種が15~40%を占める。優占している種は全体に流水不定性種の*Eunotia incisa*、*Eunotia pectinalis var. minor*、*Gomphonema parvulum*、好止水性種の*Eunotia bilunaris*などである。また、試料番号1では、好止水性種の*Tabellaria fenestrata*、試料番号4では*Pinnularia braunii*も多産する。

- 4 B トレンチ

珪藻化石は、試料採取層位3、5、7で100個体以上産出する。また、完形殻の出現率は、いずれも30%前後と低い。産出種は、貧塩不定性種の淡水生種を主体とするが、海水生種~汽水生種、汽水生種も数個体産出する。pHに対する適応性に関しては、真+好アルカリ性を示す種が50%前後、流水適応性に関しては、流水不定性種が50%以上を占める試料がほとんどである。

また、試料採取層位1では、珪藻化石の産出数は少ないが、化石の破片は多数見られる。試料採取層位8では、同定可能な化石は産出せず、珪藻化石の破片も少ない。

本地点の珪藻化石群集は、試料採取層位5で*Gomphonema parvulum*が約15%と多産する他は、産出種の生態性の特徴は比較的似ている。珪藻化石群集の生態性の特徴は、*Cyclotella striata*-*C. stylorum*などの海~汽水生種、*Cocconeis placentula var. lineata*などの流水性種、*Cymbella naviculiformis*、*Pinnularia viridis*などの流水不定性種、*Fragilaria pinnata*、*Pinnularia acrosphaeria*などの止水性種、*Navicula confervacea*などの陸生珪藻など、様々な環境で生育する種が混在している。

(3) 花粉化石

結果を表3、図4・5に示す。以下に各地点毎の結果を記す。

- 2 A トレンチ土坑968

大部分が草本花粉で占められている。特にイネ科の割合が顕著に高く、アカザ科も多い。木本花粉の割合は非常に低いが、木本花粉を基数とした出現率は、3 A トレンチ溝944と組成が近似する。

- 2 A トレンチⅣ層

大部分が草本花粉で占められている。その中でもツリフネソウ属の割合が高く、オナモミ属、イネ科

表3 花粉分析結果

種類	2 A トレンチ					2B トレンチ		3 A トレンチ					4 B トレンチ					
	土坑968			土坑 1171	溝2040		溝944											
	試料番号	上層	中層		下層	IV層	2	3	1	2	3	4	5	1	3	5	7	8
木本花粉																		
マキ属	-	-	-	-	1	-	-	5	1	2	7	-	-	-	1	-	-	8
モミ属	16	20	11	4	13	3	10	26	7	27	23	20	2	6	10	15	28	
ツガ属	4	8	4	7	7	2	4	14	-	5	5	3	13	15	18	9	14	
トウヒ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	
カラマツ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
マツ属	11	12	15	9	34	1	-	32	5	19	17	7	218	72	93	50	18	
コウヤマキ属	-	2	2	1	2	-	16	17	1	6	1	-	2	1	4	6	9	
マオウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
スギ属	9	10	26	38	12	-	1	53	11	16	12	13	2	16	17	33	44	
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	-	4	-	-	-	-	6	4	-	1	2	-	4	8	14	
ヤナギ属	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	
ヤマモモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	2	2	1	3	
クルミ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	1	-	
クマシデ属-アサダ属	1	-	-	1	-	-	-	-	3	2	4	4	1	11	6	15	4	
ハンノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	9	2	1	2	
ハシバミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
カバノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	4	2	
ブナ属	3	-	-	1	-	-	-	-	3	1	3	5	4	5	2	2	2	
コナラ属-コナラ亜属	34	37	14	25	20	-	-	30	119	134	104	110	4	30	27	36	35	
コナラ属-アカガシ亜属	18	21	31	16	46	-	1	35	61	43	47	45	10	32	34	75	52	
クリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
シイノキ属	5	5	3	1	3	-	-	5	2	3	1	8	1	7	6	8	3	
ニレ属-ケヤキ属	-	2	-	-	-	-	1	2	4	10	7	5	2	10	4	4	4	
エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	-	-	-	2	4	3	1	-	3	1	6	1	-	
フウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
アカメガシワ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
ウルシ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
モチノキ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	
ブドウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
ノブドウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
ウコギ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	
ツツジ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	
カキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
イボタノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
トネリコ属	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
草本花粉																		
ガマ属	2	3	-	-	-	-	-	1	-	5	1	-	-	-	-	-	-	
ミクリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	
サジオモダカ属	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	
オモダカ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	
ミズオオバコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
イネ科	590	628	2898	55	181	-	-	31	35	19	20	12	-	-	-	-	-	
イネ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46	229	135	169	6	
他のイネ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66	96	140	76	44	
カヤツリグサ科	14	9	42	2	7	-	-	28	1	3	2	5	7	9	13	9	14	
ミズアオイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	4	3	3	
ギンギン属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
サナエタデ節-ウナギツカミ節	-	-	4	5	-	-	-	3	1	3	-	-	1	-	-	-	2	
ソバ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	5	-	1	-	
アカザ科	37	71	381	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	
ナデシコ科	2	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	
コオホネ属	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
カラマツソウ属	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
キンボウゲ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
アブラナ科	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
マメ科	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	
ツリフネソウ属	-	-	-	198	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
キカシグサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
アリノトウグサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
セリ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
オミナエシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	1	-	1	1	-	
キュウリ属	-	-	31	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヨモギ属	26	31	10	10	1	1	1	10	5	3	3	25	2	8	4	7	11	
オナノミ属	-	1	6	86	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
他のキク亜科	-	-	7	-	1	-	-	2	-	1	-	-	1	1	1	1	2	
タンポポ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	
不明花粉	2	1	6	-	2	-	-	4	2	1	-	1	1	9	1	6	1	
シダ類孢子																		
サンショウモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	
アカウキクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
他のシダ類孢子	40	52	62	28	25	14	215	60	14	39	21	31	67	20	35	8	164	
合計																		
木本花粉	101	117	112	109	139	7	32	219	226	282	238	226	275	227	241	278	247	
草本花粉	676	744	3382	359	193	1	2	78	50	36	27	47	139	360	302	269	84	
不明花粉	2	1	6	0	2	0	0	4	2	1	0	1	1	9	1	6	1	
シダ類孢子	40	52	62	28	25	14	215	60	14	39	21	31	68	21	36	8	164	
総計(不明を除く)	817	913	3556	496	357	22	249	357	290	357	286	304	482	608	579	555	495	

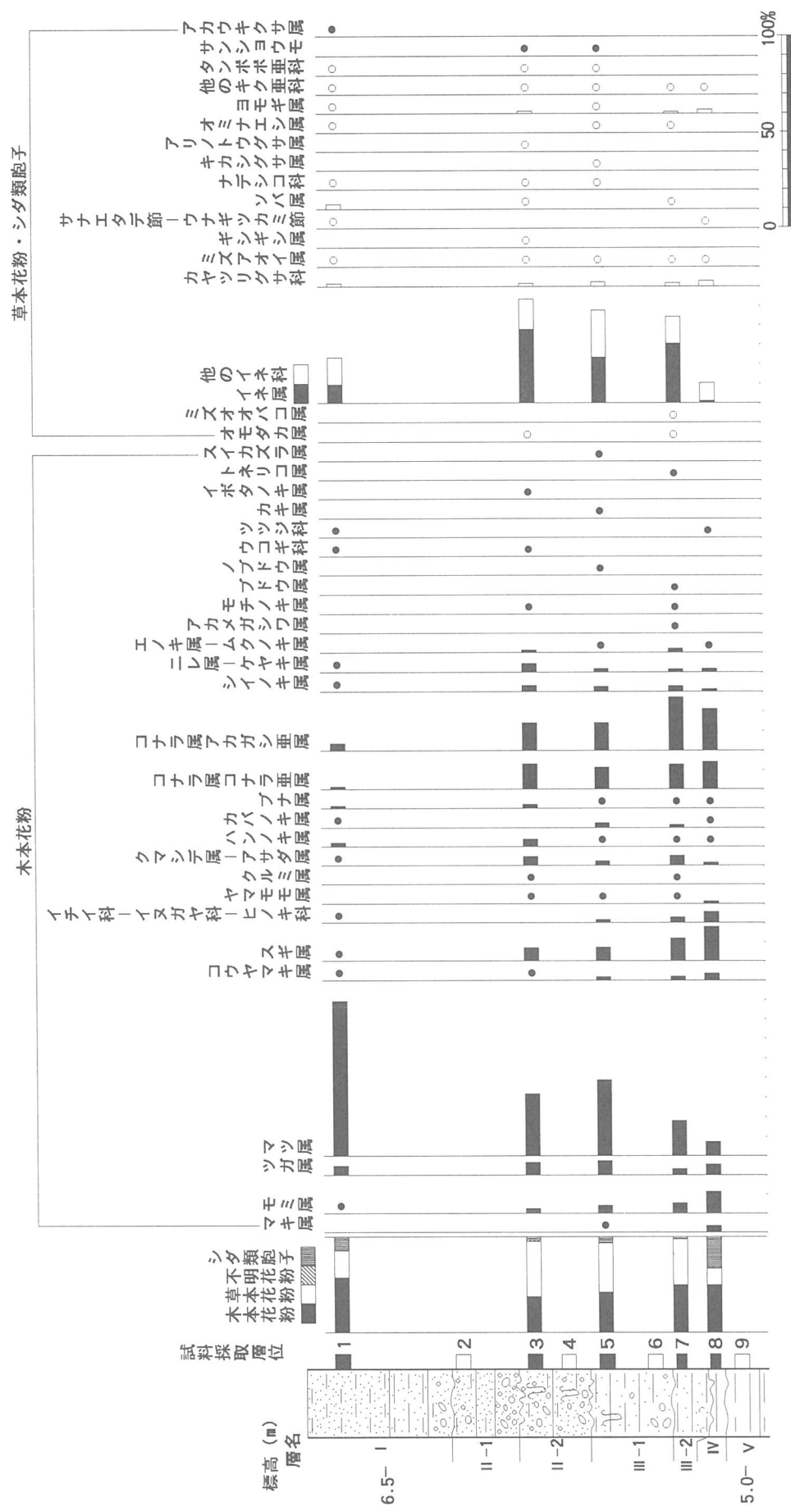


図 4 4 B トレンチの主要花粉化石群集
出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、○●は 1%未満の試料について検出した種類を示す。

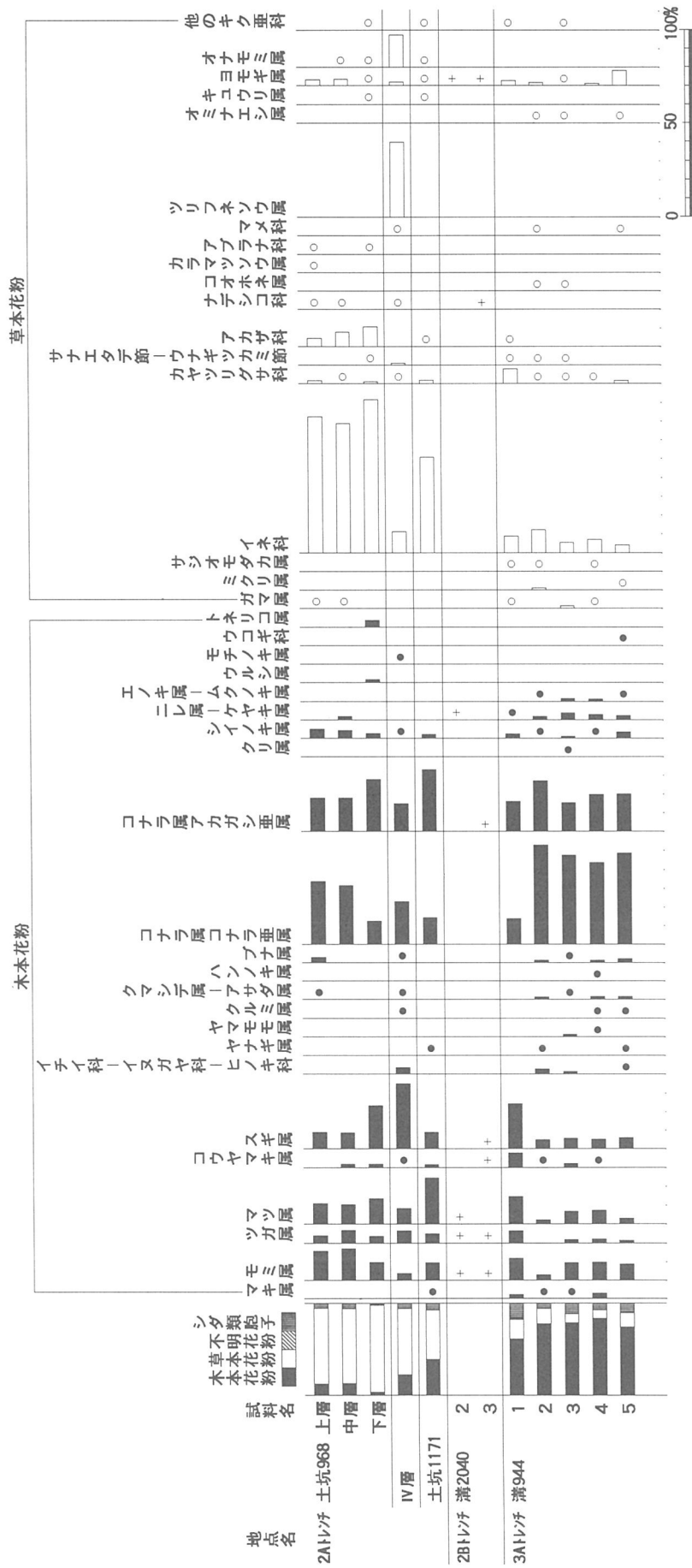


図5 各遺構の主要花粉化石群集
 出現率は、木本花粉は木本花粉総数・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、○●は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

の割合も比較的高い。木本花粉は、スギ属の割合が高く、コナラ亜属、アカガシ亜属、マツ属などを伴っている。

- 2 A トレンチ土坑1171

草本花粉の割合がやや高い。草本花粉ではイネ科の割合が高い。木本花粉では、スギ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、マツ属などが多く検出される。

- 2 B トレンチ溝2040

花粉化石の保存が悪く、種類数、個体数ともに少ない。

- 3 A トレンチ第6遺構面溝944

全体的に木本花粉の割合が多い組成を示す。木本花粉ではコナラ亜属の割合が高く、アカガシ亜属、モミ属、マツ属、スギ属などを伴っている。ただし、試料番号1ではコナラ亜属の割合がやや低い。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科が検出されるが割合は低い。その他水生植物として、ガマ属、ミクリ属、コオホネ属が検出される。

- 4 B トレンチ

試料番号8、試料番号7～3、試料番号1で、花粉化石群集がそれぞれ変化する。試料番号8は、木本花粉の割合が比較的高い。木本花粉では、アカガシ亜属、コナラ亜属、スギ属の割合が高い。草本花粉では、イネ科の割合がやや高いが、全体的に出現率は低い。試料番号7～3は、草本花粉の割合が高くなる。木本花粉では、マツ属、スギ属、コナラ亜属、アカガシ亜属が多く検出される。特に、下位と比較して、マツ属が増加している。草本花粉では、イネ科の割合が高く、特にイネ属が顕著にみられる。サンショウモ、オモダカ属など、水生植物も少量ながら検出される。試料番号1は、再び木本花粉の割合が増加する。木本花粉ではマツ属が優占し、他の木本花粉の割合は著しく低下する。草本花粉では、イネ科が比較的多く、その中にはイネ属も含まれる。その他、アカウキクサ属などの水生植物や、ソバ属などの栽培植物もみられる。

(4) 植物珪酸体

結果を表4と図6・7に示す。4 B トレンチおよび溝2040試料からは植物珪酸体が検出される。しかし、保存状態の悪いものが多く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。

- 2 B トレンチ 溝2040

タケ亜科が優占し、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。

- 4 B トレンチ

弥生時代とされる試料番号8では、栽培植物のイネ属がわずかに認められる。検出される種類の中ではタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属やウシクサ族（ススキ属やコブナグサ属を含む）、イチゴツナギ亜科も見られる。試料番号7や試料番号5でも同様な組成が見られるが、イネ属が増加する傾向が認められる。試料番号4、3では、イネ属の出現率が高くなり、特に機動細胞珪酸体は20%近い出現率である。また、タケ亜科が優占し、ヨシ属やウシクサ族（ススキ属やコブナグサ属を含む）、イチゴツナギ亜科も見られる。試料番号2は、検出個数が少ないものの、タケ亜科の多産とイネ属の産出がみられる。試料番号1でも中世水田層と同様な組成が見られ、タケ亜科が優占する中でイネ属の出現率も高い。

表 4 植物珪酸体分析結果

種 類	2Bトレンチ	4 B トレンチ							
	溝2040 試料番号	1	2	3	4	5	7	8	
イネ科葉部短細胞珪酸体									
イネ族イネ属	-	31	-	15	13	8	2	1	
タケ亜科	234	120	24	138	138	179	224	205	
ヨシ属	-	6	-	2	3	2	2	1	
ウシクサ族コブナグサ属	-	1	-	-	2	-	-	1	
ウシクサ族ススキ属	18	3	3	8	15	8	2	6	
イチゴツナギ亜科	1	10	3	7	5	4	-	1	
不明キビ型	9	13	2	14	19	4	14	4	
不明ヒゲシバ型	1	11	2	16	17	5	10	2	
不明ダンチク型	3	15	-	11	18	8	11	-	
イネ科葉身機動細胞珪酸体									
イネ族イネ属	-	14	7	26	34	28	10	1	
タケ亜科	89	59	7	71	115	118	201	124	
ヨシ属	-	3	2	3	2	1	2	-	
ウシクサ族	7	7	3	16	8	5	3	5	
不明	6	22	3	18	24	25	12	4	
合 計									
イネ科葉部短細胞珪酸体	266	210	34	211	230	218	265	221	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	102	105	22	134	183	177	228	134	
総 計	368	315	56	345	413	395	493	355	
組 織 片									
イネ属類珪酸体	-	-	-	3	-	1	-	-	
イネ属短細胞列	-	3	-	4	2	1	-	-	

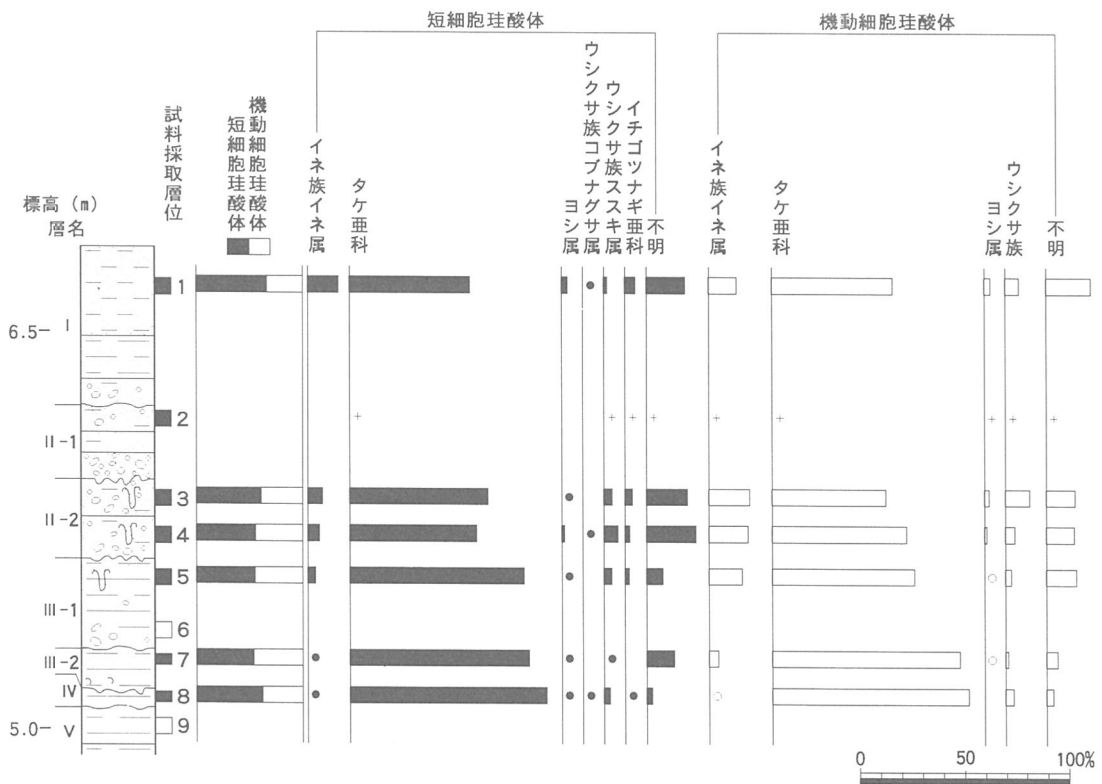


図 6 4 B トレンチの植物珪酸体群集

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。

なお、●○は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個未満の試料で検出された種類を示す。

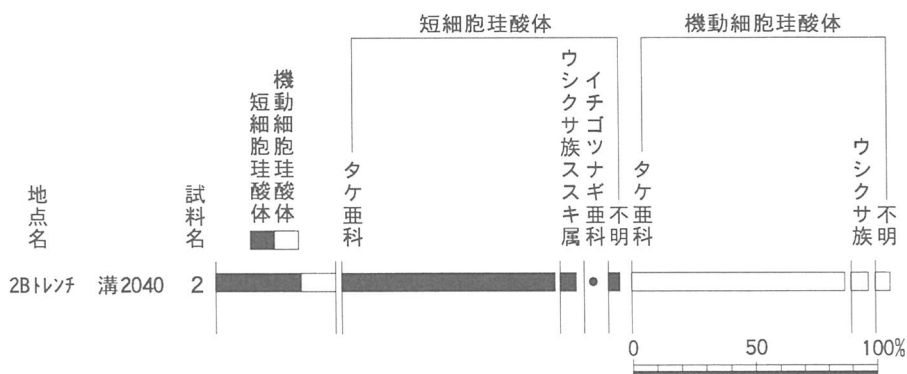


図7 各遺構の植物珪酸体群集

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満の種類を示す。

4. 考察 一各地点（遺構）の環境変遷一

・2Aトレンチ土坑968

珪藻化石群集で多い種類をみると、流水不定性種の *Amphora ovalis* var. *affinis* は、水域から広く認められることから、広適応種と呼ばれる (Asai & Watanabe, 1995)。また、*Amphora montana* および *Hantzschia amphioxys* 等の陸生珪藻は、コケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群 (小杉, 1988) である。特に、本地点から産出した陸生珪藻は、離水した場所の中で乾燥に耐えうることのできる乾燥に強い種群とされる (伊藤・堀内, 1989; 1991)。さらに、堆積物の分析を行った際、これらの種群が優占 (70~80%以上) する結果が得られれば、その試料が堆積した場所は、水域以外の空気に曝されて乾いた環境であったことが推定できるとしている。したがって、本遺構の埋積過程としては、水域であったとは考え難く、基本的に乾いた状態にあり、おおむね裸地のような環境下にあったものと推定される。

一方、花粉化石の状況をみると、イネ科をはじめ、アカザ科、ヨモギ属など草本類の花粉化石が優占する。草本類の花粉化石は、飛散量も少なく局地性を反映していると考えられることから、当時集落内は、イネ科などの草本類が主体の植生でおおわれていたと思われる。

・2AトレンチIV層

本地点での珪藻化石は2個体が検出されたのみである。これらは破損している上に表面は溶蝕を受けており、保存不良であった。したがって、本地点の環境については、推定することができない。ただ、検出量が少ないことや認めた個体の保存状態は悪いことから、堆積時に多くの珪藻が存在したとしても、好氣的環境下であったために大半が分解消失した可能性が示唆される。

花粉化石の状況をみると、土坑968と同様草本類が主体である。しかし、その種類構成は異なっており、ツリフネソウ属、オナモミ属、イネ科などが多く検出されている。この中でも特にツリフネソウ属は虫媒花であるため、花粉の生産量・飛散能力ともに低い。また、花粉化石が塊状で検出されていることからしても、花ごと落下してからの移動距離が少ないと思われる。このことから、分析地点のごく近くに、ツリフネソウ属が生育していたと考えられる。このように、種類構成は異なるものの、基本的には他のV層上面の遺構と同様に、集落内は草地であったと考えられる。

・2Aトレンチ土坑1171

珪藻化石の群集は、陸生珪藻が約半数を占める。なお、水生珪藻で多産する *Gomphonema parvulum* の

生態性は、塩分・pH・流水のいずれに対しても不定であり、水域には比較的広範に認められることから、広適応種 (Asai & Watanabe, 1995) とされる。本種は、陸生珪藻に伴って認められることも多いことから、好気的環境下にも生育する可能性も考えられている。本地点の群集は陸生珪藻が多産していること、また、水生珪藻でも好気的な環境にも適応する可能性のある種を中心に構成されることから、堆積時はおおむね好気的環境であったものと推定される。

花粉化石の結果をみると、草本花粉全体の割合がやや少ないものの、概ね土坑968と組成がにていることから、V層上面の集落構築時の植生としては、イネ科草本を主体とする草地であったと考えられる。

・ 2 B トレンチ溝2040

本遺構では、花粉化石や珪藻化石の産出数が少ない。これは、溝の埋積が急であった等の理由により、化石が取り込まれにくかったためと考えられる。本遺構は、灌漑などの施設の一部とみられている。しかし、イネ属の植物珪酸体がみられないことから、今回行った分析だけでは、それを裏付けることは難しい。

・ 3 A トレンチ第6遺構面溝944

珪藻化石群集からみた多産種の生態あるいは生育環境をみると、*Eunotia incisa*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Eunotia biunaris*および*Tabellaria fenestrata*が好酸性種である。これらが生育する場所は、水深が1 m内外で一面に植物が繁殖しているところや湿地であり、このような沼沢あるいは湿地に付着の状態で優勢な出現が見られるとされる (安藤, 1990)。そのため、本種は、沼沢湿地付着性種群と呼ばれ、沼沢から湿地の環境指標種と認識されている (安藤, 1990)。また、*Tabellaria fenestrata*は、清浄な水域を好んで生育することから好清水性種 (Asai & Watanabe, 1995) とも呼ばれる。*Gomphonema angustum*、*Gomphonema parvulum*などは、水域であれば広く認められることから、広域適応種とされる。*Pinnularia braunii*については、好酸性および好止水性であり、湿地等に生育する種であるが、一般には優占することが少なく、今回のように多産することは珍しい。以上の多産種の生態性と群集の特徴からみると、それぞれの試料で大きな環境の変化はなく、いずれの試料採取層準も沼沢湿地の環境のもとで堆積したものと推定される。一方、花粉化石でみられるガマ属、ミクリ属、コオホネ属の生育環境から考えても、水深が浅く流れの少ない淀んだ水域が推定されることから、珪藻化石の結果と調和的である。以上のことから、発掘所見で予測されたように、この遺構が導水や排水などの水利施設であった可能性があるといえる。

・ 4 B トレンチ

ここでは、主に稲作を中心とした局地的な状況に関して述べる。遺跡全体としてみた環境変化に関しては、他の遺構の結果も交えながら、まとめの項で検討する。

珪藻化石が100個以上産出した層位 (試料番号3、5、7) での珪藻化石群集の特徴は、大きく優占する種がなく、様々な環境で生育する種が混在していることである。このような生育環境の多様な群集は混合群集とされ、河川などの氾濫の影響を受けている堆積物に多く見られる (堀内ほか, 1996)。よって、試料採取層位3、5、7は、基本的には氾濫の影響を受けている可能性がある。

珪藻化石群集と層相の対応を下部から見ていくと、IV層では、珪藻化石は産出せず、破片も少ない。サンプルはシルト～粘土であるので、シルト以下粒子と挙動を共にする珪藻化石 (小杉, 1986) は、通常なら堆積することが多い。この場合は、何らかの原因で珪藻化石が溶解したことなどが考えられる。なお、I層 (試料番号1) で珪藻化石がほとんど産出しないことも、同様の理由と思われる。

Ⅲ-2層は、砂～シルトであり、珪藻化石が様々な生態性の種が混在する混合群集を形成している。よって、Ⅲ-2層は氾濫堆積物である可能性がある。なお、Ⅲ-2層の上部は、草本植物による擾乱の影響を受けており、イネ属の植物珪酸体や花粉化石が多産する。このことから、Ⅲ-2層が一定の期間地表面であり、氾濫堆積物を耕作土として利用した水田耕作が行われていた可能性がある。

Ⅲ-1層は、砂～シルトであり、下部に礫を含む。また、Ⅲ-1層の珪藻化石群集は、混合群集である。このことから、Ⅲ-1層の上をさらに氾濫堆積物が覆ったことが考えられる。本層の上面には、水田遺構が見られることから、Ⅲ-1層が水田耕土として利用されていたことが考えられる。イネ属の植物珪酸体、花粉化石ともに検出されることから、その可能性は高いといえよう。

Ⅱ層でも、珪藻化石、花粉化石、植物珪酸体の産状は、Ⅲ層と近似する。したがって、Ⅲ層で起こっていた状況はⅡ層でも同様であったといえる。すなわち、Ⅱ層では、Ⅱ-1層の上面とⅡ-2層の上面で水田遺構が確認されている。洪水による氾濫で水田層が埋没したあと、上に覆った氾濫堆積物を水田耕土として、再び稲作を営むようになる。このような状況がⅢ層とⅡ層では繰り返されていたことが考えられる。

5. まとめ 一遺跡としての古環境変遷と各地点の比較一

ここでは、東奈良遺跡の古環境変遷を、各層毎に地点毎の差異や他の遺跡との比較などに着目しながらまとめる。

Ⅳ層に相当する時代は、大阪平野ではこれまで多くの花粉分析が行われ、当時の森林植生に関してまとめられている。これによれば、弥生時代の大阪平野周辺の森林植生として、アカガシ亜属、シイノキ属中心の照葉樹林を基調にしながら、マツ属、スギ属、モミ属、ツガ属、コウヤマキ属、ブナ属、エノキ属—ムクノキ属が微増あるいは増加したとされる。このうち、マツ属の増加は人為的な植生破壊による影響、その他の温帯針葉樹林の増加は気候の冷涼化が原因と考えられている（前田，1984）。また、大阪湾岸部の花粉化石群集の特徴をまとめた研究によれば、この時期の花粉化石組成として、アカガシ亜属が卓越し、シイノキ属、マキ属、ヤマモモ属を伴うとされる（古谷・田井：1993，Furutani，1989）。さらに、遺跡内での花粉分析結果をみても、堺市の小阪遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社：1992，鈴木：1992，安田：1992）や、東大阪市の宮ノ下遺跡（辻本ほか，1996）などで、先に述べたのと同様な結果が得られている。今回の結果をみると、溝944で特徴的にみられるように、コナラ亜属が多産する。この点は、他の遺跡と傾向が異なっている。コナラ属の生育環境をみると、クヌギやナラガシワなどのように、河畔や低地に生育し、林を形成する場合がある。本遺跡の立地からすれば、河畔林や湿地林としての、局地的なナラ林の存在が考えられる。一方、同じナラ類でも、コナラやアベマキなどの里山林は人為的な伐採や保護によって成立し、維持される林である。弥生時代～古墳時代にかけては、生業の変化に伴い、各地で植生改変が起こったことが、各地の発掘の成果から明らかになっている（辻，1993）。ナラ林は、二次林としては一般的であるが、花粉化石群集からは自然植生との区別が付きにくいのが現状である。今回のナラ類の多産が、二次林に起因するか否かは現状では不明であり、今後も継続して注目しておきたい課題である。なお、コナラ属以外の木本花粉は、既存の結果と調和的である。このことから、広域的な植生を反映していると考えられ、前田（1984）等と同様な景観が推定される。

Ⅳ層ならびにⅤ層上面の遺構覆土の組成を比較すると、平面的に違いがみられる。集落の中心に近い

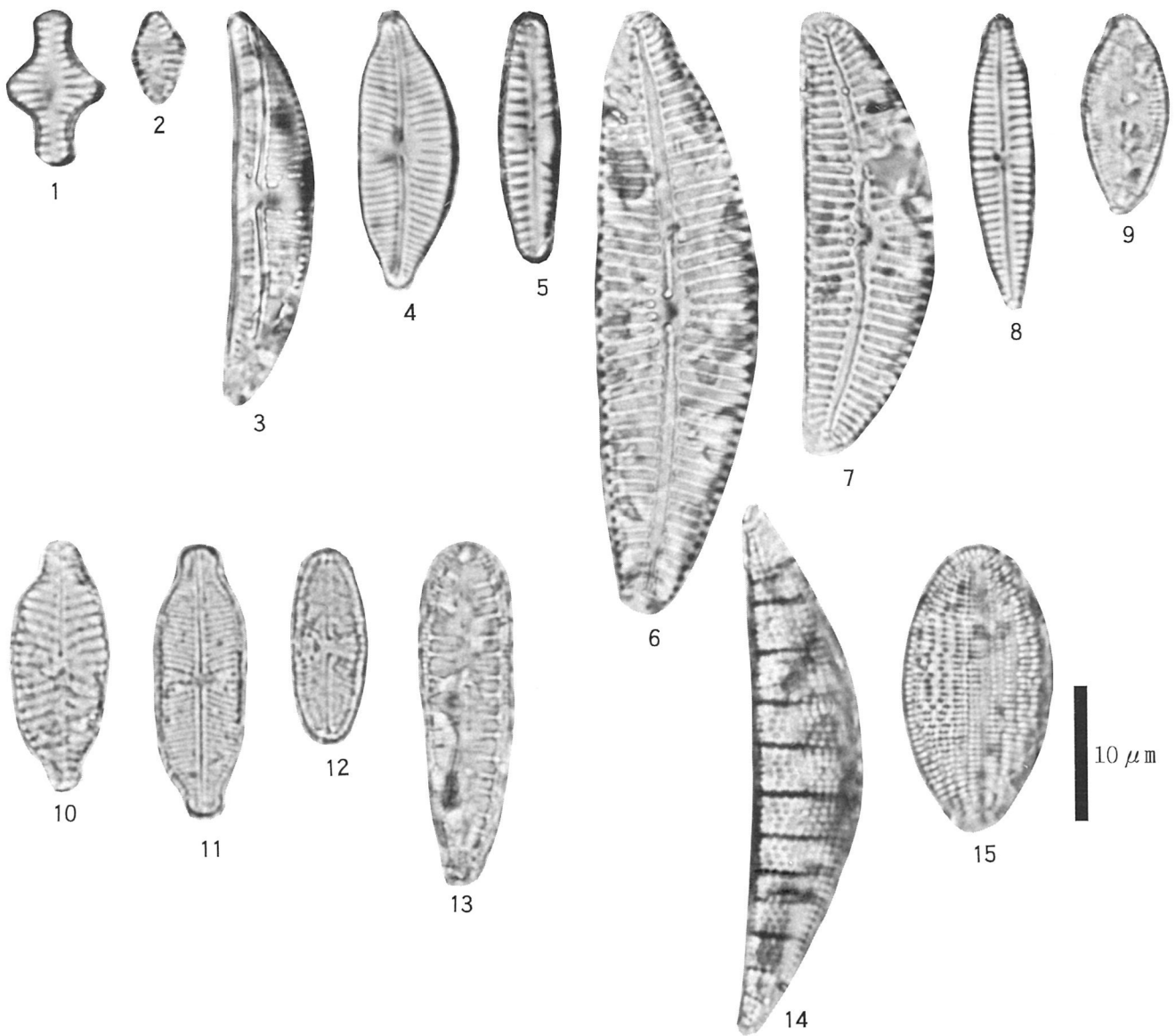
2 A トレンチでは、草本中心の花粉化石組成を示し、また珪藻化石では乾燥した状況が推定されている。一方、標高がやや低い3 A トレンチの溝内では、比較的水深が浅く流れも少ない水域で、コオホネ属やミクリ属など抽水植物が繁茂するような環境であったと推定される。さらに、旧河内潟の岸に近い4 B トレンチでは、近くに河畔林があったとみられ、水生植物の検出などから湿った環境が推測される。これらのことから考えると、弥生時代の古環境として、集落域は草本主体の植生で地表面が乾燥し、標高の低いところでは湿地的環境で河畔林などが生育していたと考えられる。なお、3 A トレンチは両者の境に位置することから、検出された溝の用途として灌漑などの給・排水機能や土地区画などが推定される。

4 B トレンチⅢ層・Ⅱ層は、氾濫堆積物である。氾濫の影響を受けながら水田耕作を行っており、氾濫が起こると、水田を覆った洪水層を利用して再び水田を復旧させていたことがうかがわれる。Ⅱ層、Ⅲ層をあわせると、中世の水田層は3面確認されているが、実際には耕土が流出したりして、明確に認識されないものも存在するであろうから、氾濫の影響を幾度も受けていたと思われる。なお、Ⅲ層より上位では、マツ属の増加が顕著になる。マツ属の増加は、人間の生業に伴う植生干渉の結果、マツの二次林や植林が増えた結果であり、多くの遺跡で同様な事例が報告されている（辻，1993など）。なお、この傾向は、近世以降の堆積物であるⅠ層ではさらに顕著になる。またⅢ層より上位では、イネ属に加えてソバ属の花粉も検出されており、周辺での栽培が示唆される。

引用文献

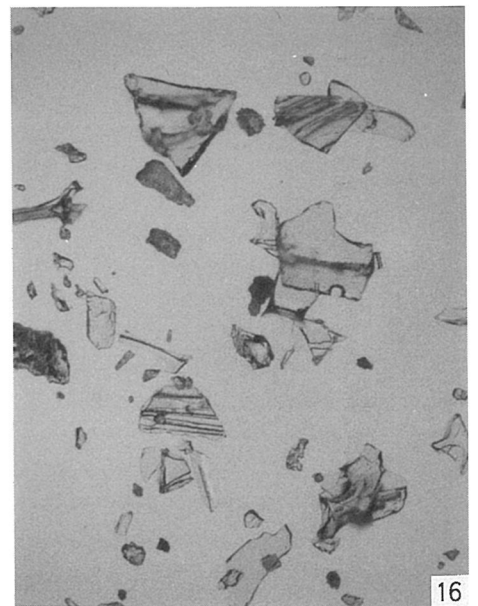
- Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, Vol. 10, p.35-47.
- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. *東北地理*, 42, p.73-88
- 古澤 明 (1995) 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. *地質学雑誌*, 101, p.123-133.
- 古谷正和・田井昭子 (1993) 大阪層群と段丘堆積層・沖積層の花粉化石. 「大阪層群」, 市原 実編著, p.247-255, 創元社.
- Furutani Masakazu (1989) Stratigraphical Subdivision and Pollen Zonation of the Middle and Upper Pleistocene in the Coastal Area of Osaka Bay, Japan. *Journal of Geosciences, Osaka City University* 32 (4), p.91-121.
- 堀内誠示・高橋敦・橋本真紀夫 (1996) 珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について. *日本文化財科学会 第13回大会研究発表要旨集*, p.62-63.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1989) 古環境解析からみた陸生珪藻の検討 ——陸生珪藻の細分——. *日本珪藻学会第10回大会 講演要旨集*, p.17.伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. *日本珪藻学誌*, 6, p.23-44.
- 小杉正人 (1986) 現世干潟における珪藻遺骸の運搬・堆積パターン—小櫃川下流域の場合—. *地理学評論*, 59, p.37-50.
- 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. *第四紀研究*, 27, p.1-20.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische

- Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26. p.1-353. BERLIN • STUTTGART.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—. 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 276p., 東京大学出版会.
- 前田安夫 (1984) 花粉分析学的研究よりみた近畿地方の洪積 (更新) 世後期以降の植生変遷. 「日本植生誌 近畿」, 宮脇 昭編著, p.87-99. 至文堂.
- パリオ・サーヴェイ株式会社 (1992) 小阪遺跡における珪藻・花粉・植物珪酸体からみた古環境. 「小阪遺跡 —近畿自動車道松原海南線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査報告書— 自然科学・考察編」, p.561-582. 大阪府教育委員会・大阪文化財センター
- 鈴木 茂 (1992) 小阪遺跡15Fトレンチの花粉化石. 「小阪遺跡 —近畿自動車道松原海南線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査報告書— 自然科学・考察編」, p.525-533. 大阪府教育委員会・大阪文化財センター
- 辻本裕也・伊藤良永・馬場健司 (1996) 古環境. 「宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書 —第2分冊—」, p.27-55, 東大阪市教育委員会・東大阪市文化財協会.
- 辻 誠一郎 (1993) 植物と気候. 「古墳時代の研究 総論・研究史」, 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編, p.105-112. 雄山閣
- 安田喜憲 (1992) 小阪遺跡の泥土の花粉分析. 「小阪遺跡 —近畿自動車道松原海南線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査報告書— 自然科学・考察編」, p.519-522. 大阪府教育委員会・大阪文化財センター
- 近藤錬三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-64.



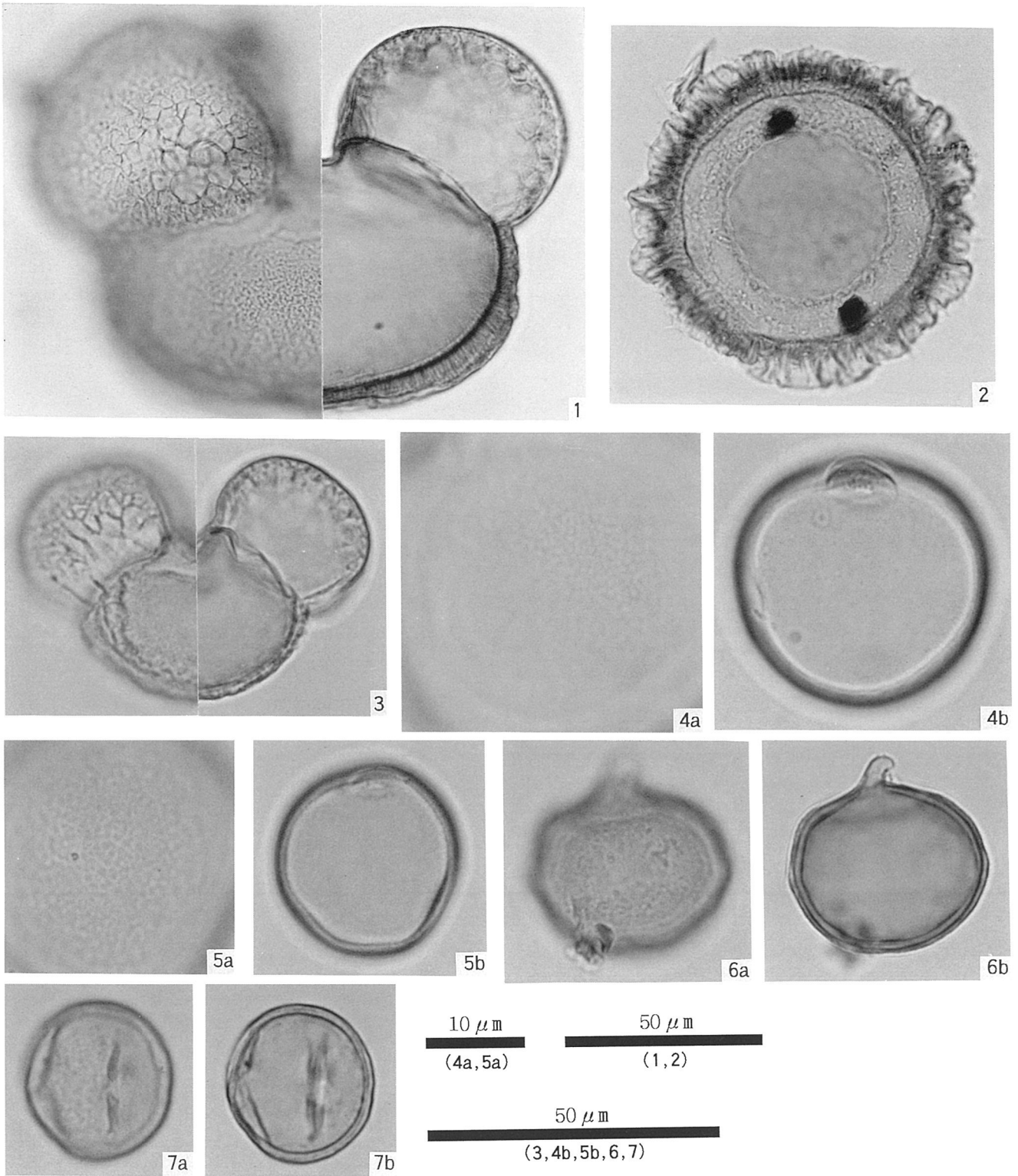
10 μm

1. *Fragilaria construens* (Ehr.) Grunow (4Bトレンチ; 3)
2. *Fragilaria construens* fo. *venter* (Ehr.) Hustedt (4Bトレンチ; 3)
3. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) V. Heurck (4Bトレンチ; 3)
4. *Cymbella naviculiformis* Auerswald (4Bトレンチ; 3)
5. *Cymbella sinuata* Gregory (4Bトレンチ; 3)
6. *Cymbella turgidula* Grunow (4Bトレンチ; 3)
7. *Cymbella turgidula* var. *nipponica* Skvortzow (4Bトレンチ; 3)
8. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (4Bトレンチ; 3)
9. *Navicula confervacea* (Kuetz.) Grunow (4Bトレンチ; 3)
10. *Navicula elginensis* var. *neglecta* (Krass.) Patrick (4Bトレンチ; 3)
11. *Navicula kotschyi* Grunow (4Bトレンチ; 3)
12. *Navicula mutica* Kuetzing (4Bトレンチ; 3)
13. *Surirella ovata* var. *pinnata* (W. Smith) Hustedt (4Bトレンチ; 3)
14. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O. Muller (4Bトレンチ; 3)
15. *Cocconeis placentula* var. *euglypta* (Ehr.) Cleve (4Bトレンチ; 3)
16. A T の火山ガラス(2Bトレンチ; V層)



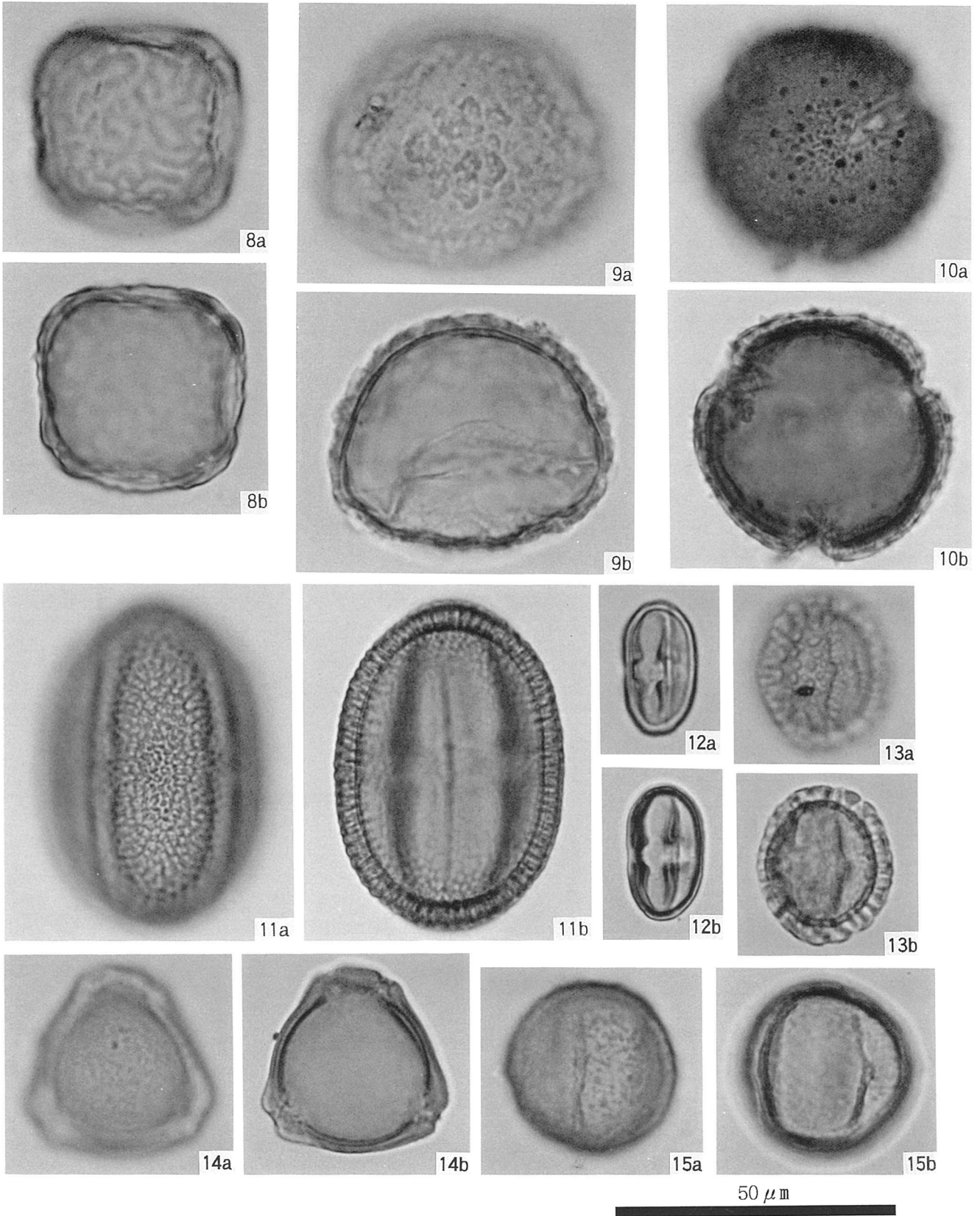
0.5mm

16



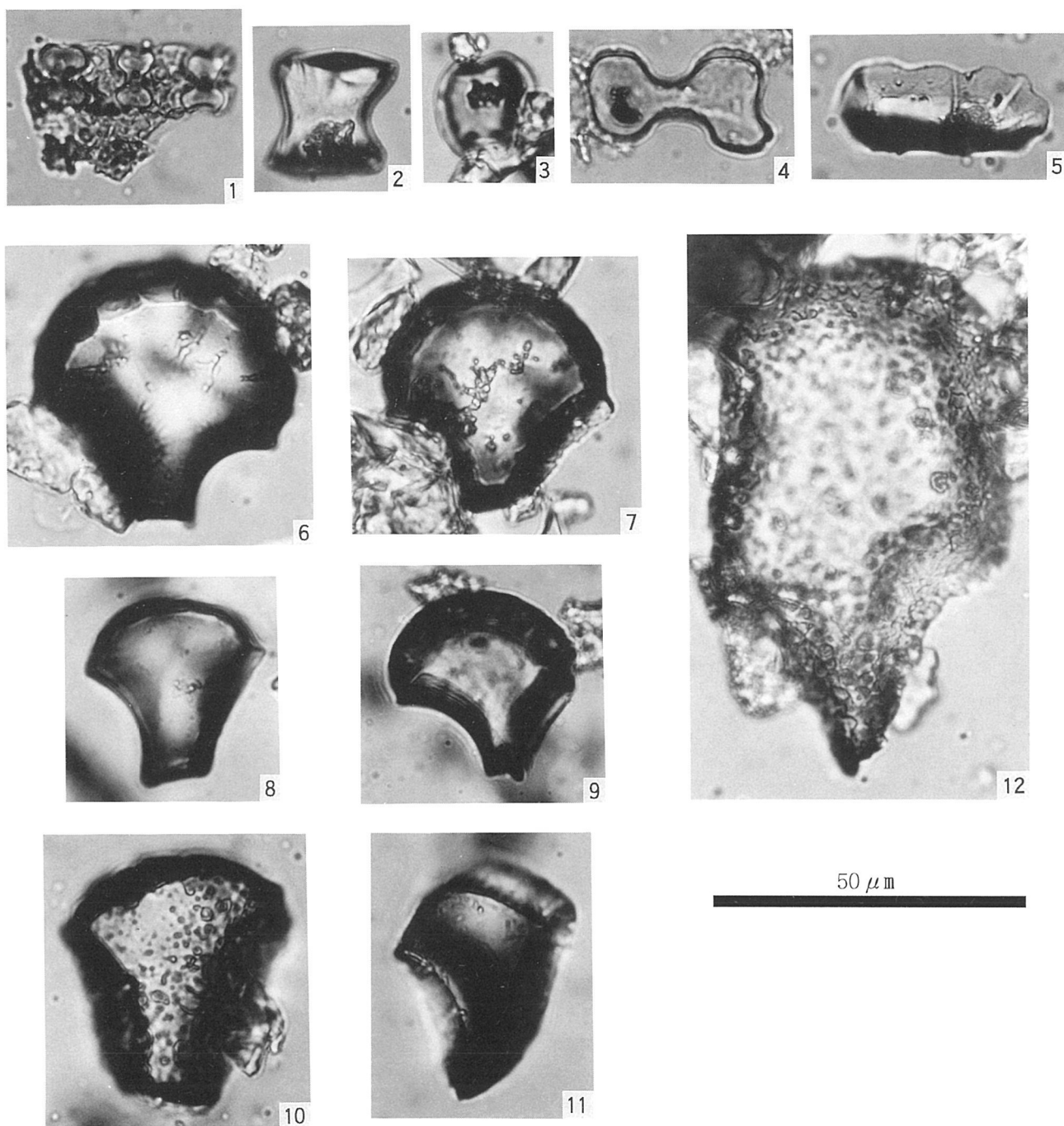
- 1. モミ属(4Bトレンチ;7)
- 3. マツ属(4Bトレンチ;1)
- 5. 他のイネ科(4Bトレンチ;7)
- 7. アカガシ亜属(4Bトレンチ;7)

- 2. ツガ属(4Bトレンチ;7)
- 4. イネ属(4Bトレンチ;7)
- 6. スギ属(4Bトレンチ;7)



- 8. ニレ属-ケヤキ属(4Bトレンチ;7)
- 10. オミナエシ属(4Bトレンチ;7)
- 12. シイノキ属(4Bトレンチ;7)
- 14. ヤマモモ属(4Bトレンチ;7)

- 9. コウヤマキ属(4Bトレンチ;7)
- 11. ソバ属(4Bトレンチ;7)
- 13. モチノキ属(4Bトレンチ;7)
- 15. コナラ亜属(4Bトレンチ;7)



- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体(4Bトレンチ;3) | 2. タケ亜科短細胞珪酸体(4Bトレンチ;7) |
| 3. ヨシ属短細胞珪酸体(4Bトレンチ;7) | 4. ススキ属短細胞珪酸体(4Bトレンチ;7) |
| 5. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(4Bトレンチ;5) | 6. イネ属機動細胞珪酸体(4Bトレンチ;5) |
| 7. イネ属機動細胞珪酸体(4Bトレンチ;7) | 8. イネ属機動細胞列(4Bトレンチ;3) |
| 9. イネ属機動細胞珪酸体(4Bトレンチ;2) | 10. タケ亜科機動細胞珪酸体(4Bトレンチ;7) |
| 11. ウシクサ族機動細胞珪酸体(4Bトレンチ;7) | 12. ヨシ属機動細胞珪酸体(4Bトレンチ;7) |